

歴史の告白書

アメリカの戦争犯罪に対する北ベトナムからの報告

ベトナムにおける戦争犯罪調査日本委員会編



歴史の告白書

アメリカの戦争犯罪に対する北ベトナムからの報告

ベトナムにおける戦争犯罪調査日本委員会編



本報告書の発刊にさいして

——ベトナム民主共和国フアム・バン・ドン首相から

日本人民へのメッセージ

一九六六年一月七日、アメリカの戦争犯罪調査委員会々長（厚生大臣）フアム・ゴック・タック博士より、兄弟的日本人民がアメリカ帝国主義のベトナムにおける侵略戦争と野蛮な戦争犯罪に反対するたたかいを強く推進していることをききました。全ベトナム人民を代表し、また私個人として、ベトナム人民の反米救国のたたかいにたいする日本人民の熱烈なる支持と兄弟的な援助に心から御礼申し上げます。

われわれは日本人民のアメリカ帝国主義と国内反動勢力にたいする英雄的なたたかいが大きな勝利をかちとり、独立、民主、平和と繁栄の日本を建設されることを祈ります。

ベトナムにおけるアメリカの戦争犯罪調査日本委員会がこの電文を公表するものです。

一九六六年一月七日　ハノイにて

ベトナム民主共和国首相

フアム・バン・ドン

心からの親愛なあいさつをこめて

——ホー・チ・ミン大統領からバートランド・ラッセル提唱の戦争犯罪
国際法廷に関する準備会（六六・一一・二三—一六ロンドン）あての電文

アメリカの戦争犯罪人を糾弾するために、戦争犯罪国際法廷の開催を促進しつつあるあなた方のイニシアテイヴにたいして、祝意を表します。

アメリカ帝国主義者たちは、ベトナムの民族的独立と平和をくつがえす戦争を拡大しつつあります。かれらはヒトラー・フアスチストによって犯された犯罪よりも、さらにもっと醜悪な数々の凶暴行為と罪悪を犯しつつあります。

国際法廷は、これらの犯罪を糾弾することによって、アメリカ侵略者に反対する世界的な憤りを促進するでありましょうし、また全世界すべての国ぐにの人民のあいだに、抗議運動をつよめて、このような犯罪的戦争をやめさせ、アメリカ合衆国とその手先きの軍隊をベトナムから撤退させる要求をひろがらせるであります。

したがって国際法廷は、正義と人民の民族自決の権利のために、世界的規模において重要さをもつ行動であります。

国際法廷は、人道と世界平和にたいする最大の敵、アメリカ帝国主義に反対する、世界の人びとの良心をめざませるに貢献するでしょう。

わがベトナム人民は、最後の勝利をかちとるまで闘う決意をもっております。

われわれは、あなた方の高貴なイニシアティブを高く尊重し、心の底から完全な支持を送るものであります。ここに、われわれは熱烈な感謝の意を表明し、わが友人たちと国際法廷の諸メンバーにたいし、真心こめたあいさつをのべ、そしてこの法廷の事業が一大成功にすすむように、ねがうものであります。

心からの親愛なあいさつをこめて

一九六六年十一月二日

ベトナム民主共和国大統領

ホー・チ・ミン

本報告書の発刊にさいして

— 日本人民へのメッセージ

フアム・バン・ドン

1

心からの親愛なあいさつをこめて

ホー・チ・ミン

2

現代の罪と罰

沼田稻次郎

8

良心の審判

宗像 誠也

12

国際法無視の犯罪行為

平野義太郎

17

第一章 ベトナムにおけるアメリカの戦争犯罪

30

第二章 ベトナム民主共和国に対するアメリカの空の破壊戦争

54

第三章 ベトナム民主共和国の学校に対するアメリカ侵略者の犯罪

75

第四章

ベトナム民主共和国の保健施設に対する
アメリカ侵略者の恐るべき犯罪

102

第五章

ナムジン市におけるアメリカの戦争犯罪

120

ベトナムにたいするアメリカの侵略戦争犯罪を告発する

ベトナム法律家協会
日本国際法律家連絡協会

共同声明

135

付録

- 1 一九六四年八月五日から一九六六年九月までにアメリカ空軍の爆撃を受けたベトナム民主共和国の学校の一覧表
- 2 南ベトナムにおける爆撃およびテロ的襲撃
- 3 化学戦
- 4 西方各紙からの抜粋
- 5 北ベトナムにたいする破壊
- 6 アメリカおよび世界の意見
- 7 二 三の国際条約

歴史と人類は告発する



沼田稲次郎

パートランド・ラッセル博士が自由と社会正義に関心をいだく一人として、アメリカ市民に対して行なったアツピールには心を動かす迫力がある。「自由のための戦場はワシントンにあります。合衆国とその市民の品位をおとした戦争犯罪人——ジョンソン、ラスクおよびマクナマラに対するたたかいの中にあります」と訴える言葉は、日本人である私の魂をもゆり動かす。「自由のための戦場は東京にあります」ときこえてならない。アメリカ帝国主義のベトナム侵略の後方基地を提供している日本の戦争犯罪従犯者たちとの闘い——それは主犯たるアメリカ帝国主義に対する闘いでもある——のなかに日本の人民の世界史的な使命が存しているのである。その闘いを通してのみわれわれは世界法廷において訴追者となる資格をゆるされるのであろう。

日本の人民の五十歳前後から上の年代者は、軍閥、ファシスト、独占資本のひきおこした満州事変以後の侵略戦争をどの段階においても無抵抗に見送ってしまったことに悔恨を感じ、アジアの被侵略国に対していつか償わねばならぬ負いめを意識している筈である。

ベトナム人民に対するアメリカ軍の言語に絶する残酷非道の暴行はまぎれもない犯罪であり、ベトナム民主共和国に対する無頼漢的無法な空爆と人民の殺傷も国際法廷によって罰せられるに値する攻撃にほかならぬ。このアメリカ帝国主義の悪魔の業に対する怒りと憤りとがむらむらと湧きおこらないとすれば、それは自らが悪魔の族であるからだ。人類の一人として、人間として、この戦争犯罪は裁かるべきだ、いな人間が自らの手によつて

現代の罪と罰

それを裁くべき法廷を国際的に創立すべきだと叫ばずにいられない。そしていまその法廷が創設せられつつあるのだ。戦犯裁判は現行犯についてなされた方がよい。

アメリカ帝国主義国家の強力な侵略軍に対するベトナム人民の英雄的戦闘は感激と胸をしめつけられる思いとを私に与えている。この抵抗と苦闘の貴重さは限りないものだ。民族としてその独立と自由のために死を賭すベトナム人民の偉大なたかいを支援すること自体が、人類にとって絶対的に価値ある活動でなければならぬ。その意義を世界が自覚することによって二十世紀の世界は永遠の生命をもつ。ベトナム人民のたかいを支援して独立と自由とを勝利せしめ正義の貫徹を実証しうるかどうか、いま二十世紀の人類の良心に課せられた実践的課題でなければならぬ。そして私は、それが実現せられうる課題だと信じている。何故ならば、それは世界的に必然なるものを自覚することによって自主的に、つまり自由に自からに課したものであり、それによって歴史の迂路をちぢめ、人類発展の歩度を早めようとする意味をもつものだからである。ベトナム人民の反帝独立の死闘を支援——それ自体が闘争を避けがたいことだ——する世界的な活動に積極的に参加することは、五十歳年代の日本人にとって、またその一人である私にとっても、過去の無抵抗の負い目を償うチャンスであると思われるのだ。

アメリカ帝国主義国家の支配階級の戦争犯罪は実は今にはじまったことではない。第二

次大戦において日本の降伏が必至であり、本土上空は完全にアメリカ空軍に支配されていた段階において、日本の無辜の人民の頭上に——太平洋上でも瀬戸内海の上でもなく、まさに広島、長崎の両都市の上空で——原爆を投下したのはアメリカ軍であり、トルーマン大統領がそれを許したのである。戦後日本の戦争犯罪者は文明と正義の名において訴追せられた。それはそれでよいことだ。戦争や侵略の犯罪性を明確ならしめて好戦的な支配者たちに警告し、さらには戦争といえども個人の非人道的な行為の犯罪性を阻却せず個人の責任を阻却しないことを国際法廷が明示し、歴史的文書に刻みこんだということは、それによって人類社会が平和を確立することができるならば良いことである。それはフアシズム戦争にこりごりした人類の良心と知慧とが見出した平和と正義を守る国際政治的な方途であったといえよう。だが、戦後の国際法廷は、アメリカの犯した無抵抗の人民に対するジエノサイドの罪という最大の戦争犯罪について、犯罪責任者を訴追するという正義と衡平との府たるべき法廷にとって最も重要な責任を果さないでおわったのである。もとより真珠湾の不法爆撃や侵略戦争によって手のよごれた日本の支配階級はその不公平と反正義とについて国際法廷を責める資格はなかったかもしれない。だが、日本の人民にはその資格があつたのであり、いまもあるのである。

ベトナムにおけるアメリカの戦争犯罪を訴追する国際法廷がいま準備されつつある。この法廷は世界で最強の軍事力と経済力とを有する帝国主義国家の大統領をも含めて被告席

に立たせようとする法廷なのである。それは、いわゆる「力の裁き」の性格を払拭して、正義と人道と平和と自由と独立と、つまり人類が数千年の歴史のなかでみがきあげてきた至上の価値の視点に立つ裁きを行なうに値する法廷でなければならぬ。もとより力の存しないところに裁きはありえない。だが、その力は価値に対立して語られる力ではなくて、価値を志向する世界各国の人民の力であり、武装なき力である。いいかえれば世界史を貫く理性的なるものあるいは必然的なるものの世界的自覚の力にほかならないのである。このような国際法廷によって下される断罪こそ、いふなれば神の裁きである。永遠にゆるされることのない——再評価されることのない——そういう最終の裁判がそこでは下されることになる。

直視に堪えがたい写真の示しているように、ベトナム人民に対する残酷な殺りく虐待無暴極まる爆撃など、人間を虫けらのようにふみつぶすアメリカ侵略軍のやり方というものは、果たして帝国主義的侵略にとって不可避の宿命なのであるか。ヒットラーのアウシユビッツは彼の狂気のみ帰せられようか。ヒットラー以上といわれるアメリカ侵略軍の暴虐残虐はアメリカ帝国主義の狂気に憑かれた支配階級とその代弁者たる政治家軍人の狂気なのであるか。もし人間を虫けらのように殺すことが帝国主義の宿命的狂気だとすれば、人類は帝国主義を吊り去るほかはあるまい。そして地上から帝国主義が消失するまで、この国際的戦犯法廷は常設せられねばなるまい。

也 誠 像 宗

ジェノサイド（種族殺——種族根絶やし）という恐ろしいことがある。アメリカのベトナム爆撃が、学校を狙い打ちしているのだと知ると、この恐ろしいことは、教育研究者である私には、ひしひしと実感をもって迫って来る。

『黒書』は、一九六四年八月五日、北爆開始のその最初の日から学校の爆撃が始まったことを報じ、それ以後いかに多くの学校が空襲され、いかに多くの若い生命が奪われたかを報じている。ことに注意を惹くのは、学校の空襲が授業中を狙って行なわれるということであり、軍事・経済的目標物から遠い所に学校が疎開して、やれこれで勉強にはげむことができると思っている矢先、そこを狙い打ちされた事例も報告されている。

一九六六年一〇月三日から六日まで、ストックホルムで開かれた国際民婦連主催の「子どもを守る世界会議」での、南北ベトナムの母親代表の報告は、母親の発言であるだけにきわめて強い印象を与える。北ベトナム代表、ベトナム婦人同盟執行委員ファン・ティ・アン夫人はいつている。

野蛮な爆撃で子どもたちが消え去ることは、わたしたち、ベトナムの母親にとって、なんと苦しいことでしょう。わたしたちが胎内にはぐくみ、やしない、配慮と愛情をもって育てた子どもたち、わたしたちのいちばん大切な宝、その片言、歌、笑いがわたしたちの日々の喜びだった子どもたちを、アメリカの爆弾が焼き、打ちくだき、廢墟の下に埋めているのです。……子どもたちは、アメリカの爆弾に殺されない場合で

良心の審判

も、手足をもぎとられます。一生、不具者または廢疾者となったことを知らない不幸な子どもたちは、「ぼくの足また生えるの？」ときくことをやめないのです。

南ベトナム代表、南ベトナム母と子を守る会指導委員会委員グエン・カーン・フォン夫人の報告は、もつと痛ましい事例に満ちている。

……両親が殺されたために数万の子どもたちが孤児となり、愛情とよりどころをうばわれて、放浪と貧困の生活を送っています。ソクチャン省のただ一つの部落で五九四人の小さな孤児がいます。この世に生を受けるや否や、子どもたちは、この世でもっとも大きな苦痛によってそのやわらかい心をきずつけられています。「どうしてほかの子はおとうちゃんとおかあちゃんがいるのに、ぼくにはいないの？」このすなおな質問に、何回となく、わたしたちの父親として、母親として、教師としての心は、ひきさかれたことでしょう。

……子どもたちは、もつとも非道なやり方で殺されています。首を切られ、生き埋めにされ、八つ裂きにされ、そして炎のなかに投げこまれ、ある者は胎児の状態で殺されています。

……五人はナバーム弾を浴びて、生きながらのたいまつのように燃えだしました。かれらは、おそろしい叫び声をあげて、家の方に走りだしました。「おとうちゃん、おかあちゃん、たすけてえ。あついよう」。

……どんな母親にしても、自分のこの世に産きおとしたおさない者が、いま、致死性ガスにあてられて、苦肉のケイレンのなかでのたうちまわるのを見て、心臓が苦惱によってひきさかれると同時に、侵略者にたいする憤怒によってかきたてられるのを感ぜない者があるでしょうか。

学校の狙い打ちは、恐らく、この南ベトナム代表がいうように、つぎのような目的で行なわれるのだろう。

どんなにたくさんの学校が、アメリカ空軍の爆撃目標となったことでしよう。かれらは、わたしたちがもっとも大切に思っているもの、すなわち、わたしたちのこどもを攻撃することによって、わたしたちの戦意をくじくという目的でこれをおこなうのです。

しかし、南北とも代表が語っているが、これによってひるむのとは反対に、いよいよ暴虐に対する戦意は高まるのみであり、こどもらもまた、能うかぎりの方法で、侵略者に対する戦闘に参加している。

こどもを守る世界会議は、その参加国の構成やその運営に多くの問題を残したといわれながらも、さすがにベトナムの問題については満場一致でアピールを採択した。そこではこういわれている。

ジョンソン政府がおしすすめているこの犯罪的な戦争に反対し、あらゆる行動をも

って、それを支援しているものに反対する全世界の抗議をまきおこすために団結しましょう。かれらの残酷さを糾弾しましょう。

さてこのアピールの一節に「自分たちの国内に、ベトナム侵略の基地をおくことに反対してたたかきましょう」とある。これこそ日本の問題である。日本の労働者はストライキで戦いの火蓋を切った一〇・二一は、重大な日であった。そのストの中心勢力であった教員組合に対して弾圧が加えられつつあり、東京都・佐賀県などの教組の幹部は逮捕されている。その範囲は拡がり、日教組全体に及んでいる。労働組合への支援・激励の方法はいろいろあるだろうが、なるべく広く国民に、アメリカ侵略者の残虐の実態を知らせ、非人道を憤る国民の正義感を振り起こすことも、その基本的な一方法であろう。

日本は原爆を被むった。被爆の苦しみは今日なお消えない。日本は無差別爆撃で多くの都市を焼かれ、学校もたくさん焼けた。しかし思えば日本は学校の狙い打ちは受けなかったのではないか。日本には相当な戦力があつた。しかもアメリカとの戦争は真珠湾攻撃で始まったのだ。ベトナムの場合はどうか。ベトナムにはアメリカを脅かすようなものはない。侵略者に対する必死の抵抗はあるが、しかし圧倒的なアメリカの戦力は、自由とその攻撃目標を選ぶことができる。いわば赤子の手をひねるようになって、実際赤子やこどもを殺しているのである。幼稚園や学校を狙い打ちすることによって、ベトナムにおけるアメリカの無差別爆撃は、意識的無差別爆撃なのである。

私は、バートランド・ラッセルの戦犯裁判の企図を知ったときから、それに強力に惹きつけられ、それに呼応する戦犯調査日本委員会にも、できるかぎりの協力・努力をしなければならぬと思つてやつてきた。健康さえ許せばベトナム調査団にも加わりたいと思つたのだ。沖縄はベトナム侵略の基地である。日本はベトナム侵略の弾薬や軍需物資を作っている。日本はジェノサイドの片棒をかついでいるといわれても仕方がないのだ。

平野義太郎

ニッツ米海軍長官は、日米帝国主義戦争の発端、真珠湾攻撃二十五周年記念の講演で（ハワイ・六六・二二・八）、アメリカはこの帝国戦争の延長を、いま、東南アジア（ベトナム）で適用しつつあることをのべた。——これは、そのときよりも（兇悪さで）強大になったアメリカ帝国主義が、その新植民地侵略の帝国主義戦争を、いま東南アジアで行なっていることを語ったばかりではなく、当時、日本軍国主義が中国・ベトナムはじめアジアで行なった「三光政策」（殺しつくし、奪いつくし、焼きつくす）を、うけつぎ、さらに、それいらい発達させてきた新科学兵器をもとり入れた兇暴無比の新植民地侵略戦争、前代未聞の惨虐な戦争を行ないつつあることを思わずのべたものである。

ニッツ米海軍長官は、また、当時の太平洋戦争は、国際法と平和を破った日本軍国主義と闘ったものであることを語ったのであるが、それは、二十五年たった第二次世界戦争後のアメリカ帝国主義は、ヒトラー＝ナチズム、日本軍国主義すらもやりえなかった国際法じゅうりんの侵略＝戦争犯罪を犯しつつあることを、わざと隠そうとしたものである。

わたくしは、六六年十月、ベトナム民主共和国ハノイ市、市の郊外、九八キロ南にあるナムディン市における米空軍盲撃の現場を調査し、教育省・厚生省・水利施設省の各担当官や被害者より事実を聴取したのであるが、いずれのばあいにも、故意に、病院・療養所・幼稚園・託児所・小中学校・高等学校・仏寺・キリスト教会・ダム・堤防などを狙いうちに行っている事実を確認した。それらの正確な事実を、本書が詳しく、これをのべている

国際法無視の犯罪行為

とおりである。

クイン・ラップのハンセン氏病療養所の爆撃については、日本人に周知するところである。毎日新聞の大森実氏がこれを報じたところ、前米駐日大使ライシャワーが誤報であると、毎日新聞にまっかなウソの横槍を入れ、大森氏は、毎日新聞の外信部長だけでなく、社そのものから退社を命ぜられたのであった。わたくしが調査したところによると、クイン・ラップのライ療養所爆撃のまえに、米空軍はこれを偵察し、病院であることを確認している。そして、病院の屋根の上には、病院であることを明示するために赤十字の旗を掲揚してあった。米軍はこの赤十字の旗めがけて、この病院を爆撃した。しかも、一回ならず二回ならず、驚くなかれ連続して、三十九回も、この病院を狙いうちに爆撃したのである。

なぜ、学校を狙いうちに爆撃し、幼い子供を殺すのか——わたくしは日本にいたときには、信じがたかった。しかし、ル・メイ米前空軍参謀長のいうとおり、学校は子供に愛国心を教えるから、学校こそベトコンの温床である以上、学校をつぶさねばならないという学校を狙いうち——無差別爆撃というよりも——するのが残酷な新植民地戦争侵略者の軍事目標となるものである。

米空軍参謀長P・マクコンネルは、兇悪無比の無差別爆撃を指令しているばかりでなく、USニュース・エンド・ワールド・レポート(六六・五・九)にかいてさえている。

「軍事目標をみつけて爆撃する努力をするよりも、盲爆する機会をとる方が多効果

的である」と。いいかえれば、「無差別爆撃をする方が、軍事目標を狙いうちする爆撃で目標をみつけることができないよりも効果的だ」というのである。

かくして、米軍は病院・学校・教会・市場・無防備の村落や都市を爆撃し、非武装の婦人や子供を狙いうちに虐殺しつつあるのである。

したがって、ここでは米軍は国際法をじゅうりんしているというだけではなく、それらは、国際法の適用をこのベトナムでは否定しているのである。

ここで、「反共新植民侵略戦争と人民戦争との対決における兇悪無比の大量殺人兵器（毒ガスやクワ・オエ弾など）すなわち国際法否定の、鋭く深刻な戦争の様相が現出する。

J・H・ロスチャイルド准将著「明日の兵器」の第六章「特殊戦争と毒物兵器」はギリラ掃討作戦とギリラ戦について、こうかいている。

ギリラ掃討軍の任務は、どこからともなく突然あらわれ、正常な作戦を妨害し、それから、すぐと姿をくらます敵と闘うことである。これらの姿なき妖怪軍との交戦では、化学・生物学兵器の余地はほとんどない。しかしながら、ギリラ軍にたいする全面的な戦闘ではそうではない。

有毒物は、おもにギリラの根拠地にたいする攻撃で使用される……。

これらの根拠地をセンメツする最良の方法は、有毒物の使用によるものであろう。もし根拠地を正確につきとめることができない場合には、確実に根拠地を包含する広

はんな地域にわたって、生物学薬剤を放出することができる。目標の人口数いかによって致死性が無能力化の薬剤を空から投下することが、もっとも効果的であろう。もし根拠地が比較的正確につきとめられ、ゲリラ軍によってのみ占有されている場合には、神経ガスが一つの可能性である。飛行機につんだ噴霧タンクからの散布が望ましい方法である。

ゲリラの根拠地の全般的な地域で病毒を媒介する昆虫、とくに翼のない虫の種類は、遠くにゆかず、かなり長期にわたって同一場所に棲息するであろう。病毒を媒介する昆虫は、ゲリラの人力をたえず消耗させることができる。

もしもゲリラが根拠地に補給品を運搬するために動物を使っている場合には、動物を有毒の生物学薬剤の使用で、その運搬作業を妨害することができる。

出入の山道を空から見分けることができ、また葉の遮蔽が、それほど大きくない場合には山道を行き来するものに、危害を加えるため、飛行機から散布するV型神経ガスを使うことができる。

待ち伏せの軍隊にたいしては、銃榴弾から発する刺戟剤CSへクロルベンジル・マロノトリル、催涙性、目鼻を刺戟し嘔吐させるVでさえ有益であろう。というのは、敵は目を開けていることができなくなるので、CSの煙のなかで防毒マスクをつけずには射撃をつづけることができなくなるからである。

ゲリラ掃討軍は、作物をだめにする薬剤がゲリラの食糧の補給源をたつのに役立つことを知るであろう。作物を急速に枯らす作物枯死の化学薬剤がもつとも有効である」。

* 日本平和委員会「平和運動資料」第二九〇号、六六・一〇・一五。

しかしながら、さいきんの国連総会は、いつもアメリカのあやつる投票機械であっても、アメリカの毒ガス戦争については——世界人民大衆の激しい怒りに押されて——だまっていることができなくなった。

国連総会は十二月五日、一九二五年の毒ガスおよび化学兵器・細菌兵器の禁止にかんするジュネーブ議定書を厳格に守るように全世界に呼びかける決議を行なった。投票結果は賛成九十一、反対なし、棄権四（朝日、六六・一二・六）。

ベトナムにおけるアメリカの戦争犯罪調査日本委員会は十二月より新年にかけて、ハノイに調査団をおくり、犯罪事実の調査に奔走している。

バートランド・ラッセル卿提唱のアメリカの戦争犯罪を審判する「国際法廷」も調査団をおくり、犯罪事実を調査のうえ来る三月に国際法廷をヨーロッパ（パリ）でひらこうとしている。

ラッセルのいうとおり、この犯罪について沈黙していること自体、犯罪に協力することになる。したがって、世界の良心あるすべての人びとは、正義と平和と人道のため、この

戦争犯罪を告発し糾断し、ベトナム民族の主権、独立平和、統一の基本的権利を擁護せねばならない。

なお国際法による非人道的兵器・無差別爆撃の禁止、文民の殺りく、虐待・拷問・報復の禁止および戦争犯罪の観念につき、平野「アメリカの人道と国際法をじゅうりんする戦争犯罪」・「アメリカの戦争犯罪を告発するベトナム黒書」（労働旬報社、一九六六年）を参照。

アメリカ侵略者の戦争犯罪



強盜的北爆を生みだしたもの

——それは南における残虐な支配のすべての敗北だった



バリケードに包まれた自由と平和と生活の安定? …戦略村は子どもから笑顔をうばう



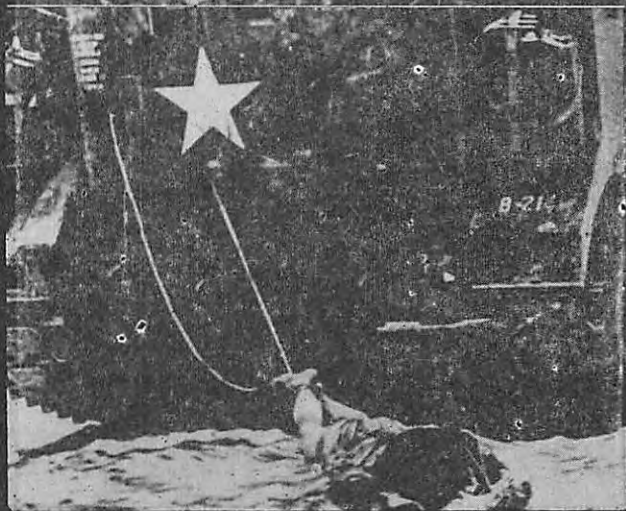
上 拷問—左眼に棒をつき刺す
下 拷問で左眼をえぐられたレ・バン・ラム氏



青年も母も子も父も一連続的無差別爆撃の犠牲者

毒物で失神した農民





上 吊しせめ
下 愛国者を装甲車にくくりつけ疾走して殺す



乳房をえぐりとりハラワタをとりだす

第一章 ベトナムにおけるアメリカの戦争犯罪

アメリカから八〇〇〇マイルもはなれた南ベトナムで、三二万の遠征軍が韓国軍約四万、オーストラリア、ニュージーランド、フィリピン、タイ諸国軍の援助をうけ、三四〇〇台の飛行機・ヘリコプター、二〇〇〇台の重砲、数千台の装甲車で作戦をおこなっている。第七艦隊と南ベトナム・タイの基地から発進して、アメリカ空軍は、南北ベトナムに夜も昼も爆弾の雨をふりそそいでいる。大国が小国にたいしてこれほど残忍かつ悪質な侵略をおこなったことは、これまでにないことである。

かつてこれほど野蛮にたたかわれた戦争はない。それがヒトラーの犯罪を想起させることは、すべての観察者が一致してみとめるところである。

1 非戦闘員の大虐殺

一九六六年四月、アメリカのマクナマラ国防長官は上院で議員たちにこたえて、アメリカの爆弾製造が戦争の要求に應えているかどうか疑わしい、とのべ、また、一九六六年の空爆用爆弾の生産は一〇〇万トンにたっし、うち六三万八〇〇トンが同年中にベトナムに落とされることになるう、と明言した。一九六五年の数字は二五万トンだった。六月中だけで六万一〇〇〇トンの爆弾がベトナムにそそがれ、七月には九万一〇〇〇トンになった。アメリカのAP通信によると、マクナマラはさらに一九六六年後半の毎月平均は第二次世界戦争中は全欧州とアフリカに落とされた爆弾の量をこえると言明した。

こうした空爆のほかにもわれわれは、重砲および超高速砲、それに第七艦隊諸部隊による勝手放題な村落の砲撃があることを指摘しなければならない。ロイター通信は一九六六年二月十一日、一カ月間にアメリカ軍が南ベトナムで発射した量を次のように報じた――

あらゆる口径の弾丸一〇億発

航空機用機関銃弾八八〇〇万発

臼砲弾一〇〇〇万発

ロケット弾四八〇万発

サイゴンからおよそ二五マイルのチューチ地区だけで、一九六六年一月から二月までの間にアメリカ砲兵隊は一八万発を発射した。

とくに注目を要するのはグアム基地のB52超爆撃機で、一機二〇トンづつの爆弾を積んで、地方のじゅうたん爆撃で完全破壊をめざしている。UPI通信によると、B52は一九六六年九月十四日、五〇〇〇回の出撃で総計約一〇万トンの爆弾を落とした。

このような火と鉄との大雨は、なにか具体的な軍事目標に落されているのではなく、主として村落に落とされているのだ。航空写真か何かがほんのちよつとした情報か手掛りをしめすと、空軍は行動をおこし、随時砲兵と作戦を調整しつつ、「ベトコン」が隠れていると想定する村々を系統的に破壊する。だが、全人民が侵入者に抵抗して起ちあがっているのに、南ベトナムで住民のあいだに「ベトコン」がない村がどこにあるか？

この戦争を報じているすべての西側記者が一致してみとめるところだが、この戦争は、アメリカの指揮が強まるにつれて、主として一般住民を攻撃するようになっていく。一千でもあげられる実例のうち、二つ三つだけをあげておこう。『マッチ』誌一九六五年十月二日号でラルテギーは、高原地帯のドゥッコ近傍で一万七〇〇〇人の難民のめんどうをみたキュリアンの話を書いている――

「村には婦人、子供、老人のほかはだれもいなかった。いまではこの地域には何一つ残っておらず、すべて破壊しつくされている。私は自分の信徒たちがナバームの焰のなかで焼かれるのを見てきた。

私は、子供や女たちのからだに爆弾でバラバラにされるのを見てきた。私は私たちのすべての村々が平らな空地にされるのを見てきた。

とりわけ残忍なのは、文字通り火の海をつくるナパームの使用で、女、老人、子供が字義通りにロースト（火あぶり）されるのだ。やっと生き残ったものも、ひどいやケドをうける。ナパームがこれほど大規模につかわれたのは、初めてのことだ。砲爆撃がすむとアメリカ軍は、村々のあとしまつをし、残ったものを破壊し、住民が隠れていた地下壕をふっとばし、稲束に火をつけ、婦人に暴行し、住民を逮捕し、拷問にかけ、殺害する。アメリカのAP通信は、サイゴンから約三〇キロでアメリカ落下傘部隊がやった「マローダー」作戦（略奪者作戦）について以下のように描写している――

「東洋的なヴァンコー河以南の集約的に耕作されたゆたかな平地が、焼土作戦の主目標である。落下傘部隊陣地の二マイル以内は、馬一匹生き残っていなかった。断えまない砲爆撃で、すべての家は瓦礫と化していた。部隊が出あったすべての家は焼けおちた。あらゆる炊事用具は粉々にされ、バナナの木はすべて切り倒され、すべてのフトンは切断された。

「焼きつくせ、殺しつくせ、破壊しつくせ」政策がこれである。アメリカ支配地域以外の多くの土地では、空軍が少しでも動いているすべてのものを爆撃し、掃射する。農民はもう畑で耕作することも、料理することも（煙が爆撃をよびよせるので）、道路や河をゆくこともできなくなっている。アメリカ司令部もときどきはそうした犯罪をみとめざるをえなくなっている。一九六六年九月十四日、リエンホイの第一および第二の二つの村がアメリカ軍によって潰滅させられた。翌日、サイゴンのアメリカ

カ軍司令部はその事実を否定したが、NBC放送のテレビがうつした録画とUPI記者のくわしい記事のためにアメリカ軍スポークスマンは、二つの村を破壊したのがじつはアメリカ航空機動第一騎兵師団の第一大隊であることをみとめざるをえなくなり、その根拠を左のようにのべた――

「この二つの村は、第一騎兵師団にとっては危険な存在となっている。わが国兵士は、敵が村を利用できないようにするため焼きつくしたのである。」

そういう論理からすれば、南ベトナムではどの村でもアメリカ侵入者にとって危険となっていることは明らかである、なぜなら、「敵」は人民の全体であるからである。アメリカ支配者はベトナム人民への同情を口にしてゐる。アメリカ兵たちは子供たちに菓子をくばり、アメリカ人医師はナパームで焼かれた人びとの手当てまでする。こういった偽善はすべて、軍事作戦で非戦闘員に危害を及ぼすことを厳禁しているすべての国際協定、すべての国際的論理を完全に蹂躪して怖るべき戦争がおこなわれていることを証明するだけである。

南ベトナムでは夜も昼も、アメリカ軍の空砲爆で、すべての村が焼かれ、破壊されている。住民たちは生活手段をうばわれ、すべての財産を失って、地下壕でくらし、耕地を夜間にたがやさなければならなくなっている。しかし夜間もアメリカ航空機は、広大な地域にわたって照明弾で人間のいる徴候を見つけたそうとする。それはアメリカ遠征軍の敗北がひどくなるにつれて、全人民を敵として残虐さをまじつつ戦われている非道無比の戦争である。現在のところ、犠牲者、破壊・焼却された村や

住居の全貌をあげることは困難だが、アメリカ当局の発表した次のような途方もない数字をあげるだけでも十分であろう——すなわち、スイスと同じくらいの大きさの南ベトナムに毎月ロケット数百万発、無数のナバームと黄燐爆弾をあげるだけで、この犯罪の規模はわかるのである。

*

*

*

アメリカの支配地域にくらしている一般住民は、こうした残虐非道から免れているか？ とりわけ残酷な抑圧が占領地域を支配しており、ゴー・ディンジェム時代には「戦略村」とよばれ、いまは「新生活村」という新しいレットテルで呼ばれている強制収容所に住民を追いこんでいるのだ。

アメリカ顧問団は一九五四年から六三年まではゴー・ディンジェム政権をつうじて、事実上いっさいの反対派を禁止してしまう典型的なファシスト政権をつくりあげていた。一九四五年から五四年までフランス植民主義に反対して解放戦争に参加したすべての人びと、国の再統一のために普通選挙をやるよう主張した人びと、自分の土地が地主に強奪されるのに抵抗した農民、賃上げを要求した労働者、アメリカ映画による民族文化の墮落に抗議した知識人、アメリカ商品の国内市場荒らしに不平をもちしたブルジョアたち、こういう人たちはすべて「ベトコン」（共産主義者）として非難され、したがってどんなひどい拷問をうけても仕方がないとされた。

ジエムの失脚後、新しい法令は「共産主義者」ばかりか、「中立主義者」も非合法にしてしまった。拷問、略式処刑はつづいており、一九六四年十月十五日の青年電気技師グエン・ヴァンチョイの処刑

につづく多くの人びとの処刑は、まだ全世界の記憶するところである。牢獄、刑務所では、逮捕者たちは裁判もなしに何年も放っておかれる。捕虜なみのあつかいで、テロリストの攻撃中にでたらめに捕えられた何でもない一般人が極度の野蛮さにさらされることも、ごく当り前のことになっている。

アメリカ兵が支配の保持に成功したところでは、住民を「新生活村」に追いこんでいく努力がつづいている。だれもが知っているように、その意味するところはこうだ——農民は有刺鉄線の囲いに集団で追いこまれ、外出することも三人以上集まることも禁止される。全食糧をおさえている当局は、各世帯に一日ずつそれを配給し、往来や訪問、日常雑務まで嚴重に毎日監視するのである。サイゴンの巡查や拷問係りが、毎日こうした村に恐怖をまきちらしている。こんにちでは、こうした戦略村の大半は、何百万の人びとのねばり強い英雄的闘争によって破棄されてしまっている。そこでアメリカは残酷にも、解放された村を爆砕している。

一九五四年から六五年までに犠牲になったその数は次の通り——

殺されたもの

一七万人

負傷または拷問による不具

八〇万人

牢獄・刑務所に収監されたもの

四〇万人

強制収容所に追いこめられたもの

五〇〇万人

現在、国土のわずか五分の一がアメリカの支配下にあるだけだが、同じ方法がつづいている。アメ

2 化学戦

リカの軍事的、政治的な政策は、本質的には一般住民全体にむけられているのである。

一九六一年以来、米軍司令部は南ベトナムにおいてヒトラーですら用いなかったような手段に訴えてきている。すなわち化学戦が日増しに規模を拡大して実施されているのである。公式的には樹葉を枯らすことを目的とした「落葉剤」のみが使用されている、と主張されている。しかし、一九六一年以来多くの米紙は、使用される化学物質が「水田を黄色に変え、あらゆる作物を枯らしている」こと（『ニューズウィーク』一九六一年十一月二七日付）そして「あらゆる補給源から共産主義者を遮断する計画において重要な役割を演じているにちがいない」こと（『ニューヨーク・タイムズ』一九六二年一月二二日付）を明るみに出している。そのねらうところは明らかである。米軍およびかいらい軍がある地域を征圧できないとき、住民を飢餓によって降伏させるためにすべての作物を枯らさなければならぬのである。たとえば、ベントレ省のように一地域全体に各種の有害化学物質が散布され、そのため作物が枯れたばかりでなく、多数の住民の中毒症が発生した。米軍機が通過したあと、いたるところに同じような荒廃した場面がみられた。稲は枯れ、バナナの木、椰子の木、その他の果樹はしばみ、家禽、魚類は死に、婦人、子供、老人、病人は腹痛、下痢、嘔吐、そしてしばしばひどい火傷におそわ

れる。こうした中毒のため、体の弱い被害者は死ぬことも多い。一九六三年四月以降解放戦線赤十字のおこなった調査によれば、使用された化学物質はつぎの通りである。

- 1、2・4・Dまたはダイクロロフェークシアセティック・アシッド
 - 2、2・4・5・Dまたはトリクロロフェークシアセティック・アシッド
 - 3、無水砒酸または三砒化矮素
 - 4、アルカリ性亜砒酸塩およびアルカリ土類金属、ナトリウム、カルシウム
 - 5、ソディウム、カルシウム、マンガン鉛の砒酸塩
 - 6、2・4・ダイニトロフェノール
 - 7、ダイニトロロソルソクレゾール
 - 8、カルシウム性シアナミド
- 散布面積も年々急増している。

一九六二年	一万一〇〇〇ヘクタール
一九六三年	三〇万ヘクタール
一九六四年	五〇万ヘクタール
一九六五年	七〇万ヘクタール

一九六五年にはこうした散布ののち一五万がさまざまな度合の中毒症状に苦しんだ。『ニューヨーク・タイムズ』一九六六年九月九日付は、南ベトナムにおける化学戦強化のため新しくC12機が派遣

されたことを明らかにした。アメリカ支配層は、自分が通ったところは草一本生えぬと豪語したアテイラ（五世紀に欧州を席卷したフン族の王）の古い夢を再現している。

この化学戦の今一つの、とりわけ忌むしい側面は、毒ガスの使用である。まえの南ベトナムかいらい政府首相グエン・カーンは、一九六四年以来サイゴンが毒ガスを保有していることを明らかにしていた（『ロイター』一九六五年三月二二日付）。ガスが使用された最初の重要な作戦は、ブーイエン省ブーラク村にたいし一九六五年一月二五日におこなわれた。同村は雨あられのような爆発物とナバーム弾をうけ、ついで地下壕から村民を追い出す目的をもったガス弾をうけた。このようなやり方をもってすれば、住民は一人として爆弾や砲弾を免れることはできない。このような毒ガス、空爆、砲撃を結合した作戦のもとでは、攻撃対象となった村の住民は一人として無傷でいることはできない。われわれはいまや野蛮の絶頂にある。

一九六五年九月五日米兵が地下壕に四八個のガス容器を放ち、大部分婦人子供からなる三五人を殺したとき、国際世論は警戒心をかきたてられた。国際世論の反応に直面したペンタゴンは不法行為の責任を作戦指導者のレオン・アターに押し付けた。しかし、同年九月以後ワシントンは、毒ガスを使用する完全な権能をサイゴン米軍司令部にあたえ、現在では毒ガスは南ベトナムにおける米兵の「常備」の装備の一部となっている。

アメリカ官辺筋も決して毒ガスの使用を否定しようと努めてはいない。かれらはこのガスがまったく有毒でなく、「人間的な」兵器だとさえ主張している。しかし一九六二年一月一二日オーストラリ

ア軍の一伍長ロバート・ボウテルがガスを散布したばかりの壕に防毒面をつけて入ったところ、気を失って死亡した。救援のためやってきて他の六人のオーストラリア兵も防毒面をつけていたが、ひどい中毒をおこした。これら七人のオーストラリア兵は防毒面をつけていたのだから、かくれ場所の壕内に毒ガスを文字通りまきちらされた婦人子供は、防毒面もなく、どんな状態におちいるかは、容易に想像がつく。

報道機関の分析と暴露とは、使用ガスにはCN、CS、DM、VX、LSD25のようなありきたりの名称がつけられていることを示している。CN（コロレットフェノーム chloroacetophenome）、DM（ディフェニルアミノアルシン）またはアダミスト（diphenylaminearsine or adamist）およびCS（トリオフォスゲン triphosgene）のようなガスは、呼吸器や消化器の粘膜にたいしきわめて腐蝕的な作用を及ぼし、数ミリグラムを服用すれば致死的である。

この野蠻を正当化するため、ワシントン官辺筋は、戦争手段としてのガス使用を禁じた一九二五年ジュネーブ協定議定書を米上院が批准していない事実を引いている。すべての誠実な人びとが受け入れている法を承認しない下手人が、それを承認した下手人より犯罪的でないともいうのだろうか。

米軍司令部は、征圧できない地域における食糧備蓄、塩、水を使用にたえないものにするため各種有毒物にたよってきた。仏紙『レキスプレス』は、米空軍が南ベトナム高原の各地にたいしどのようなやり方をしたかについて伝えた。

「井戸は汚染され、家畜は虐殺され、とうもろこし畑はナパームでやられた。」（同紙一九六六

年一月十日付)

このような種類の手段が一国民全体をせん滅するための作戦に使われたことはかつてない。

3 実験戦争

ベトナムのアメリカ人は、近代技術がふんだんに提供するあらゆる兵器および有毒物を実験的に使用している。一九六一年リンドン・ジョンソンのサイゴン訪問後「特殊戦争」が開始されたとき、ただちに戦争の実験的性格が強調された。なぜならベトナムこそ他の国ぐにの民族解放運動にたいして利用することのできる兵器および戦術について実験すべき場所なのである。もともと重装備の爆撃機の生産を増強し、最良の型の水陸両用戦車を完成するための不断の研究がおこなわれ、一連のジェット機、ヘリコプター、飛行艇、超高速機関銃および黄燐爆弾の有効度について実験がおこなわれている。化学兵器、落葉剤、戦闘用ガスに特別の注意が払われている。移動四〇六細菌・化学研究所は日本から南ベトナムに移駐し、米軍司令部は南ベトナムにおける化学物質の生産と利用を完成するため西独特別部隊数個部隊を導入する計画をたてている。ハーワード大学の米学者シドル博士は書いています。アメリカ政府は戦争の早期終結をはかるため化学兵器にますます重点をおくだろう、と。こうして心理的効果を生ずるガスも南ベトナムで実験されている。

すべての破壊もしくはせん滅兵器は、使用後技術者の綿密な点検をうけ、望みの改善を加えられている。B52機のおとす大型爆弾は住居を破壊するが、地下壕にかくれた住民には被害を及ぼさない。ナバームは地中にかくされた食糧には届かない。そんなことも問題ではない！ アメリカの工場では、地中深く入ったのちに爆発する爆弾やナバーム弾をただちに生産しだした。

とくに重要なのは、破碎爆弾の例である。一九六五年には、それは各八〇〇グラムの重量の、小翼をもった小型容器で、なかには数百個の小さな鋼鉄ボールがつめられていて、爆発により二五メートル四方に飛散、多量の鋼鉄粒をもって被害者を苦しめた。あらゆる外科的応急手当は不可能になる。一九六六年にはより小さいスペース（四〇〇グラム）に同量の細片をつめるように改善された。一個の散布爆弾は三〇〇個もの破碎爆弾からなり、六〇〇〇平方メートルの面積に数万の小破片をまきちらすことができる。これらの小型爆弾は、軍事施設にはまったく被害を及ぼさないが、村落、市場、学校に投下されると、おびただしい死傷者をだす。したがって非戦闘員を殺傷するのが特別の目的なのである。これらの破碎爆弾の一番の犠牲者は子供たちである。

こうして一日一日とアメリカの戦争の残酷性が増してゆく。米軍司令部は毎日新兵器をベトナムで実験しているのである。『フィガロ』紙一九六五年四月二五日付は、書いている。

「ベトナムは、軍事技術者のあらゆる発明の実験場となった。その目的は、後日他の作戦舞台で利用できるかもしれないこれらの発明を生きた目標にたいして実験することにある。」

日本の新聞『朝日』およびインド紙『ペイトリオット』は、アメリカ人がアジアの一国民を軍事実

験の「モルモット」として利用している、と強調した。ニュールンベルグ裁判は、人体にたいする兵器の実験をもつともきびしく非難しているのである。

4 北ベトナムにたいする犯罪

一九六四年八月五日第七艦隊を発進した航空機がベトナム民主共和国の一連の沿岸地域を爆弾した。一九六五年二月七日以降空襲は日増しに規模を拡大しながら日常茶飯のこととなった。アメリカ支配者はいいつづけている。和平会議の席につけ、そうすれば爆撃を止めるだろう、と。このような条件のもとでの和平は、たんなる降伏でないとしたら、一体何だというのであろう。

ジョンソン大統領は、国際世論をなだめるために一九六五年四月七日のボルチモア演説において、北ベトナム国民が額に汗に汗に多くの犠牲を賭けて築いたものを荒廢に帰せしめる意図はアメリカには毛頭ないことを確信した。

この言葉のどこに真実があるか。

米軍機が攻撃した諸都市および省都はつぎの通りである。ヴィンリン、ドンホイ、ハチン、ヴィン、タンホア、ナムディン、プーリ、ソクラ、イエンプイ、ランソン、タイグエン、およびハトウ、ホンガイ、ウォンビなどの産炭都市。ハノイ、ハイフォンも攻撃を免れなかった。このうちには焼き払わ

れたり、完全に破壊されたおびただしい村落の数は入っていない。たとえば、クアンヴィン省グトウイ村をとってみよう。一九六六年七月十五日同村はナパームの雨を降らされ、村から走り出ようとした住民たちは、襲撃機の二〇ミリ口径の砲火の目標となった。また何千個という破碎爆弾が投下された。

草木や藁葺き農家のなかではその赤かわら屋根の、側壁の新しい建物はすぐと見分けがつくので、米軍機は病院や学校を激しく攻撃する。ヴィンリン、クアンビン・ハティン、グエアンおよびタンホア各省の県立病院と地区病院は全部破壊された。とりわけ二六〇〇人のハンセン氏病者が治療を受けていたクインラップハンセン氏病院は、一九六五年六月つづけて十日間の爆撃をうけた。その一六〇棟が破壊され、一三九人のハンセン氏病者および医療要員が殺され、その他多数が負傷した。

北ベトナムにおいて米空軍がこれまでに破壊したのは、

学校二九四

病院、保健所、産院七四

教会、寺院八〇

わけても野蛮な行為は、北ベトナム沿岸住民が生計をたてるのを妨害するため、沿岸沖合の漁船を掃射することである。

アメリカ支配者の破壊への意志がもつとも明白にあらわれたのは、彼らがベトナム民主共和国のダムや堤防の爆撃を命じたときである。周知のように、紅河その他の河川の災厄的な氾濫のために、二

〇〇〇キロ以上にわたる堤防の建設と保全が必要となっている。洪水期におけるこれら堤防の破損は、数省全体の浸水、すべての収穫物の破壊、および飢餓を招く。そのうえ乾期にはひでりが長引くと不作を招くので、ダムや貯水池が必要なのである。すべてこうした治水工事は、国民の桁外れな努力を犠牲にして達成されている。米軍機は、ダムおよび堤防にたいし数百回の攻撃を加えている。とくにつぎのものがあげられる。

▽ラガ、カムリ、バイトウオン、ドドウオンおよびタクバの各ダム。

▽ラ河、マ河、ラム河、デイ河、および紅河の堤防の多数箇所。ハノイ北方郊外を保護するナツトタン堤防も一九六六年八月十三日攻撃された。

一九六六年の雨期中の上記のような攻撃にもかかわらず、大災厄が生じなかったのは、一つにはこの一二年間ベトナム民主共和国政府と人民が格別の注意を払って維持してきた堤防の堅固さのおかげであり、また一つには効果的にとられた措置のおかげである。

米軍司令部は、ベトナム民主共和国の工場、堤防、ダム、学校、病院を攻撃することによって、ベトナム人民を脅迫するとともに、その急速な事業をうちこわし、よりよい未来への進歩を阻止しようとして日々ワシントンと同じ脅迫を繰返している。おまえの方が「和平」をおこなうことを認めるならば、そのときはじめて爆撃を中止するだろうと。

ベトナムに関する一九五四年ジュネーブ協定は、ベトナムの独立、主権、統一、領土保全を正式に承認し、ベトナム内政にたいするあらゆる外国干渉、外国軍隊および軍事要員のあらゆる導入、ベトナムにおける外国軍事基地の一切の建設を禁止していること。一九五四年のジュネーブ会議でアメリカ政府は上記協定の尊重を約した。しかしアメリカ政府はこれを断えず乱暴に侵犯してきた。

一八六八年セント・ペテルスブルグ宣言から一八九九年および一九〇七年ヘーグ条約、一九四九年ジュネーブ協定、国際連盟の数多くの決議にいたるまでの国際的合意は、戦時における非戦闘員、文化的作品、病院、学校、教会、無防備の都市、村落、工場を攻撃することを禁じている。また大量破壊と大量殺戮の手段の使用を禁じている。一九二二年ワシントン条約および一九二五年ジュネーブ協定書は、有毒化学物質、細菌戦手段、戦闘用ガスの使用を禁じている。また一九三二年の国際連盟決議は、催涙ガスをも含むすべてのガスおよび毒物の使用を禁じている。一九四三年ルーズヴェルト大統領はアメリカは最初にガスを使用することはない、と厳粛に宣言した。

第二次世界大戦後ヒトラーの犯行に多大の戦慄を感じた国際世論は、下手人の裁判を要求し、ニュールンベルグ国際裁判は、戦争犯罪と人類にたいする罪とについて明確な定義を下した。ニュールンベルグ裁判はとくに、従来あらゆる司法権から免がれていた国家指導者の責任を主張した。

アメリカ政府は、ベトナムにおける侵略戦争においてこれらの国際協定をことごとく真向うから冷笑的に侵犯してきた。アメリカ政府は一小国にたいし仮借ない戦いを仕掛け、きわめてさまざまな、凶暴な手段を用いている。これらの手段は、後日どこか他のところで利用するという裏面の動機があ

つて日々改善を加えられている。国際世論はこれらの犯罪について気付き、憂慮しはじめた。アメリカの世論ですら一部は憂慮しはじめている。

なぜならベトナムの衝突はアメリカ帝国主義と、独立と自由のため闘う民族との間の戦いである。それは世界のすべての大陸をいま吹きまくっている民族解放の大運動の一部をなすものである。ワシントンには、ベトナムで試されている兵器や手段が他の国ぐにでも用いられるであろう、という点について齒に衣をさせない。このことに憂慮を抱かないものは一人もいないだろう。アジア、アフリカ、中南米の諸国民の運命はベトナムで賭けられている、といつても過言ではない。アメリカの犯罪にたいする手厳しい世界的な断罪こそ、ナチ指導者にたいするニュールンベルグ裁判に劣らず至上の命令となつている。

その主責任者を名差しであげなければならない。すなわち、合衆国大統領リンドン・ジョンソン、国防長官マクナマラ、アメリカ外交政策に責任を負うデイン・ラスク、ベトナム駐屯米軍司令官ウエストモアランド。

これらの人びとは、そのもつとも近しい協力者とともに裁かれ、断罪されなければならない。

*

*

*

以上の犯罪の一切は、これを絶滅するためには、当然のことながらその根源にまで遡らなければならない。アメリカ帝国主義者は、独立を守る決意を固めて一国民全体にたいし侵略戦争を遂行するな

かで、その国民の抵抗をうちくたため、必然的にもっとも野蛮な手段の一切を利用するにいたった。しかし事実が証明するところによれば、彼らは南ベトナムの政治的、軍事的、泥沼から自らを救い出すこともできず、またベトナム民主共和国およびベトナム人民の鉄の意志をゆるがすこともできないでいる。彼らの期待に反して、南ベトナム解放民族戦線は、これまでになく強力で、装備もよく、巨大な勝利をかちとることが可能となっている。ベトナム民主共和国の軍事力が今日ほど強大となったことはなく、首尾よく生産闘争を遂行しながらも、現在までに一五〇〇機の米機を撃墜することができた。アメリカ帝国主義者は、これらの失敗にもかかわらず、依然として盲目的な力の使用にたよりに、南ベトナムでも北ベトナムでもますます凶暴さを発揮している。植民地戦争にはつねに残虐行為がともなうものであるが、アメリカ新植民地主義は、その左右するあらゆる手段をつかい、今日みられるようなより組織的な政策をおこないながら、旧植民地主義をも凌ぐに至っている。強大国が自国国境から八〇〇〇マイルも離れた国を四六時中爆撃し、その国土全体にたいするテロ的襲撃に数十万の軍隊を投入する権利を僭称するとき、どんな詭弁をつかっても、誤魔化すことができないほどその侵略は歴然としている。このよな侵略を罰せずにはすまじ、また事態をますます悪化させることがないようにという口実のもとにこれを非難しないならば、それはもともと危険な冒険への道を開き、きわめて忌わしい犯罪をも大目に見ることになる。

ベトナム人民の民族的諸権利は尊重されなければならない。

ホ・チミン大統領は一九六六年七月十七日の訴えにおいて明確に指摘した。

「アメリカをしてそのベトナム侵略の戦争を止めさせ、この国から米軍および衛星諸国軍隊の一切を撤退せしめよ。そうすればただちに平和はとりもどされる。ベトナムの立場は明らかである。すなわち、ベトナム民主共和国政府の四項目および南ベトナム解放民族戦線の五項目である。」(註)

ベトナム人民は平和を愛する、純正な平和、にせの平和でなく、「アメリカの平和」でなく、独立と自由のうちの平和を愛する。

これが根本的な諸原則であり、これなしには正常な国際生活はまったく成り立たない。この他に解決はありえない。」

〔注〕

a ベトナム民主共和国の四項目

1、ベトナム人民の基本的な民族的諸権利すなわち平和、独立、主権、統一、および領土保全の承認。アメリカ政府は、ジュネーブ協定にしたがって、あらゆる米軍部隊、軍事要員、あらゆる種類の兵器を南ベトナムから引き揚げ、当地のあらゆる米軍基地を解体し、南ベトナムとの「軍事同盟」を解消しなければならぬ。アメリカ政府は、南ベトナムにたいする干渉と侵略の政策を中止しなければならぬ。アメリカ政府は、ジュネーブ協定にしたがって、北ベトナムにたいする戦争行為を中止し、ベトナム民主共和国の領土と主権にたいするあらゆる侵害を中止しなければならぬ。

2、ベトナムの平和的再統一が成るまで、なおベトナムは一時的に両地域に分割されていても、一九五四年ジュネーブ協定の軍事条項は嚴重に尊重されなければならない。両地域は、外国とのどんな軍事同盟に加わることをも差し控えなければならないし、それぞれの領土上に外国軍事基地、外国軍隊、外国軍事要員は

一切おいてはならない。

3、南ベトナムの内政は南ベトナム人民自身によって、外国の干渉なしに南ベトナム解放民族戦線の綱領にしたがって、解決されなければならない。

4、ベトナムの再統一は、外国の干渉なしに、両地域のベトナム人民によって解決されるべきである。

b 南ベトナム解放民族戦線の五項目

1、アメリカ帝国主義者は、ジュネーブ協定の破壊者、もつとも厚顔な戦争屋にして侵略者、ベトナム人民の不倶戴天の敵である。

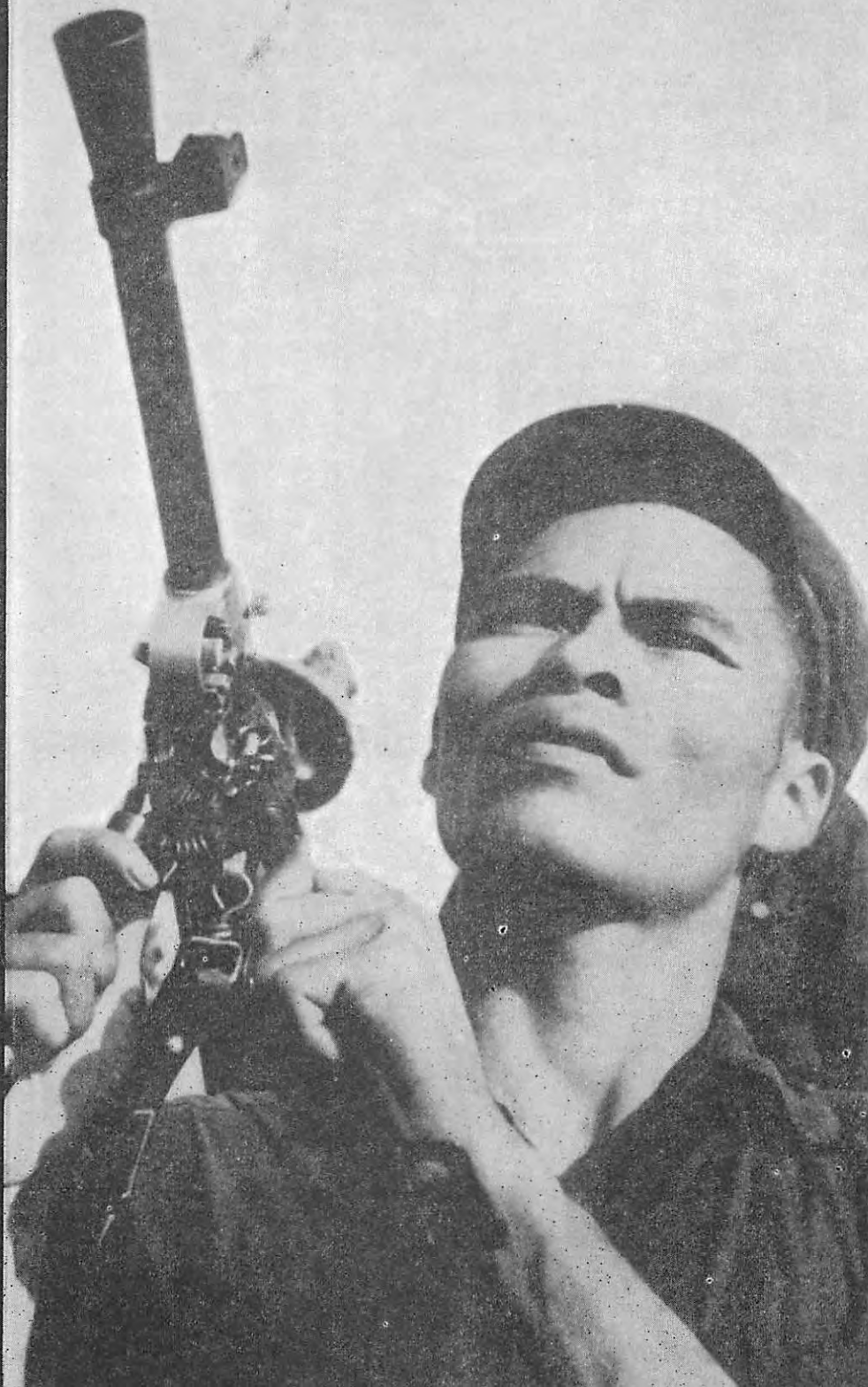
2、英雄的な南ベトナム人民は、南ベトナムを解放し、独立、民主主義、平和、中立およびベトナムという祖国の最終的再統一を達成するために、アメリカ帝国主義者を追い出す決意を固めている。

3、勇敢な南ベトナム人民と南ベトナム解放軍とは、アメリカ帝国主義者を追い出すという自らの神聖な義務を完全に果し、南ベトナムを解放し、北ベトナムを防衛するという決意を固めている。

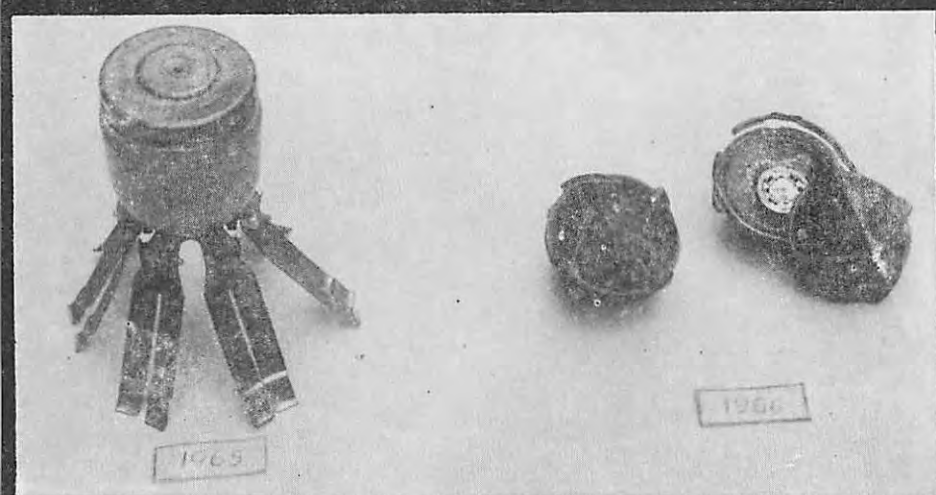
4、南ベトナム人民は、全世界の、平和を愛し、正義を愛する人びとの心からなる支持にふかい感謝の意を表明し、五大陸の友人からの、兵器その他さまざまな軍需品を含むあらゆる支援をうける用意のあることを宣言する。

5、武装した全人民は一人の人間のように団結し、英雄的に前進をつづけ、決意を固めてアメリカ侵略者とベトナム反逆者と戦いこれを打ち負かす。

アメリカ侵略者の空の破壊戦争



一日中くりかえされる無差別爆撃
—人も建物も家畜も



破碎爆弾一殺人の凶器が日毎に改良される（左は1965年、右は1966年型）

毒薬でココナットの樹々も



カオダイ教の寺院も

第二章 ベトナム民主共和国に対するアメリカの空の破壊戦争

アメリカ帝国主義者は南ベトナムで重大な敗北に直面し、行き詰まったため、空軍を中心に空と海の戦力による破壊戦争という形で、「戦争を北に持ち込む」ことを決めた。

一九六三年半ばから一九六四年の初めにかけて、アメリカ国防、国務両省は戦争を北へ広げる多くの計画を立てたが、そのなかには国務省のウォルト・W・ロストウ政策立案委員長の計画もあった。これはロストウ計画六号と呼ばれ、次の三つの段階から成っている。

第一段階——ハイフォン港の封鎖

第二段階——北ベトナム沿岸の基地に対する艦砲攻撃

第三段階——北ベトナムに対する空軍の機銃掃射

このロストウ計画はのちに、アメリカ統合参謀本部の將軍たちの手で実施された。

これに続いて、一九六四年六月一、二両日のホノルル会議で、北ベトナム攻撃の諸計画が主要議題になった。かなり長期にわたる綿密な準備ののち、一九六四年八月五日、いわゆる「トンキン湾事件」

を北に対する「報復」の口実にでっち上げ、初めてアメリカ機がトンキン湾内の第七艦隊と南ベトナムのアメリカ軍基地を発進して一七度線を越え、公然とベトナム民主共和国海岸を数個所にわたって攻撃した。

一九六五年の初め、アメリカ帝国主義者は北に対する直接侵略のため、また戦争拡大計画の第一歩としてアメリカ軍を南ベトナムに派遣し、それと並行してベトナム民主共和国に対する空からの破壊戦争を公然と展開し、アメリカのベトナム侵略戦争を新しい段階に導いた。そのとき以来、この二〇カ月にわたって、アメリカ機による海賊的な北ベトナム攻撃がますます残忍な、ますます大きな規模でおこなわれてきている。

アメリカの空、海軍のジェット機は、第七艦隊の空母のほか南ベトナム、タイその他太平洋の各基地から飛び立ち、日夜ベトナム民主共和国の領空を侵犯し、各地に乱暴な爆撃や機銃掃射を浴びせている。彼らの攻撃テンポは日増しにはよくなっている。サイゴンとワシントンで公表された統計によると、一九六五年の出撃回数は二万六〇〇〇回だった（アメリカ空軍ジャーナル、一九六六年四月）が、一九六六年の半ば以降、月間の出撃回数が九〇〇〇回から一万一〇〇〇回にふえている（AP、一九六六年六月二十四日）。一九六六年九月十二日のように、五〇〇機以上が北ベトナム爆撃の任務につくというような日もあった（ロイター、一九六六年九月十三日）。日中の機銃掃射のほかに、アメリカ空軍は夜間行動を推し進めてきた。とくにタンホア、ゲアン、ハチン、クアンビン、ビンリンの各地区には、アメリカ機の空襲のない夜はめったにないという状態である。

アメリカの侵略者はベトナム民主共和国に対する破壊戦争を実施するために、F105、F4、A6、B52の各戦略爆撃機のような最新型の超音速ジェット機を含む各種航空機のほか、三〇〇〇ポンド爆弾、ナバーム弾、黄燐弾、リゆうさん弾（殺人兵器の一つ）、ロケット、ブルバップ空対地弾道ミサイル、毒薬などを含む各種の爆弾やロケットを使用している。

アメリカ機が使用する爆弾やロケットの量は、ひきつづきふえている。マクナマラ国防長官でさえ、アメリカ機は一九六六年の三月中だけでも、南北両ベトナムに合わせて五万トンの爆弾とロケットを投下したことを認めなければならなかった。同長官はさらに、一九六六年にアメリカはベトナムに対して爆弾、ロケット合わせて六三万八〇〇〇トン、いかえればアメリカの朝鮮侵略戦争中に使われた爆撃、ロケットの総トン数の九一パーセントの量を使用することになると言明した。これについてさらに、フランスの新聞「ヌーベル・オブセルバトゥール」は一九六六年七月十三日付けで、アメリカ空軍が北ベトナムに浴びせた爆撃、ロケットの量は、一九三九年から一九四五年のあいだにヨーロッパに投下された総量の三分の一にあたると伝えている。

ジュネーブ協定を無視した非武装地帯への無差別爆撃

アメリカ機による機銃掃射の目標地域は、ますます広がっていく。沿岸地域や一七度線に接する地域の機銃掃射から始めて、ベトナム民主共和国の領土にさらに深入りし、緯度から緯度へと除々に、

中国とベトナムの国境にまで拡大しつつある。中国の領空にも侵入し、中国とベトナムの国境付近の各地で挑発や攻撃をおこなっている。

一九六六年六月二十九日、アメリカ機はあつかましくも、何回にもわたって首都ハノイとハイフォン港の近郊に機銃掃射を加え、人口密集地帯や経済中心地に無差別爆撃をおこなった。これらの新しい犯罪行為によって、アメリカ帝国主義者はベトナム民主共和国の最も重要な、最も人口の密集した政治と経済の中心地をめざす「エスカレーション」に、きわめて重大な一步を踏み入れることになった。

アメリカ空軍はさらに頻繁に、一七度線を境とする非武装地帯を機銃掃射した。この地帯は、双方の合意による非武装地帯の規則はもとより、ベトナムにかんする一九五四年のジュネーブ協定によって、いかなる軍事行動も許されない地区とされているところである。とくに一九六六年七月末以来、アメリカ帝国主義者は非武装地帯の南部境界地域におけるテロ活動と合わせて、空から激しい機銃掃射を浴びせ、B52機を一〇回以上も使用している。一九六六年九月十八日には、非武装地帯に毒薬を散布し、農作物や樹木を破壊し、多数の民間人を中毒させた。

アメリカ機の行動と合わせて、アメリカ第七艦隊と南ベトナムのアメリカの手先の軍艦が、日夜トンキン湾で挑発活動をおこない、厚顔無恥にも、ベトナム民主共和国の領海に侵入し、沿岸の人口密集地を砲撃し、この海域で操業する船舶や漁船を威嚇し、機銃掃射し、船内の民間人や軍事要員を逮捕している。一九六五年には、アメリカとその手先の軍艦は五〇回にわたって漁船を拿捕したが、一

九六六年になると初めの八カ月のうちに、数百回にわたってベトナム民主共和国の領海を侵犯し、海賊的行為や拿捕行為を五〇回以上もおかし、多くの船舶や漁船を破壊、破損し、ベトナム民主共和国の市民多数を逮捕し、しかもいまなお約一五〇人の市民を抑留している。

一九六五年四月二十四日、アメリカのジョンソン大統領は恥知らずにも、ベトナム全土とその近海一〇〇マイルの範囲を、アメリカ軍の「戦闘地域」とする布告を出した。これはきわめて重大な戦争行為であり、ベトナム民主共和国の領海を封鎖するアメリカの計画の一環である。この計画遂行のため、アメリカはベトナム民主共和国の港にはいる外国船をおどし、挑発するために、航空機と軍艦を派遣した。また、レバノンの国旗をかかげたサン・スピリドン号など多くの外国船をはじめ、ソ連や中国の船舶にも攻撃を加えた。アメリカはさらにほかの手段にも訴えて、ベトナム民主共和国と取り引きする船舶をもつ国に、圧力をかけている。これらアメリカのおかした行為は、ベトナム民主共和国の主権と領土を侵し、ベトナムに関する一九五四年のジュネーブ協定と、貿易と航海に関する国際法の基本原則をはなはだしくふみにじった。

対人爆砕・ロケット弾で婦人・子どもを中心に民間人を殺傷

アメリカ帝国主義者はベトナム民主共和国に対する破壊戦争によって、ベトナム人民に対して犯罪を積み重ねている。アメリカの支配層が、「軍事目標のほか、鉄鋼、コンクリート」だけを攻撃し、

「人命」は攻撃していないと主張しているあいだにも、アメリカ機は繰り返して、計画的に、大都市、小都市、居住地区、学校、病院、堤防、ダム、国営農場、林業施設、工場などを、公共施設の破壊、民間人の虐殺の目的で、無差別に爆撃、掃射している。

一九六五年の二月以来、アメリカ空軍はハイフォン、ナムジン、タイグエン、ベトチ、ビンの各都市のほか、ハノイ近郊、二一の省都や都市、七三の小都市や地区中心地、数百の住民の多い部落などを野蛮に攻撃している。ベトナム民主共和国の重要な工業中心地のビン市は、これまでに八〇回以上の空襲を受けている。

紅河のデルタ地帯にあるベトナム民主共和国の織物の町ナムジン市は、三〇回以上にわたってアメリカの空襲の目標とされてきた。ハンタオ、ハンナウなど、同市のなかでも人口の密集した居住地区、鉄道の停留所付近の街路、労働者の居住地区、市場、学校、病院、療養所、市内各地の経済関係の建造物などに、数百トンにのぼる爆弾や銃弾が浴びせられ、その結果、民家数百棟が破壊され、多数の民間人が死傷したが、そのなかには老人、婦人、幼児を含む子供が大勢いた。

北ベトナムではハノイについて第二の都市、しかも最大の港をもつハイフォン市は、三回の攻撃を受けた。一九六六年八月二日の三回目の攻撃では、アメリカ機は最も野蛮に、カムロ、アンラク、チエオンリの人口密集地区、変電所、セメント工場、造船所などを爆撃し、子供一六人を含む多数の人人を殺し、ほかに大勢を負傷させ、数十棟の家屋を破壊した。北西部の山岳地帯の奥深くにあるエンバン、ソンラ両省の中心地も、何回にもわたってアメリカ空軍に攻撃された。アメリカ機はさらにタ

ンホア、ゲアン、ハチン、クアンビン、ビンリン各省の多くの村や部落を爆発弾、黄燐弾、ナバーム弾、対人破碎爆弾などで攻撃した。クアンビン省のレムラプ、レムバクの両部落は、三夜にわたって連続爆撃を受け、その結果、家屋二〇〇棟が破壊され、民間人三〇人以上が死傷した。

ビンリン地区ビンタイ村のタイライ部落は、一九六六年八月二十五日の夜、アメリカ機の容赦のない攻撃を受けた。家屋はすべて焼き払われ、三人の妊婦を含む多数の民間人が殺され、傷つけられた。ビンリン地区ピンツ村にある一二の部落のうち一一までが、爆発弾、対人破碎弾、ナバーム弾、ロケットなど各種の爆撃を使って、アメリカの侵略者に野蛮に攻撃された。一九六六年七月二日の夜だけでも、アメリカ機はこの村を繰り返し襲い、爆発弾、ナバーム弾を一五〇発あまり、対人破碎弾は数千発を投下し、ロケット多数を発射し、家屋四五棟を破壊し、婦人、子供を中心に民間人多数を殺傷した。

卑劣にも赤十字のマークめざして銃爆撃

アメリカの侵略者は、学校も「選択された目標」に数えている。一九六五年以来、幼児教育機関から大学にまでいたる学校二四〇校余りが、アメリカの爆弾や銃弾で破壊された。教員のほか、一〇才以下の子供を多数含む生徒数百人が、アメリカの爆弾や銃弾で殺され、傷つけられた。ハチンだけでも、生徒一〇一人、教員一四人が殺され、ほかに生徒七四人、教員一四人が傷つけられた。

ハチン省フオンケ地区のフオンフクの学校は、最も野蛮な攻撃を受けた。一九六六年二月九日、生徒が授業を受けているところへ多数のアメリカ機が襲来し、学校地区に重量爆弾数十個を投下した。七才から十五才までの生徒三三人が殺され、ほかに生徒二四人と教員一人が負傷した。死んだものなには、まだ教科書を手にしたままの姿が多くみられた。この学校はこなごなに粉砕され、家屋数十棟と付近のタンホイ教区も破壊された。

アメリカ空軍とその手先は、そのほかベトナム民主共和国の医療施設も系統的に攻撃した。病院、診療所、医療センター、村の保育所のほか、結核病院、癩病院、老人療養所などを含む七〇余りの医療基地が、繰り返しアメリカ機の空襲を受け、そのうちいくつかは数十回にわたって空襲されている。これらの医療施設にはいずれも、遠くからでもはっきり見える赤十字のマークがはいっており、しかも一般には、軍管区から遠くかけ離れたところであり、またゲアン省のクインラプ癩療養所のように、主要な交通網から遠去かった辺地にある。

この療養所は、癩病の研究、治療の大センターであるが、無残にも一九六五年六月十二日から二十二日かけ、連続十日間にわたってアメリカ機の攻撃を受け、病棟一六〇棟が医療設備とともに破壊され、患者、医務員合わせて一三九人が殺され、ほかに八〇人が負傷した。生き残った患者約二〇〇〇人はほかの場所に移されたが、そのうち大部分は同じ省のクインロク村に移動した。しかし一九六六年六月六日、患者をはじめ、医師や医務員を虐殺しようという執拗な試みから、アメリカ機はクインロク村のこのセンターの新しい建物を、二度にわたって爆撃した。アメリカの爆撃と銃弾は、あら

ためて多数の家屋を破壊し、患者三〇人余りを殺し、三四人を負傷させた。このアメリカ帝国主義者のきわめて卑劣な行為は、彼らが「誤って」ベトナム民主共和国の医療施設を攻撃したのでないことを、いっそうはつきりと証明した。

教会・灌溉施設に対する野蛮な機銃掃射

パゴダや教会も、アメリカ機の「軍事目標」になった。

一九六五年二月以来、八〇以上の教会と三〇以上のパゴダが機銃掃射を受けている。ハチン省キアン地区のクイホア教会のチュオン・バン・ロク師、ハチン省ドクト地区のグエン・ゴク師、クアンビン省クアントラチ地区のフクトラチ・パゴダのズオン・ゴクウアン、グエン・ダンの両師から多くの聖職者のほか、多くのカトリック、仏教の信者らが、殺されたり負傷したりしている。

一九六六年三月四日、アメリカ空軍はフート市のハタチ教区を爆撃した。ハタチの教会と近くのゴクタプの教会がいずれも破壊され、聖像がこなごなにこわされた。カトリック地区の家屋一〇〇棟近くが破壊された。子供一六人を含む三八人が殺され、カトリック信者二五人、聖職者一人が負傷した。

一九六六年四月二十四日、アメリカ機はニンビン省のツチュエンとチチャンの二つの教会に対して、カトリック教徒の群れが教会へ出かけているところを爆弾した。民間人七〇人が殺されたが、そのなかには老人一三人のほか、妊婦や二才から一四才までの子供が大勢いた。教会はひどく破損し、付近

の家屋多数が破壊された。

ベトナム民主共和国の灌漑施設や堤防も、系統的に、ますます残忍な規模で攻撃されている。

現在までに、北ベトナムの一二の都市のダム、堤防、運河、貯水池、給水所などからなる多数の灌漑施設が破壊された。

そのほか、北ベトナムの堤防系統が激しい機銃掃射を受けた。とりわけ重大だったのは、一九六六年の六月末から八月初めにかけて、洪水の危険があるときに、アメリカ機が北ベトナムでも最も人口が密集し、しかも最大の稲作地帯であるナムハ、タイビン、ハイズオン、ハバクなど各省の堤防に、野蛮な機銃掃射を加えたことだった。一九六六年八月五日には、紅河デルタ地帯の五つの重要ダム地区を狂暴に機銃掃射するということもあった。沿岸諸省の塩水を遮断する堤防や水門の系統も、アメリカ機の目標になった。

一九六六年八月六日から十七日の両日には、クアンニン省のハドンの堤防が機銃掃射を受け、三〇メートルにわたって破壊された。塩水が、開拓された土地一二〇〇ヘクタールの範囲にあふれた。

アメリカ帝国主義者は、生産を妨害し、数百万人の生命をおびやかすための洪水やかんばつをひき起こす目的で、ベトナム民主共和国の灌漑施設や堤防系統を計画的に機銃掃射しているわけで、そのためファシストのヒトラー一派の犯罪にしか比較するもののないほど、きわめて非人間的な犯罪をおかしている。

この恐るべき犯罪を世論と歴史の前に隠すことはできない

これらの野蛮な行為は、全世界に強い怒りの波をひき起こした。アメリカの支配層は、「アメリカ機はほかの目標をねらったのだが、ダムや堤防に命中したかもしれない」とやむなく認めざるをえなくなったため、最善をつくして「当面のところ、アメリカにはベトナム民主共和国の堤防系統を機銃掃射する計画はない」と弁明した。このような見えすいた言い訳では、明白な事実を隠すことはできない。すなわち、アメリカは統合参謀本部の首謀者による灌漑・堤防系統の攻撃計画を実行しているということである。

そのうえ、アメリカ空軍は市場、バス停留所、波止場、列車停留所、橋、交通路などの公共施設、国営農場、林業施設、貨物船、漁船、気象観測所などベトナム民主共和国の経済基地、またカムファ、ハツ、ウオンビ、ナムジン、タンホア、タイビン、タイグエン、ブトチなど各地の工業施設を爆撃し、機銃掃射している。

要するに、アメリカ空軍はベトナム民主共和国の領土に乱暴な爆撃や機銃掃射を加え、子供、婦人、老人、教師、聖職者、僧侶、患者、医師などを含む民間人を殺している。アメリカ帝国主義者のいういわゆる「選ばれた目標」とか「鋼鉄とコンクリート」とかに対する攻撃は、事実上、人口密集地帯、公共福祉施設、ベトナム人民の労働の業績に対する計画的、系統的な攻撃である。アメリカ帝国主義は、

いかに欺瞞的な説明をおこなってみても、その恐るべき犯罪を世論と歴史の前に隠すことはできない。アメリカの支配層は、そのまったくごうまんな侵略行為ときわめて非人間的な犯罪を正当化しようとして、こっけいな議論を持ち出し、ベトナム民主共和国に対して中傷的な攻撃をおこなっている。

彼らは一九六四年八月五日のベトナム民主共和国の沿岸地区に対する攻撃に口実を設ける目的で、一九六四年八月四日にいわゆる「トキン湾事件」をでっち上げた。これはベトナム民主共和国の哨戒用魚雷艇が、公海でアメリカの軍艦を攻撃したというもので、そのため彼らは、ベトナム民主共和国に対する攻撃は、「報復行為」にすぎないと主張した。しかし、この茶番劇はあまりにも馬鹿げていることがわかり、アメリカの侵略は暴露された。

その後、一九六五年二月七日、アメリカ空軍はふたたびベトナム民主共和国の領土を銃爆撃した。アメリカのジョンソン大統領は、これもブレイクとクイニョンのアメリカ軍基地に対する解放軍の攻撃へのアメリカの「報復行為」であると声明した。しかし、一九六五年二月七日以降、北ベトナムに対するアメリカの銃爆撃は増進した。アメリカの支配層はいうことに事欠いて、このような行為は北ベトナムからの「侵略を阻止」するものだと言張した。

ベトナム人民を力で屈服させることはできない

ベトナムはアメリカから数千マイルも離れている。ベトナム人民はアメリカに対して敵対行為を働

いたことは一度もない。ベトナム軍はアメリカ領土を占領したことは一度もないし、また一つとして、アメリカの学校、病院、村落を爆撃したこともない。それにひきかえ、アメリカ帝国主義者は、フランス植民地主義者のベトナムに対する侵略戦争を援助することによって、ベトナムに干渉した。ベトナム人民がおこなった最初の抵抗戦争は成功に終わり、一九五四年のジュネーブ協定が成立して、ベトナム人民の基本的な民族の権利、つまり独立、主権、統一、領土保全が認められた。しかし、アメリカ帝国主義者は、ベトナム人民の内部問題に対して干渉を続けた。彼らはサイゴンにかいらいの、独裁的な、ファシストの政権を設け、南ベトナム人民の愛国運動を阻止するために「特殊戦争」を開始した。彼らは最近、南ベトナムに対する直接侵略のため、いまでは総兵力三〇万にのぼるアメリカの遠征軍を派遣し、テロ攻撃を強化し、「すべて殺し、すべて焼き、すべて破壊する」政策をとり、さらに公然と、南ベトナムにおいて大がかりに毒ガスや毒薬を使用し、それによって民間人を殺し、村を焼き払い、南ベトナム人民に対してきわめて野蛮な犯罪をおかしている。南ベトナムの痛烈な反撃にあつて無力化したアメリカ帝国主義は、狂乱して、「報復」、「南ベトナム侵略の阻止」……などという口実のもとに、「戦争を北ベトナムに持ち込む」ことを始めた。これは海賊隊の奇妙な論理であつて、彼らの主張と立場は弱い。実際のところ、アメリカの侵略の真の犠牲者であり、正当な自衛と報復の権利をもっているのは、南北ベトナムの人民である。

ジョンソン政府は、ベトナム人民を力で屈服させることができると考えている。しかし、それは幻想にほかならない。アメリカの北ベトナムに対する犯罪的な「エスカレーション」戦争も、決して南

北いずれのベトナム人も威嚇することはできない。反対に、それはアメリカの侵略者に対する彼らの怒りをひき起こすばかりである。南北両ベトナムのベトナム人民は、いちだんと統一を強化し、祖国の独立と自由のため、最後の勝利まで闘争する決意を高めている。

北ベトナムの人民と軍隊は、アメリカ空軍の攻撃のたびに決然と反撃を加え、痛烈な打撃を与えた。現在までに、最新型の超音速ジェット機を含む各種のアメリカ機一五〇〇機が、北ベトナム上空で撃墜され、アメリカ人操縦士数百人が死亡、ないし捕虜となり、アメリカおよびかいらい軍の船舶数十隻が撃沈ないし破損している。

そのほか、南ベトナムの人民とその解放軍はますます士気を高めて、首尾よく敵に攻撃を開始し、すべての戦場において、またサイゴン、ダナン……など彼らの本拠地においても、彼らに電撃攻撃を加えている。前回の乾期作戦のさいには、彼らにとりわけ大きな損害を与えた……。

アメリカ政府は空軍と海軍を使って、北ベトナムに対して破壊戦争を開始することによって、期待した成果を得られないばかりか、逆に進歩的な全人類の強力な反対ときびしい非難を受けている。

ベトナム民主共和国に対するアメリカの犯罪的な「エスカレーション」戦争への強力な反対の波は、世界各地に高まりつつある。社会主義諸国のほか、多くの民族主義国や平和愛好諸国の多くの指導者、政府、国民は、アメリカの侵略者に対して非難を表明している。

各種の国際団体や各国の団体をはじめ、全世界の宗教人、科学者、法律家、著名人、さらに五大大陸の世論が、アメリカ政府を告発する声をあげ、ベトナム民主共和国爆撃の停止、南ベトナムからの軍

隊引き揚げ、ベトナムに関する一九五四年のジュネーブ協定の厳守と履行を要求している。一部の西側諸国の政府でさえ、アメリカ政府のベトナム民主共和国爆撃を承認せず、このようなごうまんな攻撃の停止を要求している。「アメリカの北爆停止」、「南ベトナム侵略戦争をやめよ」、「南ベトナムからアメリカ軍を引き揚げよ」……などのスローガンをかけた大衆デモが、全世界のすべての大都市において、数億の人々によって成功裏に組織された。アメリカの国内にも、集会、デモ、ティーチインから、アメリカの軍需物資を南ベトナムに運ぶ列車の妨害、徴兵カードの破壊、ハンガー・ストライキ、ベトナム人民の殺害に行くことの拒否、自己犠牲、アメリカのベトナム侵略政策に対する抗議などにいたるまでのさまざまの形で、強力な、幅広い運動が起こっている。

ベトナム民主共和国は独立した、主権国家であり、また社会主義陣営の一員でもある。アメリカ政府があつかましくも海軍と空軍を使ってベトナム民主共和国を銃爆撃し、熱狂的にベトナム人民に対してきわめて非人間的な犯罪をおかしていることは、明らかに公然とした侵略行為であり、残虐な、野蛮な、海賊的な行為である。アメリカ政府は、ベトナム人民の独立と主権を侵害し、ベトナムに関する一九五四年のジュネーブ協定と国際法の初歩的な原則をふみにじっている。これは進歩的な全人類に対する最もごうまんな挑戦でもある。アメリカ政府が無条件に、永久に、ベトナム民主共和国に對する爆撃その他の戦争行為を停止しなければならないことは、当然の問題である。アメリカ政府は遅滞なく南ベトナムに對する侵略戦争を停止し、すべてのアメリカと衛星諸国の軍隊と兵器を南ベトナムから撤去し、ベトナム人民に内部問題をみずから解決させなければならない。これがベトナムの

全人民の断固とした要求である。これが全世界の進歩的な世論の緊急の要求である。

一九六六年十月十日

アメリカ侵略者の学校に対する犯罪



1966・10・21、午前10時45分、トイダン中学は空爆された





空爆で殺された子どもら



にぎられた手のなかにあったものは輝しい未来ではなかつたらうか
——トイダン中学で殺された30人の生徒の1人



闘いの中であらゆる子どもらのゆたかさが追究される

第三章 ベトナム民主共和国の学校に対するア メリカ侵略者の犯罪

1 ベトナム民主共和国の教育の特徴

ベトナム人民は知識に対して伝統的な情熱をもっている。しかし、フランス植民地主義者の支配当時は、人民の九五パーセントが文盲だった。小学校は一省にわずか一〇校しかなく、普通中学校は全国でも二〇校に満たず、高等中学の数にいたっては、片手の指で数えられるほどしかなかった。

一九四五年八月の革命が成功し、ベトナム民主共和国の建国が実現すると、われわれの政府はただちに文盲追放の闘争に取り組み、飢えや外国の侵略に反対する闘争と並行して、これを推進した……
生来学問好きなベトナムの青少年に対する国家の配慮と補助のおかげで、教育は力強く、あらゆる面

にわたつて発達した。人民の九五パーセントが文盲から解放された。学生、生徒の数は急速にふえた。一九六四—一九六五年度には、北ベトナムの大学生の総数は三万人に達した（フランスの支配当時、最も教育が発達した一九三九年に比べても、五〇倍も多い）。ベトナム語が大学の授業に使われている。普通教育機関の生徒数は、二九一万四二七七人に達した（一九三九年の五一三パーセントにあたる）。そのうえ、六才以下の児童約一〇〇万人が、幼児学校に通っている。各種職業学校では六万人がそれぞれの訓練を受け、経済、文化部門の中級程度の技術者になり、また成人した人数百万人も、生産その他の活動に従事するかたわら、文化、技術面の補習授業を受けている。

多くの困難にもかかわらず、ベトナムの国家と人民は、教育機関の建設に大きな力を注いでいる。小学校は各村に一枚あり、普通中学は平均して、二カ村に一枚あり、デルタ地帯の多くの省では、各県に高等中学がある。北ベトナム全土には、大学が二八校、中等専門学校が一四〇校ある。

大学は教授面でも科学研究面でも、じゅうぶんに設備の完備した大規模なものである。高等中学はほとんどが二階造りで、図書室、実験室、工作室、庭園、クラブ……などが完備している。小中学校と幼児教室は、各村の最もすぐれた、最も交通の便のよいところに建てられている。こんもりした木陰に高層建築の、美しい建物が目についたら、それは教育センターだと思つて間違いない。「軍事目標」と間違えるのはむづかしい。

ベトナムの青少年がホー大統領の教えに従つて、たがいによく学ぼうと一生懸命、熱心に競争しているときに、アメリカ帝国主義者は北ベトナムに対してエスカレーション戦争を開始し、ベトナム民

主共和国の学校に対して、多くの犯罪をおかし始めたのである。

2 アメリカ侵略者の犯罪活動

教科書しかもたない無防衛の学童めがけて

一九六四年八月五日、アメリカの侵略者が北ベトナムに対してエスカレーション戦争を開始した日、彼らはたちまちハチン省ギスア県のスアンジアン小学校を機銃掃射し、机、椅子、教材などが数多くある一教室を焼いた。同じ日の正午、省都ホンガイの丘の上にある普通中学校が、アメリカの爆弾で破壊された。とくに一九六五年二月七日以来、アメリカ帝国主義者は学校に対する野蛮な空襲をますます強化してきた。

一九六五年二月七日、アメリカの侵略者は省都ドンホイの高等中学を空襲した。一九六五年二月八日、ホサ（ピンリン）の長さ三〇〇メートル、幅二二二メートルの丘陵傾面に建ち並ぶ小中高の三校も、空襲を受けた。この地域には、爆弾の穴が一三二個所に発見され、二〇〇ないし二五〇ポンドの不発弾が数多く回収された。生徒七人が殺された。第一〇学年の優秀な文学教師レ・ドイ・ミンも、二〇才の妻と子供一人を残して死亡した。一九六五年二月八日の午後、県庁所在地ホサのグエン・チ

・ホア女史の幼稚園が爆撃され、教室が大損害を受け、机や椅子多数がこわされた。同じく二月八日、クアンビン省のドンホイ高等中学とリニン普通中学が爆撃された。

まだ不完全な統計だが、それによると、一九六六年九月末日までに、ベトナム民主共和国の学校二九四校が空襲を受けた。その内訳は幼稚園が二一、小中学校二三二、高等中学一八、初等・中等職業学校一五、師範学校一、補充教育校五、初級、高級神学校それぞれ一ということである。

空襲にさらされている学校の所在地は、ピンリン地区をはじめ、もとの第四地域にあたるクアンビン、ゲアン、タンホアの各省から、ソンラ、イエンバイ、ライチャウ、ツエンクアンなど山岳地帯の各省にいたる一四省である。このように、空襲にさらされる地域は大きくなり、空襲の規模は大きくなっていく。

アメリカ帝国主義者は、学校を破壊するために、スカイレーダーから、F105、F4Hなど最新型のジェット機にいたるまで、あらゆる種類の飛行機を使っている。これはいずれも、第七艦隊や、南ベトナムとタイのアメリカ軍基地から飛び立ってくるものである。

アメリカ帝国主義が北ベトナム攻撃に使っている兵器、爆弾、砲弾はすべて、教科書しか手にもっていない無防備の学童を虐殺するために使われている。アメリカの侵略者は、教育機関に爆弾を連ねて、さまざまな型の爆弾を投下した。彼らはホサ（ピンリン）とタチケ（ハチン）の学校にはロケットを発射した。ハチン省タチハ県のタチタンの学校のほか、フート省フーニン県のフーロク小学校には、対人破砕爆弾を浴びせ、多数の生徒を虐殺した。一九六六年八月十三日、首都ハノイ近郊のナトタン

村ブーサ部落に対する攻撃のさいには、アメリカ帝国主義者の二〇〇〇ポンド爆弾と対人破砕爆弾のため、四学年の成績優秀なトアン君のほか、ダイ君らの学童を中心に多数の子供が殺された。多くの子供たちの死体は、触れるとこなごなにくずれ落ちた。

多くの学校を繰返し銃爆撃

アメリカは絶えず空襲のテンポをはやめている。たとえばヌンホアでは、アメリカの侵略者は一時北ベトナム爆撃を中止したあと、一九六六年一月三十日に爆撃を再開し、ハイホア小学校を爆撃して、学童二四人の死傷者を出した。ゲアンでは、一九六五年中に三〇校が攻撃された。ところが一九六六年の最初の六カ月間に、はやくも三一校が攻撃された。ビン市では、人口密集地区の一連の学校が完全に破壊された。アメリカの侵略者はこの都市でほかに、ビン高等師範学校、普通師範学校、ビン高等中学校などのほか、小中学校一二校を爆撃し、機銃掃射した。

ハチン省は、アメリカの爆撃を最も多く受けた学校のある省である。前後一一八回の空襲が同省の学校を対象におこなわれたが、その内訳は一九六四年八月五日の一回と、一九六五年の六四回、一九六六年の初め七カ月間の五三回である。

多くの学校が繰り返し銃爆撃を受けている。ファン・ジン・フン高等中学は、一九六五年の八、九の両月に五回の空襲を受け、さらに、チャンフー高等中学、タチベト普通中学のほか、省都ハチンの

普通中学一校は、いずれも四回攻撃されている。フォンフクとキアンの両普通中学のほか、フォンソン高等中学、ハチン普通師範学校などは、いずれも三回空襲の的になった。

級友と抱合い、教科書とエンピツを手にして死んでいった生徒

最も残酷なのは、一九六六年二月九日、ハチン省フォンケ県のフォンフク普通中学の爆撃だった。

この日、午後四時三十分、第五学年の生徒が文学の授業にひきつづいて、タイ・パン・ナム先生の「地球は自転する」という地理の授業を受けている最中に、アメリカ機が飛んできた。生徒はただちに、防空壕に通ずる教室わきの溝に飛び込んだ。タイ・パン・ナム先生は最後に避難した。たちまち爆弾の雨が降り、教室にも防空壕にも命中した。土が溝と防空壕を覆った。助けを求める生徒の叫びを聞いたナム先生は、危険をおかしてなんとか土に埋まった防空壕からはい出たが、みると敵機が頭上にうなりを立てていた。ナム先生はからだに激しい痛みを感じたが、溝から出て、助けを求めながら、ほかの防空壕を一生懸命に掘りおこした。そのとき、第六学年を教えていたミン先生とその生徒たちのほか、民兵や若い人々が一緒にやってきて手伝い、防空壕のなかから何人も男女の学童を救出した。そのとき、ナム先生は気を失ってしまった。この空襲で五年生が三二人と、ほかに通りがかりの小学生一人が殺された。溝のなかで、級友と抱き合ったまま、また、教科書とエンピツを手にかくにぎりしめたまま死んだ生徒もいた。防空壕から掘り出されたもののなかにも、わずかに「死に

そうだ」と一こといったきり、息をひきとる生徒がいた。ほかに、息をひきとる前に、「ぼくのクラスのは、まだ生きていますか。かたきをとってください！」と先生にたずねるものがいた。

生徒たちのうち何人かは、爆弾の破片でからだを無残にひきちぎられていた。木枝にシャツがぶらさがっているという光景もあった。土のなかから、生徒の血に染まったカバン、教科書、ノートなどがみつきり、なにか書いた紙切れや、ひきちぎられたポロ切れが一面に散乱していた。教室のあった跡には、幅一三、四メートル、深さ六、七メートルの爆弾の穴ができていた。付近一帯に、こわれた机や椅子の破片が散らばったり、土中深く埋まったりしていた。

殺された三三人のほか、生徒二四人と教員一人が負傷した。スー君という少年は、爆風で脾臓をおかされ、その半分を切り取らねばならなかった。フォン君は神経系統に大きなショックを受けた。ほかにも、生き残ったものの健康をいちじるしく害したものが数多くいた。一九六六年三月一日、文部省は記者会見をひらいて、これらアメリカの侵略者のおかした恐るべき犯罪を明らかにした。

厚顔無恥な侵略者は授業中の学校を爆撃

このフォンフク普通中学は、アメリカの爆撃の犠牲となった学校のなかでは、一三四番目のものだった。ところが、一九六六年三月から九月にかけて、さらに一六〇校がアメリカの銃爆撃の目標となった。

注目すべきことは、アメリカの侵略者が授業中の学校を空襲していることである。

フロンク普通中学のほかにも、多くの学校が授業中に爆撃されている。たとえば、タンホア省チューソン県のバンソン普通中学もそうである。一九六五年十二月末のある寒い朝、時計が八時を打つとさっそく、アメリカ機の一群がやってきて、学校のそばに一度に爆弾六個を投下した。しばらくして、また別のジェット機の一群が現われ、爆弾六個をつげざまに前回と同じ場所に投下した。

爆弾は六学年の教室に命中した。生徒四二人のうち大部分は、一二才から一四才の女子だった。爆弾はいずれも二〇〇ポンドのもので、爆弾穴は深さ六メートル、直径九ないし一〇メートルというものだった。何人かの生徒は山の洞窟に通じる連絡壕に逃げ込んだ（この村は山のふもとにある）。ほかの何人かは畑の方へ走ったが、こちらの連絡壕は安全な場所にとどく前に切れていたもので、そのうち九人が死ぬ結果となった。竹ヤブがそっくり根こそぎに吹きとばされて、生徒のうえに落ちてきた。連絡壕は爆弾ではね上がって泥でほとんど埋まってしまった。このため、登校するためにたがいに誘い合っていた七才から八才の小学校一年生（冬になると、小学生の授業は早朝の凍てつくような寒さのため、普通中学より遅く始まる）が、爆撃によって生き埋めになった。翌日になってやっと掘り出されたが、みると破れて、血に染まった教科書を手にもったままの姿だった。

ほかにもいくつかの実例がある。一九六五年九月二十五日、クインチェン（ゲアン省クインルー県）の小中学校は、すでに軍事的、経済的目標となる地域から程遠いところに疎開し、喜び勇んで新学期を迎えていた。授業を受けている最中に、アメリカ機がやってきて、この学校にも爆弾を投下した。

四年と五年の生徒三一人が死傷したが、なかにはすわったまま死んでいるものもいた。婦人教員一人も重傷を負った。多くの学校では、授業時間を早朝に繰り上げたり、夕方に遅らせたりしていたが、それでも爆撃や機銃掃射を受けた。ナムジン市の学校は、一九六六年五月三十一日、午前五時二十分という早朝に空襲された。同じ日、省都イエンバイの普通、高等の各中学も早朝空襲を受けた。ザンツオン（フート省ハホア県）の小中学校は、午前六時三十分、襲撃された。一九六六年九月十日、ホアビン（ハバク省）の小学校も、補習授業がおこなわれている最中の午前八時四十五分に襲撃された。そのため教室二つが完全に崩壊した。チュンソン協同組合（タンホア省チュエーホア県チエーグエン村）の保育園は、母親たちが午後の仕事に出かけるため子供を預けた矢先に攻撃された。このためアメリカの爆弾で七〇人が殺されたが、そのなかにはゆりかごに入った幼児一五人もいた。保母も何人か重傷を負った。

学校から家に帰る途中のいたいけな生徒がアメリカの爆撃を受けたという地域もある（タンホア省チュエーソン県ホブタン村）。一九六六年の早春のある日、午前十一時ごろ、低学年の生徒一七人が、用心して小班にわかれて帰宅していた。ハイウェイにさしかかったとき、ジェット機の一群が突っ込んできて、ロケットを発射した。子供たちはあわてて、あるものは道路わきに身をふせたが、別の六人は、待避壕をめざして走った。そうする間もなくアメリカの飛行機は五〇から一〇〇キロの弾を九発投下した。このため六人が全部殺され、あとには教科書が半焼けになって、空中に吹き飛ばされていた。

子供をさがしてかけつけた一人の母親も、重い傷を負った。フートの普通中学は、国際教員憲章記

念日にあたる一九六五年十一月二十日に爆撃された。フート教育局のグエン・パン・ギン局長は、身体をばらばらに引き裂かれて悲劇的な最後をとげ、あとには両方の腕と脚の一部しか残らなかつた。学校の研究室とできたばかりの実験室が、完全に破壊された。生徒一人が殺された。普通中学の婦人教員ブ・チ・ニエンは、骨を折って、まだなおらない。五月五日と十一日の両日、アメリカの爆弾と銃弾はふたたびサドアイ(ゲアン省)の二つの神学校に注がれ、両校の校長のグエン・ドイ・キエン師が殺された。

3 アメリカ侵略者がひき起こしたベトナム民主共和国の

教育の損害

アメリカによる学校の銃爆撃は、著しい人命の損失をひき起こしている。一九六六年九月までに、学童三三一人が殺され、一七二人が負傷し、教員三五人が殺され、三二人が負傷している。

最も死傷者の多い省はハチン省である。学校に対するアメリカの空襲は一一八回におよび、その結果学童一〇一人、教員四人が死亡、学童七六人、教員一六人が負傷した。

多数の学童が重傷を負って、勉学を続けられない状態になっている……腕や脚を失ったもの、神経にひどい衝激を受けたもの、いまなお健忘症にかかっているものなどがある。

殺された教員のなかには、母親と二人の子供もろとも殺された婦人教師タン(ハチン省ドクト県)の

ように、両親や子供も一緒に殺されたものもある。ハチンにはそのほか、三人の子供と一緒に殺され、妻とほかの二人の子供が重傷を負ったというロク先生（キアン県）や、三人の子供と一緒に殺され、妻は重傷を負ったというフーロク（カンロク県）のチユオン先生のような人もある。

そのうえ、数百校の学校が破壊されている。ピン高等師範学校は六棟の四階建ての校舎からなり、ピン市でも人口密集地区の中心部にあり、科学研究の設備がじゅうぶん完備しているが、一九六五年の六月七日、七月三十一日、八月一日と、繰り返してアメリカの爆撃を受けた。その損害は数百万ドルにのぼった。県都ホサの小、中、高の三校の財産の損害だけでも、二七万五五〇〇ドルに達した。ハチン省だけで、三七校が完全に破壊され、タンホアの二六校は使い物にならない状態になっている。

学校の実験室や科学設備、とくに大学や高等中学のものが破壊され、科学研究にとって大きな支障となっている。これはベトナム人民だけでなく、科学と共通の進歩にとっても損失である。

アメリカの犯罪は永久に歴史に記録されるだろう。アメリカ帝国主義者は、われわれの学校を野蛮に破壊し、われわれの教師と生徒を虐殺し、われわれの教育事業に干渉している。彼らは、われわれの青年から、勉学の権利という大きな特典を奪い、各主権国家の若い世代がもつ大きな野心、すなわち自国と自分の未来の平和建設のために文化と科学を奉仕させることに努めるという野心を奪おうとしている。

アメリカの計画はきわめて背信的なものであるが、それは、われわれ全人民の抗武救国という鉄の

ような決意はいうまでもなく、われわれの教員や生徒によって打ち破られてきたし、今後も打ち破られるだろう。ベトナムの政府と人民は、アメリカ帝国主義者がわれわれの学校に対してひき起こす損害を少なくするために、多くの積極的な措置をとっている。

4 アメリカの教育機関攻撃に対するベトナム民主共和国 政府の方針と措置

アメリカ帝国主義者がわれわれの教育事業に対する破壊活動を強化し、そのためわが国の若い世代に連日死傷者が出ているにもかかわらず、ベトナムの政府と人民は、いかなる情勢にあらうとも、わが国の教育の発展、強化を促進する決意をかためている。

今年も、また今後きたるべき年も、われわれの教育はいぜんとしてわれわれ人民の子供たちの要求を満たし、同時に幹部と熟練労働者の養成のため、じゅうぶんな数の中高校卒業生を生み出していく。一九六六～一九六七年度は、予定どおりすべての学校が授業を再開した。昨年にくらべ、学校の数は七パーセント、生徒数は六パーセントといずれもふえ、高等中学の生徒数は二八パーセントと異例の増加を記録した。

高等中学の発展と並行して、成人のための補充・技術教育や幼児教育事業もすすめられている。各水準の学校が熱心に、独立と自由を強く望み、国の将来に固い自信をもって、教育の改善と、伝

統的な文化と革命的英雄精神の高揚のため、相互に競っている。人民の助けによって、ベトナムの青年、教員と生徒は、われわれの教育と文化を高める任務のため、確実にあらゆる困難や苦難を克服し、すべての障害を乗り越えるだろう。われわれ全人民とともに、彼らはあらゆるアメリカ侵略者の計画を完全に挫折させ、犯罪行為を打破するだろう。

「付録」

一九六四年八月五日から一九六六年九月までに

アメリカ空軍の爆撃を受けたベトナム民主共和

国の学校の一覧表

ビンリン省

- 一、フォンラブ村の小学校（一九六四年十一月六日から一九六五年五月十日にかけて前後八回の空襲を受ける）
- 二、県都ホサの小学校（一九六五年二月八日）
- 三、ビンチャブ村の小学校（一九六五年三月十一、二十三の両日）
- 四、タンラム村の小学校
- 五、ビンオ村の小学校（一九六五年五月八日）
- 六、ビンタイ村の小学校（一九六五年五月十五日）
- 七、ピンツオン村の小学校
- 八、ベクタアン村の小学校（一九六五年五月二十七日）
- 九、ビンハ村の小中学校（一九六五年八月十二日）
- 一〇、ピンソン村の普通中学
- 一一、県都ホサのビンリン高等中学（一九六五年二月八日）
- 一二、少数民族の青年のための補充教育校（一九六五年八月十二日）
- 一三、ピンツ小学校（一九六六年七月五日）
- 一四、ピンツオン小学校（一九六六年八月十日）
- 一五、ピンケ小学校（一九六六年八月八日）

一六、ビンタン普通中学（一九六六年八月六日）

クアンビン省

- 一、省都ドンホイの小学校
- 二、フーハイ村の小学校
- 三、タントラチ村の小学校
- 四、ダウホア村の少数民族
- 五、ソントイ村の小学校
- 六、ルオンミン村の小学校
- 七、ミホア村の小学校
- 八、ジンフォン村（少数民族地区）の小学校
- 九、バドン小学校
- 一〇、クアンロン小学校
- 一一、サオフォン小学校
- 一二、フォンホア小学校
- 一三、フォンホア小学校
- 一四、カンズオン小学校
- 一五、カンホア小学校
- 一六、バンチャチ小学校
- 一七、ダイチャチ小学校
- 一八、タチツイ小中学校

- 一九、ホンツイ小中学校
- 二〇、キムル小中学校
- 二一、ロクエン普通中学
- 二二、ソントイ普通中学
- 二三、チエンホア普通中学
- 二四、リニン普通中学（一九六五年二月七日）
- 二五、クアンフク普通中学（一九六五年三月二日）
- 二六、バドン普通中学
- 二七、ツエンホア普通中学
- 二八、省都ドンホイの普通中学
- 二九、ボチャチ普通中学
- 三〇、クアンチャチ普通中学
- 三一、クアンキム普通中学
- 三二、クアンタン普通中学
- 三三、キムホア普通中学
- 三四、タンラン普通中学
- 三五、カンズオン普通中学
- 三六、バンホア普通中学
- 三七、ミンホア普通中学
- 三八、ダイフォン普通中学
- 三九、カムツイ普通中学
- 四〇、ジアリン普通中学

- 四一、省都ドンホイの高等中学
- 四二、クアチャチ高等中学
- 四三、ツェンホア高等中学
- 四四、クアンビン普通師範学校
- 四五、クアンビン高等師範学校
- 四六、レニン幼稚園

ハチン省

- 一、スアンザン小学校（一九六四年八月五日）
- 二、スアンリエン小学校（一九六五年二月十日）
- 三、カムニヨン普通中学（一九六五年五月および十月）
- 四、キフォン普通中学（一九六五年三月）
- 五、タチハ小学校（一九六五年四月十五日、一九六五年十月五日、一九六六年三月）
- 六、カンロク普通中学（一九六五年四月二十一日）
- 七、スアンハイ小学校（一九六五年四月二十三日）
- 八、フォンタン普通中学（一九六五年四月二十五日）
- 九、グチンビニ普通中学（一九六五年四月二十八日、一九六六年三月三日）
- 一〇、スアンチョン普通中学（一九六五年五月二十日、一九六五年十一月三日）

- 一一、タチベト普通中学（一九六五年五月、一九六五年八月五日）
- 一二、グエンドゥ普通中学（一九六五年五月、一九六五年二月三日）
- 一三、ドクビン小学校（一九六五年五月）
- 一四、カムハ普通中学（一九六五年五月）
- 一五、フォンソン県の学童がソンレム村で作業中に銃爆撃を受け、教師一人、学童五人が死亡、教師三人、学童七人が負傷（一九六五年六月十七日）
- 一六、チャンフー高等中学（一九六五年六月二十六日のほか、一九六五年七月の二十八、二十九、三十の連日）
- 一七、ハウロク小学校（一九六五年七月）
- 一八、ソンチャウ小中学校
- 一九、フクロク小学校（一九六五年七月）
- 二〇、タチタン普通中学（一九六五年七月、一九六六年一月三日）
- 二一、ダンクアンリン普通中学（一九六五年七月および十一月）
- 二二、ドクラブ小学校（一九六五年七月）
- 二三、タチチン普通中学（一九六五年七月）
- 二四、フォンケ高等中学（一九六五年八月一日、一九六六年六月十六日）

- 二五、省都ハチンの工業学校（一九六五年八月五日）。この学校はさらに三度空襲を受けている。
- 二六、普通師範学校（一九六五年八月六日のほか、さらに二回空襲されている）
- 二七、省都ハチンの「三月八日」幼児学校（一九六五年八月六日）
- 二八、省都ハチンのI A II B学校（一九六五年八月六日）
- 二九、ファンジンファン高等中学（一九六五年八月六日）。この学校はさらに四回空襲されている。
- 三〇、タチケン普通中学（一九六五年八月）
- 三一、フォンタン普通中学（一九六五年八月）
- 三二、フォンソン高等中学（一九六五年十月中に三回）
- 三三、キツト小学校（一九六五年十月二日、一九六六年七月五日）
- 三四、キチン普通中学（一九六五年十月）
- 三五、カオタン普通中学（一九六五年十月）
- 三六、ドクタン小中学校（一九六五年十月、一九六六年四月）
- 三七、ドクフォン小中学校（一九六五年十一月七日、一九六五年二月九日、一九六六年六月六日）
- 三八、キロン普通中学（一九六五年十一月、一九六六年六月六日、一九六六年六月二十五日）
- 三九、ドクニン小学校（一九六五年十二月九日）
- 四〇、ドクチャウ小学校（一九六五年十二月九日）
- 四一、フォンロン普通中学（一九六五年十二月二十日）
- 四二、タチファン普通中学（一九六五年十二月）
- 四三、キハイ小学校（一九六五年十二月）
- 四四、ドクツアン小学校（一九六五年十二月）
- 四五、カムビン小中学校（一九六六年一月十五日）
- 四六、ドクドン普通中学（一九六六年一月）
- 四七、フォンフク普通中学（一九六六年二月九日）。このあとさらに二度攻撃されている。
- 四八、ドクイエンドン小学校（一九六六年十月二日）
- 四九、タチツオン小学校（一九六六年二月十一日、一九六六年七月十五日）
- 五〇、タチロン普通中学（一九六六年二月十二日）
- 五一、カムロン普通中学（一九六六年三月十三日）
- 五二、スアンホン普通中学（一九六六年二月十四日）
- 五三、フォンツイ小学校（一九六六年二月）
- 五四、キアン普通中学（一九六六年三月一日、一九六六年三月七日、一九六六年三月二十一日）
- 五五、ドクニャン小学校（一九六六年三月三日）
- 五六、フォンド小学校（一九六六年三月）
- 五七、タチビン小学校（一九六六年四月十四日）

- 五八、ソッチン普通中学（一九六六年四月二十五日）
- 五九、ソッチェン小学校（一九六六年四月二十六日）
- 六〇、省都の普通中学（一九六六年四月中に四度）
- 六一、キアン高等中学（一九六六年五月二十日）
- 六二、フォンリソ小学校（一九六六年五月）
- 六三、フォンスアン小学校（一九六六年五月）
- 六四、フォンラク普通中学（一九六六年五月）
- 六五、キチャウ小学校（一九六六年五月）
- 六六、タチリン普通中学（一九六六年五月）
- 六七、ドクリエン小中学校（一九六六年五月）
- 六八、ソンジエム小学校（一九六六年六月五日）
- 六九、タチケ小学校（一九六六年六月六日）
- 七〇、スアンハイ小学校（一九六六年六月二十三日）
- 七一、ソソジャン小学校（一九六六年六月二十六日）
- 七二、カムチエン普通中学（一九六六年四月四日）
- 七三、ハチン普通教育補充学校（一九六六年七月二十五日）
- 七四、ドクホン小学校（一九六六年七月）

ゲアン省

- 一、コンタン小学校（一九六五年三月）
- 二、タンズオン小学校（一九六六年三月十九日、一九六六年

四月九日

- 三、タンホン小学校（一九六五年三月十三日）
- 四、チャンソン小学校（一九六五年三月三日、一九六六年五月）
- 五、ジエンロク小学校（一九六五年四月四日）
- 六、ジエンアン小学校（一九六五年四月）
- 七、ジエンミ小学校（一九六五年四月）
- 八、ジエンタン小学校（一九六五年四月）
- 九、チンソン普通中学（一九六五年九月四日）
- 一〇、クインリエン小中学校（一九六五年九月二十三日、一九六六年四月十六日）
- 一一、ギアズン小中学校（一九六五年十一月）
- 一二、クインチエン普通中学（一九六五年十一月、一九六六年三月）
- 一三、クインフォン普通中学（一九六五年十一月）
- 一四、クインバン小学校（一九六五年十一月）
- 一五、クインビン小学校（一九六五年十一月）
- 一六、タンピチ普通中学（一九六五年十一月二十日）
- 一七、フンダオ小学校（一九六六年一月一日、一九六六年四月四日）
- 一八、ギルオン普通中学（一九六六年二月十四日）
- 一九、トソツ小学校（一九六六年二月十九日）

- 二〇、フォンフク小中学校（一九六六年二月四日）
- 二一、フンタイ普通中学（一九六六年二月）
- 二二、フンホア普通中学（一九六六年二月、一九六六年三月十五日）
- 二三、フォンドン普通中学（一九六六年二月）
- 二四、ギアチン普通中学（一九六六年三月十八日）
- 二五、タンミン普通中学（一九六六年四月九日）
- 二六、クインルー高等中学（一九六六年四月）
- 二七、クインハイ普通中学（一九六六年四月）
- 二八、クインホイ普通中学（一九六六年四月）
- 二九、タンチュオン高等中学（一九六六年三月二十日、一九六六年四月二十三日、一九六六年五月十日）
- 三〇、タンパン普通中学（一九六六年四月）
- 三一、ホイソン小学校（一九六六年五月）
- 三二、タンカイ小学校（一九六六年五月十七日）
- 三三、フクソン小学校（一九六六年五月）
- 三四、カオソン小学校（一九六六年五月）
- 三五、ベントイ普通中学
- 三六、ビン高等中学
- 三七、フォンビン小学校
- 三八、ツオンズオン普通・高等中学
- 三九、ギアクアン普通中学（一九六六年六月三十日）

- 四〇、ナムリエン小学校（一九六六年六月）
 - 四一、ツオンズオン労働一般教育学校
 - 四二、キンソンのメオの原文を教える学校
 - 四三、ビン教員養成所（一九六五年六月七日、一九六五年七月三十一日、一九六五年八月八日）
 - ギアザンの幼児学校一五校のほか、ゲアンの中等学校四校（美術、農業、水生動物利用、河川保護の各学校）も銃爆撃を受けた。
- タンホア省
- 一、イエンタイ小学校
 - 二、ホアンロン小学校
 - 三、ミンコイ小学校
 - 四、クアンチエン小学校
 - 五、ハムロン小学校
 - 六、ホアンフォン小学校
 - 七、ハゴク小学校
 - 八、ハフォン小学校
 - 九、クアント小学校
 - 一〇、ハイホア小学校
 - 一一、ニンハイ小学校

- 一二、ジンホア小学校
- 一三、ハイタン小学校
- 一四、ホアンリ普通中学
- 一五、ホアンキ普通中学
- 一六、クアント普通中学
- 一七、ダイロク普通中学
- 一八、タンツイ普通中学
- 一九、トラム普通中学
- 二〇、ビンミン普通中学
- 二一、ハチャウ普通中学
- 二二、イエンタイ普通中学
- 二三、ホアンクアン普通中学
- 二四、ミンコイ普通中学
- 二五、ハムロン普通中学
- 二六、ハウロク普通中学
- 二七、トビンジェン普通中学
- 二八、ホアンジャン普通中学
- 二九、クアンチン普通中学
- 三〇、ハゴク普通中学
- 三一、ハフオン普通中学
- 三二、チュービエン普通中学
- 三三、省都タンホアの普通中学

- 三四、バンソン普通中学
- 三五、クアンカト普通中学
- 三六、ホアンチュエン普通中学
- 三七、チュービエン普通中学
- 三八、ハチュエン高等中学
- 三九、リンジア高等中学
- 四〇、クアンスオン高等中学
- 四一、チュンソン幼児学校

ナムハ省

- 一、グエン・バン・ク小学校
- 二、チャン・クオク・トアン小学校
- 三、ホアンバン・ツ普通中学
- 四、ホアンバンツ高等中学
- 五、省都フリー小学校
- 六、省都フリー高等中学
- 七、ハイカト普通中学
- 八、省都フリー普通中学
- 九、ナムジン織物コンビナート幼稚園

フート省

- 一、サデク小学校
- 二、チョンチン小学校
- 三、マイツン小学校
- 四、ザンツオン小中学校（一九六六年三月三日）
- 五、ハタチ普通中学（一九六六年三月四日）
- 六、ハロク普通中学（一九六六年四月四日）
- 七、省都フート普通中学（一九六五年十一月二十日）
- 八、ソンスオン普通中学
- 九、省庁官吏の補充教育校
- 一〇、アムツオン高等中学

ニンビン省

- 一、ニンビン普通師範学校
- 二、カンニン小学校

ハタイ省

- タンドク普通中学
- フナイエン省
- ファム・ホン・タイ小学校

タイビン省

- 一、ツイズン小学校
- 二、ナムフン小学校
- 三、ブニン小学校（一九六六年二月）
- 四、ラクダオ普通中学（一九六六年二月）
- 五、ツイホン普通中学（一九六六年八月二日）

ツエンクアン省

- 一、マイラム普通中学
- 二、ダトー普通中学
- 三、ドイビン小学校

ギアロ省

- クアンフイ普通中学

ソンラ省

- 一、チエンソイ小学校
- 二、チエンコアン小学校
- 三、チエンイエン小学校
- 四、チエンファ小学校
- 五、フンパン普通中学

- 六、タオグエン普通中学
 七、ソンラ幼稚園
 八、ソンラ普通師範学校（一九六五年八月十六日、十八日）
 九、トヒユ高等中学
 一〇、モクチャウ高等中学
 一一、省庁官吏の補充教育校
 一二、ソンラ農業学校
- イエンバイ省
- 一、パオダブ小学校（一九六五年七月二十五日）
 二、ドンクオン小学校（一九六五年八月二十日）
 三、ランテプ小学校（一九六五年九月）
 四、マウドン小学校（一九六五年九月）
 五、省都イエンバイ普通中学（一九六五年七月十日）
 六、ドンクオン普通中学（一九六五年八月二十五日）
 七、省都イエンバイ高等中学（一九六五年七月十一日）
 八、省庁官吏の補充教育校（一九六五年七月十日）
 九、普通師範学校（一九六五年七月十一日）
 一〇、省都イエンバイ医学校
 一一、省都イエンバイ幼稚園

各省被爆校表（1964年8月5日～1966年9月末）

省	被爆校総数	小学校	普通中学	小中学校	高等中学	職業学校	補充教育校	幼稚園	その他
1	16	11	2	1	1		1		
2	46	17	20	3	2	2	1	1	
3	74	30	30	5	4	2		1	2
4	62	18	15	3	4	7		15	
5	41	13	23	4				1	
6	9	3	3		2			1	
7	2	1				1			
8	5	3	2						
9	1	1							
10	1		1						
11	3	1	2				1		
12	10	3	2	3	1				
13	1				1				
14	12	4	2		2	2	1	1	
15	11	4	2		1	2	1	1	
計	294	109	104	19	18	16	5	21	

アメリカ侵略者の保健施設に対する犯罪





このマークがみえないというのか——赤十字章も悪魔にとっては爆撃の標的にすぎない



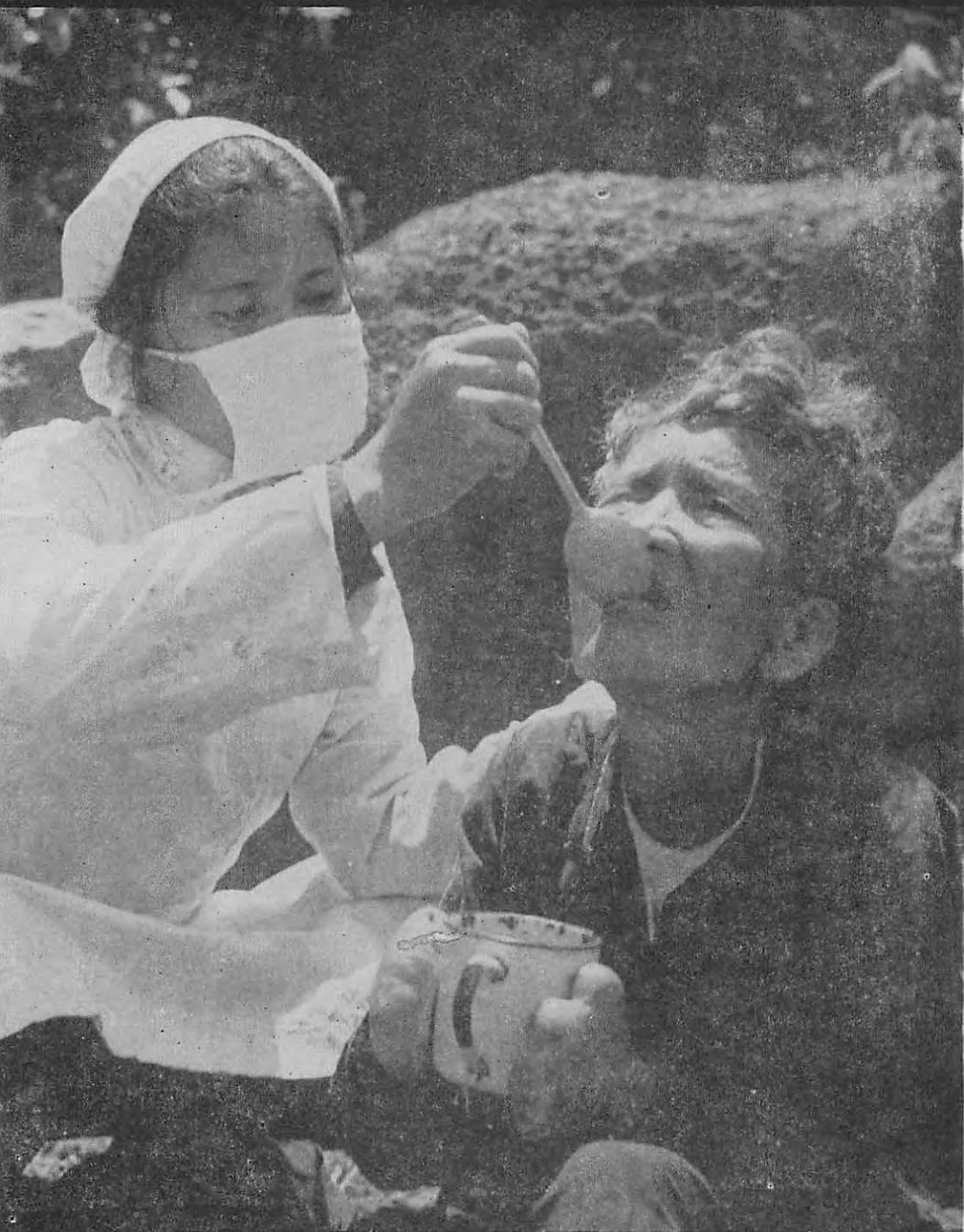
堤防も爆破される (1966・8・6)



病室も



病床も焼かれる



襲後の生存者に薬を与える

それでも新しい生命は生まれ未来は育つ



バオ・ゴクちゃんは母親の胎内にいるとき、母親を貫通した爆弾で負傷したが「死とたたかう生命のためにたたかう」北ベトナム医療保健活動によって出産、母子ともに健在だ。



第四章 ベトナム民主共和国の保健施設に対す るアメリカ侵略者の恐るべき犯罪

1 アメリカ侵略者が北ベトナムにエスカレーションを
開始する以前のベトナム民主共和国の保健制度のい
くつかの特徴

八月革命までは、ベトナム人民は貧困と飢えと病気にさいなまれた生活を余儀なくされていた。全国各地の植民地主義者の保健機関は、病院四七のほか産院が九つ、各都市に散在していただけだった。医療担当者（補助医師ないし医師）は、住民一八万人に一人というありさまで、労働者は病気になる、その場に伏して、最善を祈るだけだった。

八月革命の成功後は、ベトナム民主共和国は初めから、人民の保健改善をみずからの課題とした。しかし、新しく建設された革命政権は、フランス植民地主義者の新たな侵略に対処しなければならなかった。

平和の回復後も、ベトナムの公衆保健所は史上はじめての困難に直面した。人民の保健は、一〇〇年近い従属状況に次ぐ一〇年近くの戦争によって、著しく阻害された。病気対策と人民の健康の保護と改善をめざす闘争は、生活条件、生産、国防を推進するために、緊急の課題とされた。

以前には、地方へ行くと医療機関は一つもなく、一九五五年にやっと村の医療機関や産院が二〇〇できていたものが、一九六四年には北ベトナム全域に医療機関、産院があわせて五二七四個所にみられるようになった。いいかえれば、デルタ地帯の各村では一〇〇パーセント、内陸部の各村では八〇パーセント近くが、医療機関と産院にめぐまれることになった。村民が無料で医療を受けられる保健機関もある。建設現場、林野開発現場、工場、鉱山などには病院が建てられている。いまでは労働者一〇〇人に一つの病床がある。

天然痘やコレラは一九五七年にはやくも一掃され、小児マヒも大体のところ退治できた。トラホーム対策がほとんどすべての村に拡大されている。山岳地帯では、マラリヤもほとんど一掃された。

結核に対する各種の予防策が進められている。広範囲にわたって、結核予防注射が定期的におこなわれている。このため、初めて結核感染率は、一九五八年の二・五パーセントから、一九六四年には〇・八パーセントまでに下がった。

対ライ活動にも、大きな注意が払われている。保健者は多くの病院を新設したが、そのなかでもクインラプの病院は最大で、最善の治療のできるあらゆる設備がととのい、患者も二、六〇〇人を収容できる。

婦人、子供の健康保護にも、大きな業績がみられる。胎児の死亡率も、八月革命以前の二パーセントから急激に下降し、一九六四年には〇・〇四パーセント（五〇分の二）になった。幼児の死亡率は、革命前の三〇パーセントに対して、一九六三年にはわずか二・五八パーセント（二一分の二）に落ちた。一九六四年末現在、各省、各県にそれぞれ病院が設置されている。病床の数は、各村の病院のものを含めて、一九五四年比で一六倍にふえている。一九六四年の訓練された医師の数は、一九五四年の一〇倍も多くなっている。

医学研究も絶えず進められている。現在のベトナム民主共和国には、心臓、肝臓、肺、口蓋ガン：などの外科手術が、比較的高い水準に達している。世界の最新の科学的、医学的知識のベトナムの現状に則した創造的な応用、結核とBCG、ビールスなどの研究、ワクチン製造などのほか伝統的な薬品の研究が、ベトナムにおける病気や伝染病の効果的な対策に役立っている。

要するに、ベトナム労働者と、ホー・チ・ミン大統領を先頭とするベトナム民主共和国政府の指導下で、人民と指導者の努力と決意によって、保健事業が過去一〇年間に数多くの困難を克服し、いまや着実に前進することになったのである。

2 ベトナムの保健機関に対するアメリカ侵略者の 恐るべき犯罪

このように過去二〇年間（そのうち一〇年は大祖国戦争に捧げられた）に幅広い保健施設の確立に成功し、各村、地区、町から中央機関にいたるまで拡充された事實は、実際のところ、ベトナムの全人民に支えられ、助けられた医療労働者数万人の激しい闘争の結果である。このように創造的、人道的な活動の成果が、この二年間にアメリカの侵略者の中で、狂ったように、野蛮に破壊されたのである。

一九六四年八月五日の事件以来、とくに一九六五年二月以来、ベトナム民主共和国に対するアメリカ帝国主義者の空からの破壊戦争によって、保健施設七四個所が爆撃され、機銃掃射され、また破壊されてきた（一九六六年六月三十日現在）。

これらは誤っておこなわれたものか。もちろん、そうではない。事實は、彼らが病院をつぎつぎに爆撃することを決してやめなかったということである。彼らはしばらくの間、連絡路に対する攻撃をおこなっていたが、その後一九六五年の六月、七月、八月の三カ月間に病院に対する機銃掃射を強化し、爆撃を集中し、大規模の特別の病院、療養所六個所をはじめ、クアンビン、ゲアンからソントラ、イエンバイにいたる各省の病院六個所と、県の病院一〇個所を破壊した。この三カ月間における機銃

掃射と爆撃の回数、次のとおりである。

——一九六五年六月、各地の保健施設を二八回にわたって銃爆撃

——一九六五年七月、一九回

——一九六五年八月、二三回

たとえば六月十四日には、彼らはクアンチャチ（クアンビン省）の病院二箇所とバドン療養所を攻撃し、七月二十五日には、ツオンズオン、コンクオン、ゲアンの各病院のほか、クインラプらい病院を機銃掃射した。

アメリカのマクナマラ国防長官は何度も、アメリカの偵察技術なら、北ベトナム領土のすみずみまで写真におさめ、どれほど小さい目標物でも探知することができるかと豪語した。したがって、誤りというものがないことが明白である。それに、病院を兵舎と間違えることなどありえない。たとえばクインラプらい病院がそうである。これは人口密集地や街道から遠く離れた辺境の地に建てられていた。これらの攻撃は進歩的な人類から非難を受け、のろわれているが、それにもかかわらずクインラプらい病院は、一二月カ間に三九回もアメリカの空襲を受けたのである。

保健施設、とくに結核やらいの治療施設を計画的に機銃掃射し、医師や患者を殺すことによって、アメリカ帝国主義者はベトナムに社会的な混乱をひき起こそうと考えたのではなからうか。

彼らが通常われわれの病院に機銃掃射を浴びせにやってくる時刻をみれば、彼らがいかに卑怯であるかがわかるだろう。つまり、午前一時、午前三時、午前五時、正午、午後七時、午後十一時という、

患者が休むか、眠っているかする時刻である。しかも、それだけではない。たとえばイエンバイの病院では、彼らの飛行機が上空を通り過ぎたと思つていたところ、とつぜん引き返してきて、一エーカーに満たない土地に爆弾数十トンを投下し、しかも避難場所や安全な場所をもとめて逃げる患者を追いかけて機銃掃射を浴びせた。クインラプのらい病院でも、谷川に逃げ込もうとするらい患者が、追いかけてられて銃撃されている。現在までに、大きな省の病院はほとんどが爆撃を受けている。ビンリン、クアンピン、ハチン、ゲアン、タンホア、ソンラ、イエンバイ、ナムハ、フーリ、バクタイ、フート、ホアピンなど各省の病院がそうである。とくにピンリンからタンホアにいたる第四地帯の各省では、現在すでに廃墟となつている各省の病院のほかに、各県や村の病院、産院までが攻撃されている。

六、七回にわたつて爆撃された建物も多く、また昼夜にわたつて三九回も攻撃を受け、アメリカの爆撃の被害者を手当てしている医師が殺されたところもある。

たとえばクアンピンの病院は、次のように一一回にわたつて爆撃された。

- 一九六五年二月七日
- 一九六五年二月十一日
- 一九六五年七月二十四日
- 一九六五年七月二十七日
- 一九六五年九月六日
- 一九六五年九月十一日

そのほかハチンの病院は、次のように一七回爆撃された。

- 一九六五年九月十九日
- 一九六五年九月二十三日
- 一九六五年九月二十四日
- 一九六五年十月九日
- 一九六五年十月十四日
- 一九六五年七月三十日
- 一九六五年八月一日
- 一九六五年八月十三日
- 一九六五年九月十日
- 一九六五年九月二十四日
- 一九六五年十月五日
- 一九六五年十月八日
- 一九六五年十月十日
- 一九六五年十月十三日
- 一九六五年十一月十一日
- 一九六五年十一月十八日
- 一九六五年十一月十九日
- 一九六六年四月二十日
- 一九六六年五月十日
- 一九六六年五月十二日
- 一九六六年五月十四日

一九六六年五月二十一日

タンホアの結核病院（一九六五年七月八日）、イエンバイの病院は三日連続して（一九六五年七月九、十、十一日）、クインラプのらい病院（一九六五年六月十二日から一九六六年六月二十四日まで）、それぞれ空襲を受けたが、これらはアメリカの侵略者の最も典型的な犯罪を示すものである。

タンホア結核病院は、病床六〇〇を備え、結核治療と科学研究の設備を完備したものである。北ベトナム中最大の病院の一つである。一九六〇年から一九六四年までに、入院患者一、八二一人のほか、外来患者数万人がこの病院で治療を受けている。一九六五年七月八日、午前七時、この病院はいつものようにあわただしかったが、ちょうどそのときアメリカのジェット機四機が爆弾一〇〇トン余りを投下し、病室五〇近くを破壊したほか、病院付近の民間の家屋多数を破壊し医師五人を含む三人余りを殺し、ほかに多数の負傷者を出した。治療を受けていた患者六〇〇人は、一夜にして適当な手当てを受ける場所を失ってしまった。

その後ひきつづいて、一九六五年七月十四日午後七時に、さらに一九六五年八月八日午前十時に、アメリカ機多数が来襲して、数時間にわたって残っていた建物を銃爆撃し、さらに民間人四人を殺した。イエンバイ省では、三日間連続して（一九六五年七月九、十、十一日）一エーカー足らずの地域にアメリカ機が爆弾数百トンを投下し、病院、事務所、省保健所、予防衛生局、結核予防局、母親のための健康センターなどを攻撃して死者五八人を出したが、そのうち一〇人の死体はみつからなかった。大部分の犠牲者が、医師や医務員だった。アメリカの侵略者はこれによって建物三〇棟を破壊し、

患者一四〇人の宿泊設備、医療設備を奪い去った。母親が子供を連れて、町の病院までやっとたどりついたところを爆撃されたというケースもあった。診察室、レントゲン室、実験室、治療室など、すべて破壊された。

クインラプ療養所は、らい病の治療、研究にかけてはベトナム民主共和国の最大のセンターだった。これは一九五六年六月に建てられ、一九五九年に増築されたものだった。ゲアン省クインルー県の沿岸の人口密集地帯から遠くかけ離れたところであり、大小一六〇の建物は近代設備が完全にととのい、一度に患者二、六〇〇人を収容できるというものだった。この五年間、らい病におかされたもの四、〇〇〇人のうち、一、〇〇〇人が回復し、家庭に戻って正常な生活を送っている。

一九六五年六月十二日午後八時、患者たちが眠っているときに、アメリカ機の大編隊が襲来し、病院がけて爆弾数百発を投下し、ロケット多数を発射したが、その後十日間連続して、十二回にわたって銃爆撃をおこなった。アメリカの爆弾とロケットのため、民家、病棟、研究所、実験室、診療室、薬剤室、クラブ、協同組合店舗、発電所などを含む建物一六〇棟が破壊ないし焼失した。患者一三九人が殺され、一〇〇人余りが負傷した。最善の手当てと保護と最大の愛を与えられなければならないはずのライ患者約二、〇〇〇人は、この野蛮な爆撃を生き抜いたが、いまでは病気に加えて、アメリカの爆弾で受けた傷とも闘わなければならなくなっている。

一九六五年七月十六日、アメリカの侵略者が恐るべき犯罪をおかしたあと、ベトナム民主共和国保健省は、内外の世論に対して、ベトナム民主共和国の各種保健施設に対する計画的な恐るべき爆撃、機銃掃射を告発する声明を発表した。

アメリカ帝国主義者は全世界の諸国民の厳しい非難と軽蔑にもかかわらず、野蛮な空襲をやめなければかりか、それを強化してきた。

一九六六年五月六日の午前八時三十分と正午の二回にわたって、アメリカ機がふたたび襲来し、クインラプ村（ゲアン省クインルー県）にあるクインラプらい病患者療養所の新館を銃爆撃し、三〇人を殺し、三四人を負傷させたが、そのうち一〇人は重傷である。保健省は地上でも天国でも許すことのできないこのような犯罪行為に直面して、一九六六年五月十六日ふたたび声明を発表し、アメリカの侵略者の残虐な、非人間的な行為を強く非難した。それでもアメリカ帝国主義者は頑強に、いっそう熱狂的に犯罪の道に深入りしていった。

一九六六年六月十二日の午前七時と午前十時十五分、一九六六年六月十九日の午前十時三十分、一九六六年六月二十四日の午前十時三十一分、アメリカのジェット機とB 57機数十機が、繰り返し襲来し、この新しい建物を無差別に爆撃し、ミサイルやロケットを発射した。この空襲で患者八人が負傷し、三人が殺された（そのうち一〇人は、七年間の療養のあと退院を翌日にひかえていたところだった）。一九六六年六月三十日までに、クインラプらい病院（新旧いずれの建物も）は、三九回にわたって日夜アメリカの空襲のマトになった。

アメリカ帝国主義者の狂暴な、残酷な性格を暴露するものは、クインラプらい病院の患者を連続的に威嚇し、虐殺しながら、彼らはほとんどすべての県や省の病院に対して空襲を強化し、重大なエスカレーションを続けてきたことである。国際子供の日にあたる一九六六年六月一日、ベトナム民主共和国でも最大の総合診療所の一つに数えられる、病床五〇〇のほか各種設備のととのった母子健康センターのタンホア病院が、アメリカ機によって大きな損害を受けた。この空襲で、死者一四人と負傷者二八人が出たが、そのほとんどが婦人と子供だった。二、三階建ての建物五〇棟近くが焼失し、薬剤室、レントゲン室の実験設備をはじめ、病室、クラブ、講堂などすべて重大な損害を受けた。

一九六六年六月二十二日午後三時、アメリカ機の大編隊は山岳地帯のバクタイ病院を銃爆撃し、これを完全に破壊してしまった。この空襲で九人が殺されたが、そのなかには子供を抱えて死んでいる婦人もいた。

このアメリカによる保健センターの破壊とベトナム民主共和国の患者、医師、医務員の殺害が、ベトナム民主共和国の銃後に混乱の種をまき、ベトナム人民をあわてさせようというジョンソンの裏切り計画の一環であることは、きわめて明白である。

3

アメリカ帝国主義者は保健施設に重大な損害を加えたが、南の解放、北の防衛、ベトナム人民の医療保護をどういふ情況のもとでも実施するわれわれの鉄のような決意をゆるがすことはできない。

一年間のまとめをみると、アメリカ帝国主義者が、ベトナム民主共和国人命と保健施設に大きな損害を加えていることがわかる。八〇にのぼる建物が破壊され、その特殊な設備が大きな損害を受けた。保健分野の幹部や医務員七六人が殺され、二七人が負傷した。患者二五三人が虐殺され、二三人が負傷した。病院付近に住む民間人五七人も、アメリカの爆弾で殺された。

アメリカ帝国主義者は上記のような残虐な銃爆撃をおこなうことよって、ベトナムの医療関係者をおどし、ベトナム民主共和国の保健事業のあらゆる活動をマヒさせようという希望をいだいていた。しかしアメリカの願望とは反対に、また大きな損害にもかかわらず、ベトナム民主共和国の保健事業は、一九六五年から一九六六年にかけて成長し、いちだんと強力になってきた。

——衛生、病氣対策の活動のほか、反米・愛国的な予防衛生運動が、これまでにない規模で発展した。

——母子の健康、幼稚園、未就学児童教室などに対する保護が、ひきつづき発展している。

——爆撃された病院は再建され、拡大されている。救国反米闘争の一年目にあたる一九六六年五月までに、病院の数は一九五五年の二倍にふえた。ライ病患者の療養所と結核対策機関が再建された。

——病気の予防と治療、各種の社会的病気の対策、そのほかベトナム民主共和国の保健事業の課題が、ひきつづき質量の双方の分野で発達している。

——医療要員も拡充されてきている。医師、医務員の数は一・五倍ふえ、村落、農村地帯の女産婦と医務員の数は、二倍近くふえた。

現実に、ピンリン、クアンビン、ハチン、ゲアン、タンホアから、クアンエン、イエンバイ、ソングラ、ハイズオン、ナムハにいたる各地で敵と戦った一年のあいだに、主として村落や地域の医療労働者の隊列が成長しただけでなく、人民の健康管理の活動に多くの勇敢な、花々しい模範を示してきた。

ベトナム民主共和国の保健事業は困難にひるんだことは一度もなく、反対に、北に対するアメリカ帝国主義者の犯罪が狂暴になればなるほど、わが医療労働者はいっそう高く、輝かしい革命の伝統をかかげ、人民と患者の健康を護る栄光ある事業のため、労働党と政府から与えられた任務に対して、いっそう献身的になっている。

最後の勝利まで

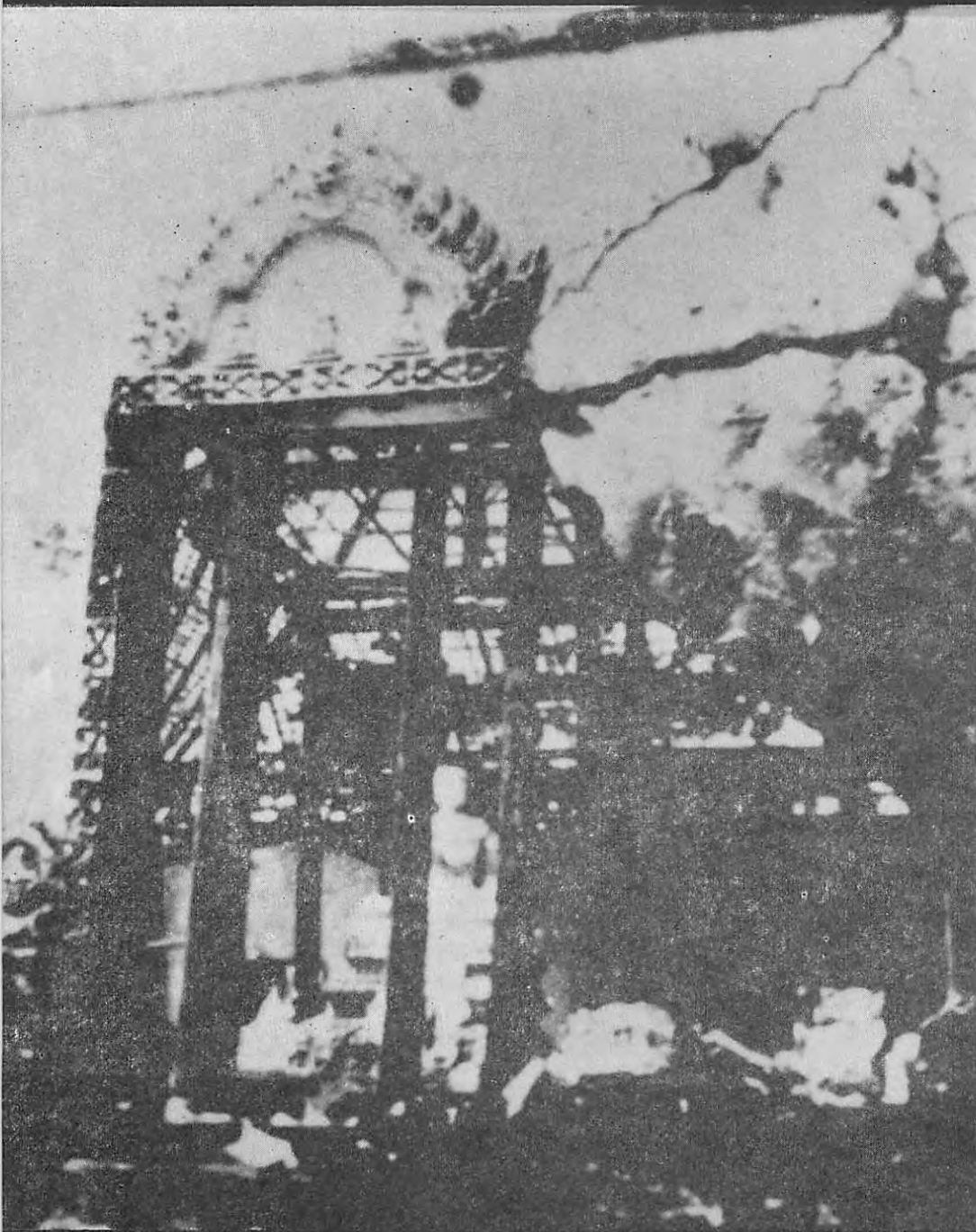


侵略者の最後のあがき



ハノイ、ハイフォン爆撃 (1966・6・29)

建物も町も破かいされる



寺院も





上 すべての屋根瓦がとんだ
下 町全体が破かいされる

第五章 ナムジン市におけるアメリカの戦争犯罪の報告

ナムジン市民の平和な生活が侵略者の魔手によって……

アメリカの侵略者とその手先は、ベトナム民主共和国に対する空からの破壊戦争によって、市民の虐殺、財産の破壊、人口密集地帯をはじめ北ベトナムの多くの町や村の破壊など、数知れない犯罪をおかしてきた。ナムジン市もその犠牲の一つである。

これは五平方キロの面積に、ほとんど婦人、子供からなる九万三〇〇〇人の人口がひしめくという人口密集地帯である。ナムジンの人口密度は非常に高い——一平方キロあたり一万七〇〇〇人が住んでいる。この都市は紅河の右岸にひろがる水田の真中であって、ダオ運河の南、ダイ川の南西にあり、海岸から三〇キロはいったところにある。

ナムジンはさらに有名な織物の町でもある。九年間の破壊的な戦争のあと、一一年かかって織物工

場を復旧、拡大した。一連の新しい工場が建てられた。ナムジンの住民はほとんど全員が労働者や職人で、それぞれ工場で働いているが、その工場のなかでも織物工場は従業員一万三〇〇〇人をかかえており、そのうち七〇パーセントが婦人である。職人だけでも総数一万人を数える。

ナムジンはさらに北ベトナムでも有名な文化の中心地である。古代の史蹟や景勝地が自慢で、そのなかには「学者の園」、学者横町、ビスエン湖などがある。天才詩人チャン・ケ・スオンもここで生まれた。ナムジンの文化の伝統は続き、一般教育学校が精力的に開発されている。ナムジン市には高等教育機関が二つあり、中等学校六、初等学校二〇がそれぞれ完備し、そこに学ぶ生徒、学生の総数は二万四〇六六人にのぼる。このほかにも医学校、第三工業学校、建築学校などの職業学校が数多くある。ナムジン市には、近代設備がととのい、病床の数も多い大きな総合診療所をはじめ、療養所、産院、保育所、幼稚園、映画館、劇場などの公共施設がある。労働者の住宅区は、市内でも最大の設備の一つになっている。

1 アメリカの戦争犯罪

信仰のあるもの、ないものに対するアメリカの戦争犯罪は、ますますふえている。一九六六年七月二十日までに、彼らは一一三五回出撃して、二七〇回の機銃掃射をおこない、各種の爆撃（一部地域

には数千発の榴霰弾を投下)二〇〇〇発を投下し、多くの村や堤防にロケットやミサイルを一八〇〇発撃ち込んだ。ナムジン市に対する彼らの空襲は、民間人に対するものとしては最も残虐な空襲の一つだった。

一九六五年の初め、ナムジン市民の平和な生活はアメリカの侵略者の脅威を直接に受けることになった。

一九六五年一月十七日午前十時三十七分(現地時間)、偵察機一機が同市上空一六キロの高度を飛んだ。一九六五年三月十四日、ジェット機四機がまたも同市上空を偵察飛行した。数カ月の偵察ののち、一九六五年六月二十八日午前七時三〇分(現地時間)、曇り空から激しく降り出した雨について、F 105機二機とF 4 H機二機が同市南方一一キロのところから織物労働者の住宅地区をめがけてプルパップ・ミサイル二発を発射した。この最初の奇襲で、老人二人と子供三人を含む民間人一〇人が死亡、二人が負傷した。この空襲の間に、織工ホアン・チ・シンの家族五人(うち子供三人)が殺された。

一九六五年初頭から一九六六年九月二十日のあいだに、アメリカの侵略者はナムジン市を三三回にわたって攻撃した(一九六五年中に二回、一九六六年の初め九カ月間に二二回)。そのうち夜間攻撃は、一九六五年に三回あり、今年の初め九カ月には一一回おこなわれた。

アメリカの侵略者は、同市のハンタオ、ホアンバンツィ、ハンカウの各地区のほか、労働者の住宅街のように人口の密集したところに銃爆撃をおこなった。彼らは操業中の織物工場を爆撃し、さらに同市を護る堤防を爆破した。アメリカの侵略者はさらに病院、学校、保育所、幼稚園のほか、教会、

パゴダなども破壊するまでにいたった。

彼らはこの都市の銃爆撃に、A 4 A、A 6 A、A 3 J、F 105、F 4 H、R B 57などのように超近代
的な各種の飛行機を使用した。彼らはナムジンの頭上に、M K 81、M K 82、M K 83、M K 84を含む爆
弾七〇〇発、二〇〇トンを浴びせたほか、ブルパップ五四発、ロケット二四八発を発射した。とくに
一九六五年八月四日と一九六六年五月三十一日の二回の空襲では、アメリカは各種の飛行機二七機を
出動させ、一回にそれぞれ百発の爆弾を投下した。

アメリカの操縦士はこのきわめて野蛮な計画を実行するために、故意に、悪意をもって奇襲手段に
訴えた。アメリカの第七艦隊からは海軍機がすばやく発進して沿岸から同市にいたるまでの三〇キロ
を、あるときは紅河、ダイツ川沿いに低空を、さまざまの方向に飛び、またあるときは、雨降りの日
や朝霞の深い日など、厚い雲のなかにかくれて飛んでくる。民間人にとって最も災害の大きかったの
は、一九六五年の半ばから一九六六年九月二十日のあいだに、ヤンキー殺害者たちが一四回にわたっ
てこっそりと夜間攻撃をしかけてきたときだった。

上記の三三回におよぶナムジン市空襲の間に、市民の人命、財産が多大の損害を受けた。子供二三
人、婦人三六人を含む八九人が死亡し、婦人八一人、老人四四人、子供四一人を含む四〇五人が負傷
した。八万六八四七平方メートルの面積にひろがる民家八八一棟（市内の住宅の一三パーセント）が破
壊され、住民一万二四六四人が家を失った。

ハンタオとホアンバンツターの市街地区に対する二回の攻撃のときだけでも、住宅の損害額は数百万

ドン（ベトナムの通貨）にのぼった。

織物工場と同様に、多数の工業、手芸などの企業が攻撃された。アメリカ機は、ナムハ省の堤防や水利施設に数十回にわたって最も野蛮な攻撃を加えたが、それとともにこの都市周辺の堤防網を三回にわたって爆撃し、省内および市内の住民の生命をおびやかした。

ナムジンの住宅地区の機銃掃射のさい、アメリカの侵略者は病院、学校、保育所、幼稚園なども容赦しなかった。同市の病院は二回にわたって爆撃され、診察室、産科室、レントゲン室などが損害をうけた。チャンコクトアン、グエンバンク、ホーツンマウの各学校も、ヤンキーの手で破壊された。織物工場内にある幼稚園も、繰り返し爆撃され、建物多数が焼失し、設備が破壊した。幸い、園児は全員が安全な場所に待避させられていた。公共福祉施設と同様に、病院は特別の地区に建てられ、はっきり赤十字のマークが記されていた。学校や保育所にも、軍事目標と間違えられるような印はなにもなかった。教会、パゴダのほか、神聖な建物には宗教的な目印がついていたが、これらも無差別に機銃掃射を受け、アメリカ機による損害や破壊を受けた。

人口密集地区への容赦ない爆撃の事例

次にアメリカの侵略者による典型的な空襲として、人口密集地区を容赦なく爆撃、機銃掃射した例をいくつかあげておく。

a、一九六六年四月十四日のハンタオ街空襲は、人命に対するアメリカの計画的な最大の攻撃の一

つに数えられるものだった。

ハンタオ街は人口の密集した街で、一万七六八〇人が住んでいた。人々は一九六六年四月十四日までは徹収していて、二三〇〇人しか残っていなかった。残っていたのは生活や仕事のため、工場、企業、協同組合にとどまらなければならない労働者や職人ばかりだった。ハンタオ街の空襲に先だって、アメリカ機は七回にわたってナムジン市上空を偵察した。

——一九六五年十二月一日の午前十時三十五分（現地時間）、F 8 4 機二機は南西から飛来した。

——一九六五年十二月十二日の午前七時二分（現地時間）、A 4 機二機が同市の南東の方向から飛来した。

——一九六五年十二月十八日の午前十時三十二分（現地時間）、六機が同市上空に現われた。

——一九六六年一月十二日の午後二時（現地時間）、F 4 機二機が同市の南部上空に飛来した。

——一九六六年二月四日の午後三時三十五分（現地時間）、四機編成の二編隊が、同市の南東および南西二〇キロの上空で作戦中、同市上空にリーダー妨害物質を投下した。

——一九六六年二月十八日の午後一時五分、F 8 4 機二機が同市から九キロ離れた上空を、南西から北へむけて通過した。

——一九六六年二月七日の午後一時六分、無人機一機が同市上空に飛来した。

午前六時三十分、夜勤から帰宅した人々が眠りについたころ、出勤前の人々が朝食をとっているころ、婦人たちが買物や家事の準備をしているころ、子供たちが幼稚園や幼児教室へ出かける準備をし

ているころ、アメリカ機二機がニンビン街道一〇号線ぞいに低空飛行で襲来し、ハンタオ、ハンカウ、チャンフン、ダオの各街のほかベントク地区にひそかに侵入し、MK 84爆弾八個を投下し、子供一五人、老人八人、婦人二〇人を含む四九人を殺し、一三五人を負傷させ、面積三万一四四〇平方メートルの範囲の家屋二四〇棟を破壊したが、これらの家屋には八一〇世帯四一二九人が住んでいた。

ハンタオ街の空襲については、アメリカの侵略者がひきおこした悲惨な損失を忘れられるものはない一人いない。

——チャン・ザン・バン氏、三〇才は、グエン・チ・キム・ズンと結婚してハンタオ街二八番地に住み、バン・ツオン裁縫業協同組合の支配人だった。四月十四日はちょうど死んだ父親の法要の日にあたり、兄弟姉妹が彼の家に集まっていた。四月十四日の朝、バンは仕事に出かけた。彼の妹のホイは赤ん坊の食事をすませて、買物に出かける用意をしていた。彼女の夫のサンは、ハンモックのなかで、生後五カ月の長男のポ・チ・ツー・ハをあやしていた。二人の姉妹は父親の法要のため、ドラゴン市場であわただしく買い物をしていった。そのとき二人は、とつぜん、ものすごい爆発音を聞いた。ハンタオ街の方向に高く煙が立ちのぼるのを見て、二人は急いで家に帰った。帰る途中にも、こわされた家や、いたるところに散らばった死体が目にはいった。二人の家に残っていたものは、瓦礫の山だけだった。ズンは急いで裁縫業協同組合へ行ってみた。そこも破壊されていた。彼女は地区の幹部といっしよに静かに瓦礫の山を掘り返していったが、一九六六年四月十五日の午前八時、やっと夫の死体をつつけた。みると彼は、ハサミを手にもったままの姿で死んでいた。ホイの方でも、親族の人たち

といっしよに、静かに家跡の瓦礫の山を掘りおこし、一九六六年四月十四日の午前九時になって、やっとサンの死体をみつけたが、みると小さいツー・ハを抱いたまま、二人ともハンモックにくるまっていた。メモジンの市民はホイの言葉を決して忘れないだろう。彼女は「私の父の法要が、夫と弟の長男の葬式を兼ねるようになるとは、夢にも思わなかった」と話していた。

——グエン・チ・クイ夫人、三六才は、一九六三年、四人目の子供キユウ・ズンが生まれようとするときに未亡人になった。彼女は四人の子供——ブエン・カオ・タン、一一才、タン・フォン、八才、タン・ツイ、六才、キユウ・ズン、三才——を育てるのに一生懸命に働いた。一九六五年五月、彼女は三人の娘をチュクニン県のニンクオン村に疎開させた。タンは、伯父のいるタンホアへ行った。彼女は市内にとどまり、線香づくりに励んだ。数カ月して、彼女は子供たちがいなくて淋しくなり、母親の許しを得て三人の娘を市内に連れ帰り、数日のあいだ娘たちといっしよに暮らすことにした。

三人の子供は非常に喜んで一日中歌ったり踊ったりしていた。四月十四日、一家は朝早く起きた。クイ夫人はスूपのなべを取りに台所へ降りて行ったが、そのときすぐ近くで爆弾が破裂し、脚にけがをした。彼女は棒切れにつかまって、子供たちがどうなったかと思つて帰つてみたが、影も形もみえなかった。彼女の近所の人々が長時間かかって掘り起こしたところ、子供たちは死体となって土中に埋まっていた。三人のかわいらしい子供たちはアメリカの侵略者に殺されたのだった。あとに残されたのは三足の靴だけだった。

——ザン・チ・スー夫人、四十二才はカイ氏の妻である。彼女の子供のうち、年上の二人はすでに

働いていたが、下の五人はタイビンに疎開させていた。彼女の最年少の子供は、チャン・チ・ト・ホアンという四才の女の子だった。一九六六年四月の初め、彼女はハシカにかかったので、カイ夫人は市内に連れ戻して、そばに置いて面倒をみた、疎開先からは、一三才になる兄のタイが、彼女を連れ戻しに町へやってきた。タイが妹を連れて家を出たと思った矢先に、アメリカの爆弾で二人とも殺された。スー夫人の次男の小さいフンは爆弾の破片が脇腹と上顎にあたって死んだ。スー夫人は気違いのようになって、地区の幹部らといっしょに、子供たちを病院に運んだ。彼女が子供たちをベッドに降ろそうとしたとき、救急班の幹部の人々が、彼女の夫をかつぎ込んできた。彼は爆風を受け、頭には爆弾の破片だけがをしていた。カイ氏は妻にむかって「子供たちはどうした」とたずねた。彼女は家族の悲劇に直面しながらも、死んで行く夫の心を静めるため、「あなた、心配なさらなくて。みんな大丈夫です」と答えた。その後間もなくして、カイ氏は息をひきとった。地区の幹部たちといっしょに、彼女は夫と子供たちを埋葬した。彼女は悲しみをこらえて、ハンタオ街の空襲の犠牲者を救うため、救急班の仕事に戻った。

——四月十四日の朝、少年ビンは母親のチャン・チ・マイ、三三才と、二人の弟のグエン・ザン・ゴク、六才、グエン・ザン・ツアン、生後四五日、といっしょに眠っていた。一家がまだぐっすり寝込んでいるときに、MK 84爆弾が家の裏で爆発し、三人の子供は死に、その母親は負傷した。ビンは「お父さん、助けて！」と一言残して息をひきとった。ビンの父親は悲しみを抑えて、犠牲者の発掘作業に戻った。

——両親がアメリカの爆弾で殺され、孤児になった子供は何十人もいる。建具師のサン氏は、織物工だった妻をアメリカの爆弾で失い、あとにグエン・パン・ビン、一一才、グエン・パンミン、八才、グエン・チ・ズン、四才、グエン・チ・ホン、二才の四人の子供が残った。ファン・ベト・ハイとその妻は二人とも織物労働者だったが、三人の子供とともに殺された。あとには、それより二五日前に生まれたばかりの一番小さい子供だけが残された。一一才の少年ビンは、この空襲で両親を失ったばかりでなく、手の二箇所を傷を負い、そのため外傷性症状をおこすようになった。彼は両親のことを思い出すたびに、アメリカの侵略者にかたきをとってくれ、と人々にむかって叫んでいる。

——多数の孤児のほかに、アメリカの爆弾で生涯の不具者にされて老人の男女も少なくない。

織物労働者のニュン夫人は、妊娠六カ月で、初産をむかえようとしていた。仕事から帰宅の途中、町の病院の前にさしかかかったとき、爆弾が炸裂し、何重もの壁の下敷きになって脾臓を悪くした。彼女は気絶したが、医者が病院に運び込み、入念な手当てを施した。障害のある脾臓を取り出し、肺臓から凝固した血液を一リットルも取り除いて彼女は助かった。一カ月、彼女は予定より二カ月も早かったが、最初の女の子を生んだ。

b、ハンタオ街の空襲から一カ月たった一九六五年五月十八日、アメリカ機はそれに隣接する人口の多いホアンバンツー街を攻撃した。ホアンバンツー街は、むかしは中国人街と呼ばれていた。この街には一七三四世帯、七八五六人が住んでいた。家屋は古い造りで、なかには一〇世帯が住み、一〇〇人近くを収容するような建物もあった。街路には職人の店や、東西の薬品店、製糸協同組合、中国

系住民のタンクアン寺院、都市の教会などが建ち並んでいた。都市行政委員会はあらかじめアメリカの侵略者の裏切りの計画を読みとり、住民の大部分を疎開させたうえ、防空壕を掘らせていた。五月十八日には、街に残っていたものは二三〇人だけだった。午前十一時四分、住民は昼食中か、あるいは休憩中で、しかもひどい雨が降り、街路は水びたしで、防空壕、掩体壕、塹壕などすべて水が流れ込んでいたとき、F4H機二機が高度六〇〇メートルでひそかに飛来し、爆弾八個を投下し、多くの死傷者を出した。アメリカの侵略者は、激しい雨の最中にこの都市を攻撃したため、被害者は避難する余裕がなかったのである。ドク氏、三八才は、精米所の労働者で、仕事から帰ったばかりのところだった。台所で昼食の用意をしていたところ、家の中央で爆弾が炸裂して、吹き飛ばされてしまった。二つ目の爆弾が教会の正面に落ち、彼はその爆風で水が一ぱいたまった最初の爆弾の穴のなかへはね返されていた。彼の死体は五時間後に、水と瓦礫のなかから引き上げられた。彼のあとには一人の未亡人と三人の孤児が残された。フン氏は、爆発の音を聞いて、とっさに水が一ぱいたまった壕に飛び込んだ。壁が壕のなかに崩れ落ちてきて、彼は溺死し、あとに一人の未亡人と二人の孤児を残すことになった。全部で一三人が死亡、一人が負傷したが、そのなかには、以前ハンタオ街に住んでいて、その街の空襲のときには生き残ったというグエン・パン・ビンという二五才の青年もいた。彼は、そこで家をこわされたので、ホアンバンツォー街に移り住んだのだった。

ホアンバンツォー街の空襲の結果、大きな物質的損害が出た。面積四万六三三三平方メートルの範囲にひろがる民家三七二棟が破壊され、五五五五人からなる世帯一一二九が家を失った。教会地区も爆

撃された。キリストの石像が倒れた、ラクチエン寺院と中国住民の集会場も破壊された。

c、アメリカの侵略者による夜間の奇襲攻撃のため、市内外の住民が大きな損害を受けた。

一九六五年九月十二日午後九時二十四分（現地時間）、A 6 A 機二機がひそかに市上空に飛来し、織物工場の上に爆弾六個を投下、作業中の労働者六人を殺し、二八人を負傷させた。死者のなかには、妊娠四カ月のミン夫人もいた。

一九六六年七月四日午前零時五十分、A 6 A 機二機が同市郊外のミタン村フーロン部落に爆弾二六個を投下、七人家族を含む一二人を殺し、一〇人に負傷させた。

d、アメリカの海賊機は、市内の人口密集地区で虐殺をおこなうほか、人民の日用品を製造する工場や企業も攻撃した。彼らは織物工場を一九回にわたって空襲し、爆弾一〇〇個以上を投下して、大きな損害をひき起こした。対空体制がよかったため、労働者のあいだに人命の損害はなかった。

e、アメリカ帝国主義者はさらに、住民の平和的な活動に対して破壊活動を試み、市周辺の堤防を攻撃した。一九六六年の五月三十一日と七月十四日、彼らは市を洪水から護る全長二キロの堤防に爆弾六個を投下し、多くの個所を破壊した。市民は二〇日間かかって一二〇九立方メートルの土を動かす、破壊された部分を修復した。その翌日、ダオ川の水位が地上〇・四メートルにまで上がって街路にあふれ、さらにひきつづき〇・九メートルに達した。一九六六年七月の後半は、水位が上がる一方で、その間にもアメリカ機は、一九六六年七月二十日午後十一時三十八分、七月三十一日午前二時二十八分と、繰り返しこの堤防を襲撃した。

ナムジン市の堤防の破壊は、ナムハ省の堤防、水利計画に対する系統的な攻撃のごく一部にすぎなかった。これらの空襲は、都市住民とナムハ省民の生命を著しく危険にするものであった。

2 アメリカ帝国主義者は血の借金を支払わねば

ならぬ

アメリカ帝国主義者は、ベトナムに対する侵略戦争の過程を通じて、ナムジン住民に数知れない犯罪をおかしてきた。彼らは各種の新型ジェット機を用いて、爆弾、砲弾、ロケット弾数百トンを、この社会主義の北ベトナムの人口の多い都市に浴びせ、民間人から生まれたばかりの赤ん坊、まだ母親の腹のなかにいる胎児にいたるまで殺し、乳呑み児を含む何十人の子供を孤児にした。

子供や老人を多数含む数百人の人々が、一生働けないという痛ましい姿にされた。彼らは人を殺すことだけでは満足せず、工場、企業、病院、学校、保育所などのほか、数千の民家、ダム、堤防にいたるまで破壊してきた。

ナムジンの住民は、まだこれらの苦しみを記憶に深く刻み込んでいる。アメリカに対する憎しみはこの織物の町の住民の心には、永久に刻まれて残るだろう。市民は全員が、独立、自由、生活の権利をまもって、アメリカの侵略者を打ち破る決意をかためている。アメリカ帝国主義者は、痛裂な反撃を受けている。ジェット機一五機が撃墜され、そのほか多数が撃たれて火を吐き、アメリカの操縦士

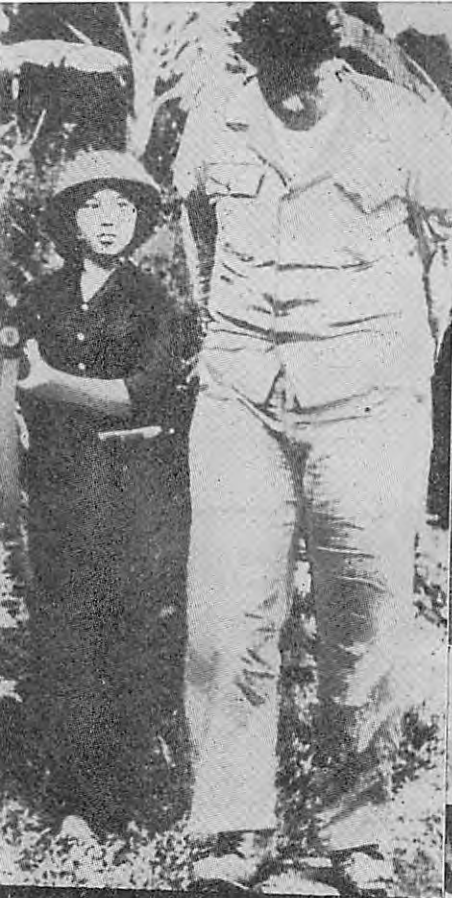
多数が捕虜になっている。アメリカの空襲に対する戦いととも、市民はみずから生活を護るため、積極的に増産を始めている。一九六六年の初め六カ月間に、疎開した市の各工場は、国家計画を達成しないし超過達成した。

ナムジン市民は、全国の人民とともに、一九五四年のジュネーブ協定に認められた民族の権利を擁護する決意をかためている。

ナムハ省のアメリカ帝国主義の戦争犯罪を調査するための委員会は、内外の世論にむかつて、一般にナムハ省民、とくにナムジン市民に対してアメリカの侵略者がおかしているきわめて野蛮な、非人間的な犯罪を、強く告発している。

アメリカのホワイトハウスとペンタゴンの大物は、世界の世論と歴史に対して、この犯罪の責任をとらなければならないだろう。

ナムハ省アメリカ帝国主義戦争犯罪調査委員会



ベトナムにたいするアメリカの 侵略戦争犯罪を告発する

ベトナム法律家協会
日本国際法律家連絡協会
共同声明

一

ベトナム法律家協会の招きに応じ、日本国際法律家連絡協会、平野義太郎副会長は、一九六六年十月十日より二十日まで、ベトナム民主共和国へ友好訪問をおこなった。

平野は、ベトナム民主共和国に滞在中、全心をつくして、「ベトナムにおけるアメリカ帝国主義の戦争犯罪調査委員会」の仕事に助力しながら、アメリカの海空軍により、野蛮に盲爆、地上掃射された住民密集地区、水利施設、堤防、ダムなどの実地調査をおこなった。そして平野は、南・北ベトナムにおけるアメリカ帝国主義の残忍な犯罪にかんする諸証拠の検証・写真などの綴じこみを周密かつ系統的に取調べた。かれは厚生省・教育省・水利施設省に赴いて、それぞれアメリカ帝国主義者の戦

争犯罪調査委員会担当者の説明をきき、さらに南・北ベトナムからの若干の証人から直接の聴取をおこなった。

ベトナム法律家協会の代表、ファン・アン(Phan Anh)は、日本国際法律家連絡協会代表と友好的に、かつ懇篤に話しあつた。

両国代表は、ベトナムにおけるアメリカ帝国主義の戦争強化と拡大から生じつつある現在の重大な情勢について意見を交換した。

両者はベトナムにおける現在の極度に重大な情勢の起源と根元とが、アメリカ帝国主義による侵略政策にあるもので、それによってベトナム人民を奴隸化し、南ベトナムを新植民地に転化し、さらに全インドシナ、東南アジアに戦争を拡大する準備のためのアメリカの軍事基地化を行いつつあるものであると、いうことについて見解が一致した。

二

すでに二十年以上におわたり、アメリカ帝国主義は、きわめて頑迷かつ残酷きわまる不実な策略によつて、内政干渉と侵略の計画を実行にうつしてきた。

強欲な浸透(一九四五—一九五〇)と旧フランス植民地主義との侵略共謀(一九五〇—一九五四)から、ベトナムを永久に分割しようとする計略をもつて、ファシスト・カイライ政府を踏み台にしなから、しかもそのカイライ軍と政府は、ジュネーブ協定で確認されている、民族の独立と祖国の統一を熱望する南ベトナム人民を大量に殺戮しながら、侵略へ(一九五四—一九五九)それから三万のアメリカ軍事顧問団によつて指揮された六〇万のカイライ軍によつて犯された特殊戦争へ(一九六〇—一九六四)、そして、ついに一九六五年から現在へ、すなわち南ベトナムへ直接にアメリカ侵略軍三万をふやして四十万になんなんとする大軍を送りこみ、しかも同時に南ベトナムへの侵略戦争を拡大し——独立、主権国家、社会主義陣營の一員である——ベトナム民主共和国にたいする空襲破壊戦争

を行うにいたった。

以上の歴史的事実こそ、アメリカ帝国主義者のベトナムにおける新植民地主義の積極的な証左に外ならない。この新植民地主義は、「独立」「ベトナム人民の民族自決原則」を尊重するか・米合衆国の「言質」を守るのだとか、「援助」の看板でカモフラージュされ「反共」「自由世界の擁護」をいいふらし、やがて「北ベトナムが南ベトナムを侵略」したかのような誹謗のないがかりを叫ぶにいたっている。

三

かれらが侵略戦争を遂行する過程で、南ベトナムではかれらは、まったくの故意で、非武装人民を「集団的にみな殺し」にし虐待し、拷問にかけ、数百万の人間を「戦略村」「福祉地帯」と称する強制収容所に押しこめ、婦人を死にいたるまで強姦したり、強姦したのちに殺したり、およそ生きとし生けるものは何でも、植物でも、農作物でも、家畜でも、人間でも破壊しつくす戦争で各人口密集せる地域を系統的に盲爆して破壊し荒廃に帰せしめた。

とくにかれらは、南ベトナムの戦場で捕虜になった解放民族戦線の兵士を野蛮な殺し方で虐殺した——生きながらだを八つ裂きにし、手足をもぎとり、兵士の肉を切りおとし、ほらわたをつかみだし、その眼の玉をつぶし、肝臓を抜きとり、人間を生きながら火焙りにしたり、焼き殺したり、生きた人体を米軍の戦車にくくりつけて疾走したり、等々の残忍きわまる殺し方をくりかえしている。

かれらは、北ベトナムを系統的に爆撃し、損害をあたえ、ことに国際法で禁止されている対象物、たとえば人口密集地区、無防備の地域・非武装の公共施設はおろか、病院・学校・キリスト教会・仏寺・堤防・ダム・水利施設・学術的な試験研究所・民衆の多勢集る市場や経済的の公共施設・村々・都会・港そしてベトナム船舶および外国船舶、ベトナムおよび外国の漁船、漁舟を爆撃した。大量に殺戮された非装市民の最大多数は、婦人・老人・子供たち・小中学の幼い生徒たちや病院に入院手当

中の患者、とくにライ病、肺結核患者たちである。

アメリカ帝国主義者は、ベトナムの民族的権利をじゅうりんした。すなわち、独立・主権・統一と領土保全・ベトナム人民による民族自決の権利と基本的人権をじゅうりんした。

四

好戦的なアメリカ帝国主義者が、侵略の罪を犯したことは、つぎの諸宣言・諸条約・国際法とくに戦時国際法の諸原則に照らして明かである。

(1) 一九四五年九月二日のベトナム民主共和国独立宣言。

この宣言はフランス植民地主義者と日本のファシストの支配に敵対する八十年のたたかいののち、全ベトナムに自由にして独立した統一国家、ベトナム民主共和国の創建を宣言している。

(2) ベトナムにかんする一九五四年のジュネーブ協定。

この協定は、ベトナム人民の主権・独立・統一・領土保全の基本的民族権利および民主的自由の権利を尊重し、アメリカをふくむ会議参加国が「ベトナムの内政にたいする干渉もおこなうことを禁止する」ことを基礎としてベトナムにおける平和を回復した。

(3) 一九五四年七月二十一日のアメリカ政府代表の声明。

この声明は「ジュネーブ協定の各条項を確認」し、「国際関係において武力を行使しないという国連加盟国の義務を規定した国連憲章の第二条第四項にしたがい、この協定を妨害するための武力による脅威ないし行使をつつしむであらう」とのべている。

(4) 侵略戦争を禁止、非難し、領土、領海、領空の侵犯を禁止し、あらゆる形の植民地主義を非難し、各国人民の基本的な民族的権利・各民族間の平等の権利、民族自決の権利、人間の基本的な民主的自由の権利を確認し、それをおごそかに宣言した、国際諸協定・条約・議定書。

これには、とくにアメリカも参加し調印して、一九四五年六月二十六日に採択された国連憲章前文、

第一条第二項、第二条第一第二、第四項、一九四五年八月八日のニュールンベルグ国際軍事裁判所条規の第六條、一九四六年十一月・国連総会で再確認された一九四六年一月十九日の東京、極東軍事裁判所条規第五條。一九五五年四月のバンドン會議・最終宣言と十原則、一九四八年十二月・世界人權宣言。

(5) 國際關係における各國の權限と義務をきめた國際法の基本原則、根本規範、民族の權利、とくに各國が自分の國際的義務と公約を尊重しなければならぬことを要求した「バクタ・セント・セルパングの原則」。

(注) ラテン語で「合意は拘束する」という意味。條約・協定・宣言が關係國を拘束するという國際法の根本的規範。

(6) 戰爭犠牲者の保護、とくに非交戰者を保護することを定めた一九四九年八月十二日のジュネーブ條約および開戰にかんする一九〇七年十月十八日のハーグ條約。一九二二年二月のワシントン條約。毒ガスなどの使用を禁止したヘーグ宣言(一八九九年七月二十九日)およびヘーグ「陸戰の法規、慣例にかんする原則」(一九〇七年十月十八日)第二三條、一九二五年六月十七日のジュネーブ議定書。

五

アメリカ帝國主義者とその手先が南北ベトナムでおこなっている数えきれない戰爭犯罪は、非武装市民に加えつつあるその野蠻で非法法の戰爭手段については、すでに前にのべた——ニュールンベルグ國際軍事裁判所で裁判をうけたヒトラー・フアシストの罪惡よりいっそう非人道的であり、いっそう凶惡である。アメリカのこれら戰爭犯罪は、その行為の野蠻さと非人道さからみて、「人道に敵対する犯罪」でもある。ニュールンベルグ國際軍事法廷は、人道に敵対する罪として「戦前・戦時にわたり、非武装市民にたいして犯された殺害・掃滅・奴隸化・追放・その他の非人道的行為、または政治的・人種的・宗教的理由による迫害」をあげている。

アメリカ帝国主義者がベトナムでおこないつつある「人道に敵対する犯罪」はみな殺し（ゼノサイド）を禁止した一九四八年十二月十九日・国連で採択された条約の定義どおり「集団殺害」を適用さるべきであり、この「みな殺し」は最も野蛮で、鬼畜にひとしく、最も非人道的である。かれらはずベトナム人民にたいして「共産主義者」と名づけて非人道的に迫害し、集団的に拘置し、ことさらに同一民族に差別的迫害をおこない、弾圧・みな殺しをはかった。そしてまたベトナム人民を使って、アメリカの破壊とみな殺し手段およびアメリカの新戦略と戦術の実験動物にし、そうして他の国ぐににおける民族解放運動を抑圧し、人類にたいする新世界戦争の準備を行いつつあるものである。

……六……

両国法律家は、つぎの点で一致した見解をもつ。

アメリカが「南ベトナムの独立を支援する」のであるとか、「南ベトナム人民の自決の権利を尊重する」とかということが、いかにトリックにすぎないものであるかということ。北ベトナムが南ベトナムへ侵略したかのようにいうアメリカの誹謗こそ、アメリカ自身の武力侵略行為を蔽いかくす策謀にほかならないこと。まさにそのことこそが、ベトナム人民の革命的闘争の実践的な歴史をまったく否定し、ベトナム問題にかんする基本的な法律文書を完全に否認し、国際法の基礎的な諸原則を全然否定する策謀にほかならないことを証明する。

一九五四年のベトナムにかんするジュネーブ協定や国際法の基礎的な諸原則はアメリカ合衆国が統一ベトナムを分裂させ、あるいは南ベトナムを、北ベトナムとは別の国家にデッチ上げる策謀をけつして許すものではない。

世界の人民と世論は、ベトナム民主共和国の四項目の立場と南ベトナム解放民族戦線の五項目の声明にたいして、ますます好意を増大させ、また、ますます、これを支持するにいたっている。

ベトナム人民の民族的独立、領土保全と統一、民族自決を含蓄するこの立場と声明は、一九五四年

のベトナムにかんするジュネーブ協定の諸規定ならびに国際法の基礎的な諸原則とまさに完全に一致するものである。

両国法律家は堅く確信する、この四項目の立場と五項目の声明は、正義に合致しており、一九五四年ジュネーブ協定以来、南ベトナムにおける情勢の発展にも合致している。したがって、それは、ジョンソン一派が侵略戦争を強化せんがための計画をかくすために「ゴマカシていう「平和交渉」、たとえば、第二一回国連総会に先きだつ「平和攻勢」やマニラ七カ国会議を敗北させてきたし、必ず敗北させてゆくだろう。

つねにかかわらず平和と統一の旗を高くかかげ、つねにかかわらず厳格にジュネーブ条約を堅持し、国際法を尊重しながら、ベトナム人民は深く平和を愛すものであり、しかも真のまことの平和、独立と自由における平和をこそ、ねがっているのであって、アメリカの主張する不正義な条件の下における、台衆国タイプの平和を排撃するものである。

両国法律家のみるところでは、アメリカ帝国主義者がベトナムで泥沼のなかにますます深く陥れば陥るだけ、それだけアメリカの侵略的・好戦的な真の面貌が暴露される。またそれだけに、かれらはますます瘴悪・野獸的に野蠻になってゆき、ますますすべての法を蔑視し、国際慣習法や文明国人道の良心を無視して、かれらの戦争をつづけるであらう。

アメリカ合衆国は帝国主義者の巨魁として、全世界に何千という軍事基地を張りめぐらし、水爆や巨大な軍事潜勢力をもち、世界で最も發達した科学・技術を自由に動かしながら、まだ後進国である一小国にむかつて前代未聞の野蠻な侵略戦争を押しすすめている。この後進の一小国は約一世紀のあいだ植民地権力によって支配せられ、フランス、日本、そしてアメリカ帝国主義による侵略戦争の二十年にわたる長い戦争の苦しみをうけてきたのである。そして、このベトナムに加えるアメリカの罪悪は、ニールンベルグ国際軍事法廷によって裁かれたヒトラー・フアシストの戦争犯罪よりも、もっと凶悪で、もっと重大である。

七

それゆえに、法律家をふくむ世界人民は、アメリカ帝国主義者の侵略戦争の罪、戦争犯罪、人道に敵対する罪を全力をあげて暴露しなければならぬ。そうしてアメリカ帝国主義がベトナム人民にたいして加えている禍害を終らせ、またもし、かれらがベトナムで勝利するなら、世界の他の国の人民に、ためらいもなくまきちらすであらう残虐な禍害を防止しなければならぬ。

両国法律家は世界におけるすべての法律家にたいして緊急・切実にアピールする。法律家は基本的人権と基本的な民族的権利を擁護すべき神聖な使命をもっているのであるから、この意味においてアメリカ帝国主義者の侵略に敵対するベトナム人民を支援する世界人民の戦線のなかで断固として行動するよう訴える。

八

日本の法律家を代表して、平野はベトナム人民が、アメリカ帝国主義の侵略計画を失敗させる断固たる鉄の決意、勇気、そして英雄主義を高く評価し深く賞讃した。ベトナム人民のアメリカ帝国主義の侵略にたいする闘いは、ただに、かれらの民族的諸権利を擁護することをめざしているばかりでなく、全世界の人民の、平和、独立、自由と社会進歩のための闘いにたいしても、貢献をなしているものである。

日本の法律家と人民は、平和を愛好するベトナム人民が、社会主義諸国、共産党・労働者党・民族解放運動、民主主義と平和の世界勢力から支援と助力をうけながら、かれらの闘いを最後の勝利にまで勝ち抜くと堅く信じている。

ベトナムの法律家を代表して、ベトナム法律家協会の代表団は、日本の法律家と人民がベトナム人民のアメリカ帝国主義に反対する反米救国の闘いを支持していることについて心より感謝した。

ベトナム人民は、日本人民と堅く手に手を取りあい、緊密に団結し、アメリカ帝国主義にたいする、また独占資本主義にたいする、そして完全独立、民主主義、平和、中立日本のための日本人民の正義の闘いを心より支持する。

ハノイ 一九六六年十月二十日

ベトナム法律家協会を代表して

フ ア ン・ア ン

(ベトナム法律家協会会長)

日本国際法律家連絡協会を代表して

平 野 義 太 郎

(日本国際法律家連絡協会副会長、
日本学術会議会員、法博)

(注) ベトナム民主共和国の四項目の立場

① 米軍はジュネーブ協定にもとづき南ベトナムから撤退し、北ベトナムにたいする戦闘行為を停止しなければならぬ ② 南北ベトナムは平和的統一まで外国と軍事同盟を結ばず、外国の軍事基地、軍隊を置かせない ③ 南ベトナム解放民族戦線の綱領にもとづく南ベトナム問題の解決 ④ 外国の干渉なしのベトナム平和再統一

南ベトナム解放民族戦線の五項目の声明

① アメリカ帝国主義はジュネーブ協定の破壊者、侵略者でベトナム人民の敵である ② 南ベトナム人民はアメリカ帝国主義を追い出し、南ベトナムを解放し、民族統一を実現する ③ 南ベトナム人民解放軍は、南ベトナムを解放し北ベトナムを防衛する ④ 南ベトナム人民は五大大陸の友人が提供してくれる武器をふくむあらゆる援助をうけ入れる用意がある ⑤ 全人民を団結、武装させ、米侵略者と売国奴(と)を打ちやぶる。

「附録 一」

南ベトナムにおける爆撃およびテロ的襲撃

南ベトナムにたいする大規模介入以来の米軍による爆撃およびテロ的襲撃に関する完全な数的資料を作製することは、まだ不可能である。以下にはもともと典型的な事実を若干あげる事ができるだけである。

▽一九六五年三月から十一月までの間、近傍に「無人地帯」をつくりだすために、米軍基地とりわけダナン、チュライ付近においてテロ的襲撃が実施された。数千ヘクタールの水田が占拠され、村全体が焼かれたり、壊滅させられた。一九六五年八月二日ダナン近くのチョウソンおよびカムレの両村が破壊された。三五〇〇戸の家が戦車のため焼かれたり破壊された。

▽一九六五年十一月から一九六六年四月までに二五万の米兵、五万の衛星諸国兵、四〇万のいかいらい軍兵、ひっくるめて七〇万の兵力が数地域での「乾期攻勢」に投入された。す

なわち、クアレナム、クアンガイ、ビンディン、ブーイエンの各省およびサイゴン西北のサイゴンIIシコロン地域。

空襲、砲撃、作戦に参加した装甲車や兵隊のひきおこした破壊、有毒化学物質の散布などをひっくるめて、これらの作戦のもたらした破壊と死傷者すべてをあげることは至難である。一九六六年第一四半期にサイゴンIIシコロン地域だけでも二万戸の住宅が破壊された。ビンディン省では少なくとも八〇〇〇戸が、ブーイエン省では五〇〇〇戸が焼かれた。サイゴンから二五マイルの、人口六万のチュチ地区では一戸も無傷で残っていない。

*

▽一九六五年南ベトナムにたいして九万九〇〇〇回の出撃がおこなわれ、二五万トンの爆弾が投下された(『ワシントン

化 学 戦

「附録 II」

ン・ポスト』一九六六年二月七日付)。

▽一九六五年南北ベトナムに四八万トンの爆弾が投下された(AFPワシントン電報一九六六年六月二日付)。

▽一九六六年第一四半期に月間五万トンの爆弾が投下された(AP一九六六年六月二日付)。

▽米空軍参謀長マコンネルは、『US ニューズ・アンド・ワールド・リポート』紙に答えて、一九六六年三月米軍機は南ベトナムにたいし三万回の出撃をおこなった……標的をはずすよりは無差別に爆撃した方がよい、と声明した。

▽米空軍は、一九六五年八月五三四九戸の住宅を破壊し、二三〇〇戸に損害をあたえたことを明らかにした(『ニューヨーク・タイムズ』一九六五年九月五日付)。

▽一九六六年一月十七日には四〇四回の出撃がおこなわれ、五三〇戸の住宅が破壊され三〇〇戸が損害を蒙った(UPI一九六六年一月十八日付)。

▽一九六六年三月十日、出撃六四八回(AFP一九六六年三月十一日付)。

▽一九六六年四月二日、出撃五二四回(AFP一九六六年四月二日付)。

▽一九六五年十二月だけで米軍機は五〇〇〇戸の住宅を破壊し、二四〇〇戸に損害をあたえた(南ベトナム解放民族戦線コミニケ)。

南ベトナムにたいする米軍機の資産破壊については新聞電報から果しないリストをつくりあげることができる。

有毒化学物質の散布

散布面積の総計について想起しよう。

一九六三年に三万ヘクタール、一九六四年に五〇万ヘクタール、一九六五年に七〇万ヘクタール。

つぎに重要ないくつかの作戦について列記しよう。

▽一九六五年三月十二日、ビンディン省の数カ村で十七名殺害、多数中毒。

▽一九六五年六月七日から同二十日まで、トラヴィン省で数千ヘクタールの作物が台なしにされ、三万人が中毒。

▽一九六五年八月、ビンディン省の三二カ村にたいし有毒化学物の散布。十万本の果樹が枯れ、数千ヘクタールの作物が荒廃に陥し、二万五〇〇〇人が中毒。

▽一九六五年九月三日、コンツム省の一八〇平方キロメートルにわたり有毒化学物の散布。

▽一九六五年十月八日から十月十八日まで、トアティエン省で三〇〇万本のカサバ樹が枯れる。

▽一九六五年十二月七日から十二月三十日まで、ベントレ省で二万ヘクタールの作物が台なしになり、二〇〇万本のパイナップル樹が枯れ、四万六〇〇〇人および家畜五〇〇万頭が中毒。

▽一九六五年十二月二十八日、カントオ省で一萬ヘクタールの作物が枯れ、一万三〇〇〇人が中毒(うち子供十二人が死亡)。

▽一九六六年一月十日から同二十日まで、ヴィンロン省で一〇〇〇〇人が中毒、一万二〇〇〇〇ヘクタールの作物が破壊される。

▽一九六六年二月二十六、二十七両日、クァンガイ省で数千人が中毒。

▽一九六六年三月十二日、ダルク省で一〇〇平方キロメートルにわたり中毒化学物の散布。

▽一九六六年三月二十日から同二十四日までクァントリ省で二〇〇〇人が中毒。

▽一九六六年四月二四、二五両日、ベントレ省で二〇〇平方キロメートルの作物が枯れる。

▽一九六六年五月十四日、ソクトラン省で六〇平方キロメートルの作物が被害。

▽一九六六年五月末から六月初めにかけて、ゴコン省およびミトオ省で六五〇〇〇人が中毒、一〇〇〇人が死亡(子供、老人、妊婦を含む)。

▽一九六六年六月、ビンディン省で三二〇ヘクタールの作物および数千人が被害。

西方各紙からの抜萃

AFP記者マルク・ヒュッテン、一九六六年三月二十三日付。

「チエライの南方十三キロのブオンディン村はもはや地区のうえでしか存在しない。その村は洪水のような砲火のもとに灰燼に帰した。海兵隊三個大隊のおこなったテキサス作戦の目標となった他の二カ村も同様に灰燼に帰した。……瓦礫の山は打ち倒された草木のかげに埋もれた。米軍の砲弾に傷をうけなかった樹は一本もない。深さ十インチほどの泥水のなかに数十の腐爛死体が投げ込まれていた。村にはたれ一人生き残ったものはいなかった。」

一人の米兵が戦友からやや離れた溝の中に坐って、顔を手で覆って呟いた、『たくさんだ、もうこれ以上つづけるのはごめんだ』。

われ切り、まったくうちおれてかれはつけ加えた、『われわれがここから出ていったあと、村人に残されるのは廃墟

だけだ。もしほくが村人の一人だったらどうするだろう、そう考えずにはおられない……』。

二〇歩ほどかなたには、午後われわれ一行に加わったベトナム駐留米軍最高司令官ウニストモアランド將軍がロウエル・イングリッシュ將軍に祝辞を述べていた。作戦は成功だった……貴下を誇らしく思い、栄光ある海兵隊にお祝いを云うと。

海兵隊砲兵部隊が行動に入るまえの月曜日空軍は二時間にわたってこの溪谷の二カ村につづけさまの爆撃を加えていた……ブオンディンだけで一六七人の死者が出たことは、第四連隊第二大隊の功績に帰せられる。」

AP記者、一九六五年八月二、三両日付。

ダナン近くのカムレ村は、海兵隊砲兵に約一〇〇〇発の砲弾を打ち込まれたのち炎上した。そのあとで海兵隊員が地下

壕狩りを開始した。

A P 記者はつぎのように書いた、「一人の海兵隊員がトーチカに手榴弾を投げ込んだ……暫くして片方が頭を吹き飛ばされた二人の子供の体がトーチカから引き出され、手荒に穀物袋のように地上に投げ出された」。

ロイター記者の一九六六年一月六日付報道。

「アメリカ海兵隊員は昨日当地から南西方の、ベトコン支配の米田地帯を掃討し、ベトナム人の一カ村を焼き払った。目撃者によると、ダナンから十マイル（十六キロ）のヴィンブオン村は完全に破壊された」。

一九六六年二月二十八日付『フィガロ』紙のマックス・クロの記事

「ホノルル会議であれほどのばか宣伝をもって公表された壮大な平定計画は、きわめて重大な欠陥に苦しんでいる。それは、もっとも残忍な戦争の形式すなわち空爆の熾烈化と組合わせとなっているのである。南ベトナムでは毎日平均四〇〇回の出撃がおこなわれている。理屈のうえではこれはベトコンの軍事目標にたいする攻撃である。実際には先験的にベトコン地帯とみなされている広汎なデルタ地区が系統的な連続爆撃をうけているのである。この戦術の真の目的について

かれらにはあえて認めようとしなくても、（かいらい）政府が実権をとりもどすことのできない地帯から非戦闘員住民を引き揚げさせることにある……。もはや農民はひるま田畑に出て働くことができない。」

一九六六年四月七日付『レクスプレス』紙より。

韓国兵はこのジャングル戦に迅速に適応した。たとえば『タイム』紙特派員は報じている、韓国軍中尉の一人が最近ある小屋で婦人とその子供たちが食事をとっているのを目撃した。中尉はただちに飯米の配給量が三人にしては多すぎることに気付いた——米兵なら気付かないことだが。かれはベトコンが潜んでいると推測した。ただちにその飯米に毒を盛った。足元に掘った墓の端に捕虜を坐わらせ、耳のすぐうしろにねらいを定めて射撃することによって口を割らせる、といった手早い仕事のやり方もおこなわれている。これもまた『タイム』紙特派員の報道だが、ベトコンに同情的だと疑われたある村で韓国兵が一人の反徒をとらえ、生きたまま皮をはいで村の中央に吊した……。

オーストラリア兵にとっては、敵兵はその死骸のうえを踏んで歩いたあとでなければ死んだものとは考えられない。また三〇〇米以上もつづく血痕をあとに残さないかぎり、負傷したものととは考えられない。」

一九六二年五月四日付『トリビューン・デ・ナシオン』から化学戦に関する抜萃。

「この有害な作戦は、予想された限界をはるかに越え、宣戦なき戦争の新戦略の実現のためにきわめて不利な一般的反応をひきおこした。あまりにも人目につく二つの事実が、被害者だけでなく、極度の荒唐を目撃して印象づけられた団体や個人からのひじょうによい抗議を喚起した。まず第一に多数の出血を伴う中毒および長時間の意識喪失の症例、第二に約五〇平方キロメートルにわたるゴム園および果樹園のうけた重大な損害。このためまったくの敗残者から農業および手工業経営の所有主にいたる、将校や高官すら多数含む、数万の住民が政府に反対して結集した。」

一九六六年一月五日付『ウォール・ストリート・ジャーナル』から

「農村の小屋は大い地下壕をもっている。熱帯性の暴風雨（および戦争——ベトナムの戦争は二〇年以上つづいてい——）から居住者を庇護するためのものである。現在米兵もしくは南ベトナム兵が敵兵の潜む村を通行するときは、このような隠れ場所の住人から攻撃をかけられる危険があるの、しばしばそこに榴霰弾を投げ込む。この過程で無実のも

のが多数犠牲者となることはまちがいない……。」

一九六六年二月九日付『フランス・オブセルヴァトール』のモーリス・デ・ヴェルジュの論説。

「ベトナムにおけるアメリカの作戦はそのサント・ドミンゴ作戦と同一の目標をもっている。両者とも一国の進化を阻もうとする軍事干渉である……。ある政府がゲシュタポや強制収容所の力をかりて内から達成しえたものを、外国の一強国が外からナバーム、黄燐爆弾、その他類似の手段をもって達成できるであろうか。これこそアメリカのベトナム干渉の提起した問題である。これは外来ファシズムの問題である。」

「附録 IV」

北ベトナムにたいする破壊

▽破壊もしくは重大な被害をうけた省都および地方都市
 ホハ、ドンホイ、バドン、ハティ、ドクトホ、ヴィン、ド
 ウルオン、カウジアト、タンホア、ハムロン、ブウリ、ナム
 デイン、イエンバイ、タイグエン、ソンラ、ランソン、ディ
 エンピエンフー、ヴィエトトリ。

焼失もしくは壊滅した多数の村落は含まず。

▽破壊された病院、医療施設は七四。そのうちにはつぎの
 ものが含まれる。

人口密集地、通信線、軍事目標から遠くへだたつて海岸に
 位置する、一六〇棟、ベッド数二六〇〇からなるクインラッ
 プ瀾研究治療センター。

ベッド数六〇〇をもつティンホアの結核病院七一、重要な
 研究治療センターである。

イエンバイ省の医療施設三〇棟。

▽破壊された学校は二九四にのぼり、多数児童が殺傷され
 た。一九六六年二月九日フォンブク小学校だけで五七人の児
 童が殺傷された。

▽破壊された教会は八〇、寺院は三〇。

ブートオ省のハタツチ教会だけで、一九六六年三月四日六
 三人が殺された。

▽ダムおよび堤防にたいする攻撃。

一九六六年二月から六月まで五五カ所、七月には六九カ
 所。

ラガ(ヴィン・リン地区)、カムリ(クアン・ビン省)、ド
 ルオン(ゲ・アン省)、バイトゥオン(タンホア省)、タクバ
 (イエンバイ省)の各ダム。

ラ河(ハティン省)、ラム河(グエン省)、マ河(タンホ
 ア省)、デイ河、カウ河、トウオン河の各ダム。

紅河の堤防。ミンチャウおよびフウビ（ナムハ省）、トウ
トリ（タイビン省）、ハットタン（ハノイ郊外）の各地点で。
ハドン沿岸堤防（クアンニン省）。一二〇〇ヘクタールの

「附録 V」

アメリカおよび世界の意見

▽一九六五年六月二七日付『ニューヨーク・タイムズ』紙
に掲載されたアメリカの作家芸術家五七九氏の声明抜粋。

「わが国の対外政策が日増しに非人間的になるにつれ、われわれは沈黙を守っているわけにはいかない。わが国の指導者は、ベトナム、ドミニカ共和国における行為によって国際法、国連憲章、そして当然のことながらわが国憲法の精神に違反している。」

▽一九六五年五月十三日付『ニューヨーク・タイムズ』紙
に発表されたアメリカの大学教授および講師一〇〇〇氏署名
の声明の一部。

「ベトナム情勢は、たんに外交上、戦術上にとどまらな

水田が海水に浸される。

▽村落、市場、町にたいし「レージー・ドッグ」破碎爆弾
が広汎に使用されている。

い、重大な道義的問題を提起している。わが国は巨大な力を
そなえている。道理に叶わない野蠻的な目的のためにその力
を使うことを認めることは、アメリカの影響力の基礎そのも
のを危険におとしいれる。」

▽早くも一九五六年アメリカの一教師は、同年四月十一日
付『ニューヨーク・タイムズ』紙で公衆にたいし警鐘をかき
鳴らしている。

「アジアから今までに学ばなければならなかった教訓があ
るとするなら、それは、『人間を殺すことによって』人民の
『運動』を阻止することはできないということである。」

▽一九六六年九月十九日アメリカの科学者がジョンソン大

統領におくった手紙の一部。このうちには六人のノーベル賞受賞者、クレイス・ブロック、コンラッド・ブロック、ロバート・ホフシニクスター、アーサー・コンバーク、フリッツ・リップマン、セヴェロ・オチオアが含まれる。

「本グループは、ベトナムにおける米軍の落葉剤および人体に有害な化学兵器の使用禁止を命ずるよう大統領に熱望する。」

本グループは、細菌兵器および化学兵器に関するアメリカ政府の政策についてホワイト・ハウスが再検討するよう要望する。(AP一九六六年九月十九日付)

▽世界平和評議会議長J・バーナル教授。

「南ベトナム住民にたいしてナバームおよび毒ガスが使用されている。世界の諸国民は、国際法のあらゆる諸原則にたいするアメリカ政府の違反を嫌悪の情をもってみている。すべてこれらの野蛮な行為に終符をうつようかれらは主張している。このような侵略は、東南アジア全体を、そして全世界の平和を脅かすものである。」(一九六五年三月)

▽イギリスの哲学者バートランド・ラッセル卿、一九六六年一月十四日。

「アメリカ合衆国は、国際戦争犯罪裁判にかけられるべきあらゆる種類の犯罪をおかしている。」

▽日本の立教大学教授武谷三男、一九六六年三月二十六日。

「毒ガスの使用は現在のアメリカの政策を反映している。アメリカ人は、ヒトラーすらあえて使わなかったガスを使っている。」

▽国際民主婦人連盟委員長ユージェニー・コットン夫人、一九六五年三月二十三日。

「南北ベトナムにたいする爆撃は一九五四年ジュネーブ協定の違反である。ナバームおよびガスの使用は戦慄すべき野蛮を露呈している。」

▽一九六六年十月イギリス労働党大会において国会議員、ノーベル賞受賞者フィリップ・ノエル・ペーカーは、北ベトナムにたいするアメリカの爆撃をスペインのゲルニカにたいするナチスの爆撃になぞらえた。彼はさらに、たとえアメリカがベトナム人民を敗北させることができたとしても、「ベトナムのみならずアジア全土に怨恨の遺産をのこし、結果はアメリカが希望したものと正反対のものとなる」と述べた。

同じ大会で、ブロックウエイ卿は、ベトナム戦争を「広島以来の、人類にたいする最大の犯罪」であると非難した。

▽一九六四年六月から六五年六月までベトナムにおいて国際監視委員会のカナダ外務省代表として勤務したジョン・パウエル氏は、一九六六年二月十九日および一〇〇〇人が出席した「ベトナムにおけるカナダの役割」に関するトロント会

議でつぎのような講演をおこなった(抜萃)。

「あるアメリカの軍人が彼らの捕えた戦時捕虜(一)について話してくれた。その晩彼らは、捕虜が逃亡しないようにその手を樹に釘付けにした。わたくしは、手足をしばられ、ヘリコプターに積み込まれた二人のベトコン捕虜の例を知っている。二人は捕虜収容所にもどされるのだと考えていたよ

うである。そうではなかった。かれらは収容所に着くまえにヘリコプターから蹴落とされて殺されたのだ……」

われわれの側は捕虜を引きずる——足をゆわえて水田中を引きずりまわすのである。これは捕虜に口を割らせるための試みであるが、云うまでもなくトラクターが止まるまでに捕虜たちは死んでいる。」

「附録 VI」

一、三の 国際条約

(1) 陸戦の法則慣例に関する規則(ヘーグ、一九〇七年)。

第二条 交戦者は害敵手段の選択について無制限の権利を有するものではない。

第三条 特別の条約をもって定めた禁止のほかとくに禁止するものは左の通り。

イ、毒物または毒を施した兵器を使用すること。

ホ、不必要の苦痛をあたえうべき兵器、放射物その他の物質を使用すること。

第二十五条 無防備の都市、村落、住宅または建物はいかなる手段によってもこれを攻撃または砲撃することを禁ぜられる。

第二十七条 攻撃および砲撃をなすにあたっては宗教、技芸、学術、および慈善の用に供される建物、歴史上の記念建造物、病院ならびに病者および傷者の収容所は同時に軍事上の目的に使用されないかぎり、これになるべく損害を免れさせるための必要な一切の手段をとるべきものとする。

(2) 戦時における窒息性有毒物または類似ガスならびに細菌学的兵器の使用禁止に関する議定書（ジュネーブ、一九二五年）。

戦時における窒息性有毒物または類似ガスならびにすべての類似液体、材料または考案物の使用は、文明社会における普遍的世論によって至当に非難されているが故に、

.....

下記の各全権委員は各自政府を代表して左のように宣言する、

各締約国は（.....）この禁止を承認し、この禁止を細菌戦的手段にまで拡張し、この点に相互に拘束されるものと考え

る。

(3) 一九四五年戦勝諸国 ソ連邦、合衆国、イギリス、フランスによって創設されたニュールンベルグ国際軍事裁判所条例

例

第六条 左に掲げた一または数個の行為は個人責任ある犯罪として本裁判所の管轄に属する。

イ、平和にたいする罪すなわち侵略戦争または国際条約、協定もしくは保障に違反する戦争の計画、準備、開始もしくは遂行または上記諸行為のいずれかを達成するための共同計画または共同謀議への参加。

ロ、通例の戦争犯罪すなわち戦争法規または戦争慣例の違反。このような違反は以下に制限されるものではないが、被占領地域の非戦闘員住民の殺害、虐待、奴隷労働またはその他の目的のための追放、捕虜の殺害または虐待、人質の殺害、公的私的財産の掠奪、都市、町、村落の恣意的破壊または軍事的必要によって正当化されない破壊を含む。

ハ、人道にたいする罪すなわち戦前または戦時中なされた殺人、殲滅、奴隷的虐待、追放、その他の非人道的行為または犯行地の国内法違反たるを問わず本裁判所の管轄に属する犯罪の遂行として、もしくはこれに関連してなした政治的、人種的または宗教的集団にたいする迫害。

上記の犯罪のいずれかを犯すための共同計画または共同謀議の立案または実行に参加した指導者、組織者、煽動者および共犯者は当該計画の遂行についてその何人によってなされたかを問わず一切の行為にたいしその責に任ずる。

第七条 国家元首または高位の官吏としての被告の公的地位は、免罪の口実として考慮されることもなく、また刑の軽減の動機としても考慮されない。

歴史の告発書

検印省略

発行日 昭和42年1月25日発行
編者 ベトナムにおけるアメリカの戦争
犯罪調査日本委員会
発行者 木 檜 哲 夫
発行所 労働旬報社
東京都港区芝西久保巴町32
電話(434)3681-5
振替東京 180374
装幀・写真デザイン 天造直子
印刷所 東銀座印刷出版KK
製本所 東京・荻原製本
定価 300円